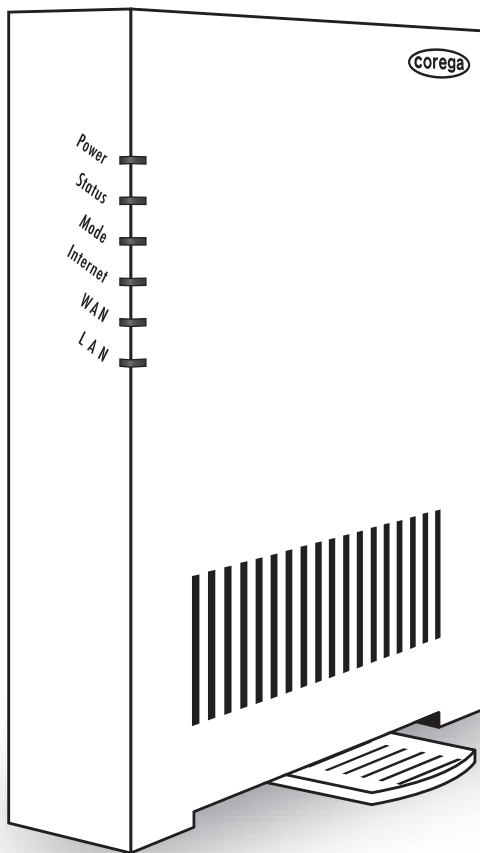
corega

Contents

CG-BARFX3VQ
CG-BARFX3
CG-BARMX3
詳細設定ガイド

Y613-17213-02 Rev.B

はじめに

このたびは、「CG-BARFX3VQ」、「CG-BARFX3」または「CG-BARMX3」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本書は、本商品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただけるように、大切に保管してください。

また、本商品に関する最新情報（ソフトウェアのバージョンアップ情報など）は、コレガホームページでお知らせしておりますのでご覧ください。

http://corega.jp/

本書の読み方

■記号について

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

	操作中に気をつけていただきたい内容です。必ずお読みください。		**補足事項や参考となる情報を説明しています。**

■表記について

本商品	CG-BARFX3VQ、CG-BARFX3 または CG-BARMX3 のことです。
「　」－「　」－「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[　]	[　] で囲んである文字は、画面上のボタンを表します。 例：OK → [OK]
Windows Vista	Microsoft® Windows Vista® Home Basic 、 Microsoft® Windows Vista® Home Premium、 Microsoft® Windows Vista® Business および Microsoft® Windows Vista® Ultimate
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional operating system および Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system
Windows 98SE	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system

※本書では、複数の OS を「Windows Vista/XP」のように併記する場合があります。

■イラスト／画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

マニュアルの種類と使い方

本商品には次のマニュアルがあります。本商品をお使いになる状況に合わせて、それぞれのマニュアルをご覧ください。各マニュアルは、コレガのホームページ（**http://corega.jp/**）で提供しています。必要に応じてダウンロードしてお使いください。

■お使いの手引き（付属）

本商品を使い始めるまでのセットアップ作業について説明しています。また、「Q&A」では代表的なトラブルとその対処方法を説明しています。

■詳細設定ガイド（本書、PDF マニュアル）

各機能の使用方法、本商品の詳しい設定方法を説明しています。

本書の構成

本書は本商品についての情報や、設置・接続・設定方法などについて説明しています。本書の構成は次のとおりです。

■第 1 章 こんなときはこの設定（ルータ設定編）

本商品のルータ機能の設定方法について説明します。

■第 2 章 こんなときはこの設定（サポート編）

本商品の各サポート機能の設定方法について説明します。

■第 3 章 設定画面について

本商品の設定画面について説明します。

■第 4 章 パソコンのネットワーク設定

パソコンのネットワーク設定、Web ブラウザの設定について説明します。

目次

第 4 章

第 1 章
こんなときはこの設定（ルータ設定編）

この章では、本商品を活用していただくための設定方法について説明します。本章での説明は、本商品およびパソコンがネットワークに接続されていることを前提にしています。まだ接続されていない場合は、付属の「らくらく導入ガイド」または「お使いの手引き」をご覧ください。

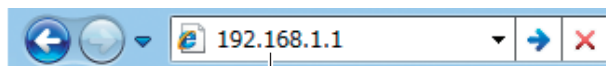
1.1　設定画面を表示するには

本商品の設定画面を表示するには Web ブラウザが必要です。本商品に接続している 1 台のパソコンで設定します。Web ブラウザには本商品の推奨ブラウザをご利用ください。そのほかの Web ブラウザでは、正常に設定できない場合があります。

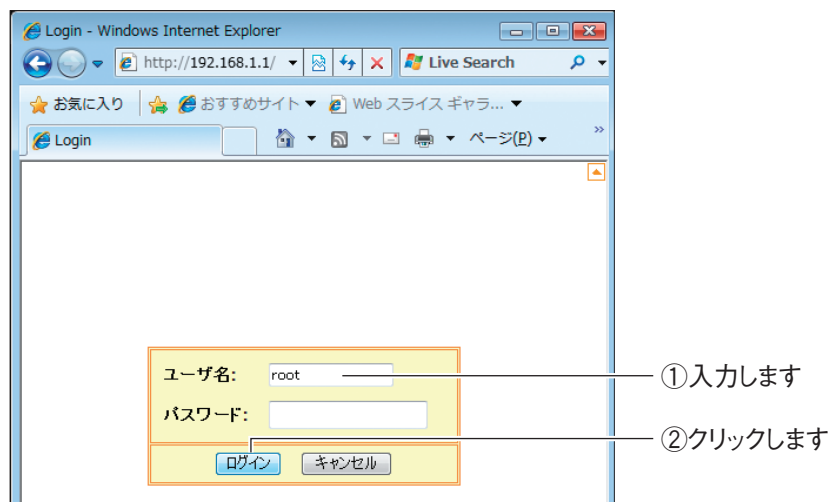
- 本商品を設定する場合には、本商品と設定用パソコンのみを接続することをお勧めします。パソコン以外のネットワーク機器の LAN ケーブルを取り外してください。
- 設定用パソコンでウィルス駆除ソフト、ファイアウォールソフトなどのセキュリティソフトが起動していると、本商品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティソフトを停止させて本商品の設定をしてください。設定作業が終了してから再度起動させてください。

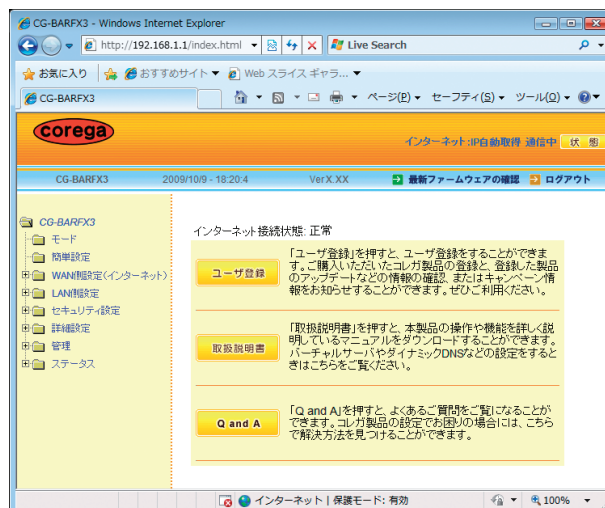
1　Internet Explorer または Safari を起動します。

このとき手順 3 の画面が表示された場合は、そのまま手順 3 へお進みください。

2　アドレス欄に「192.168.1.1」と入力し、Enter キーを押します。

入力します

- ルータ機能を「無効」に設定している場合や、本商品の IP アドレスを変更している場合は、変更後の IP アドレスを入力してください。
- 【Windows のみ】「簡単設定」を使ってルータ機能を「無効」に設定し、Internet Explorer のお気に入りに登録している場合、お気に入りの中から本商品（コレガ CG-BARFX3VQ、コレガ CG-BARFX3 またはコレガ CG-BARMX3）をクリックします。

3　ユーザ名に「root」と入力し、パスワードは空欄のまま［ログイン］をクリックします。

P.38「2.1 ログイン名（ユーザ名）、パスワードを変更するには」で変更した場合は、変更後のユーザ名とパスワードを入力してください。

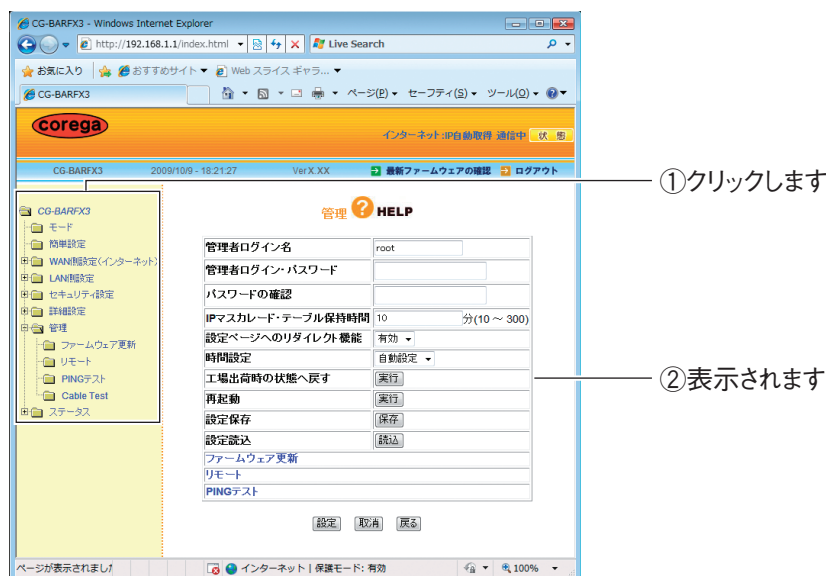
4　設定画面が表示されます。

※画面は、CG-BARFX3 の例です。

設定画面の基本的な操作は、P.10「1.2　設定するには」をご覧ください。

1.2 設定するには

設定画面の基本的な操作を説明します。

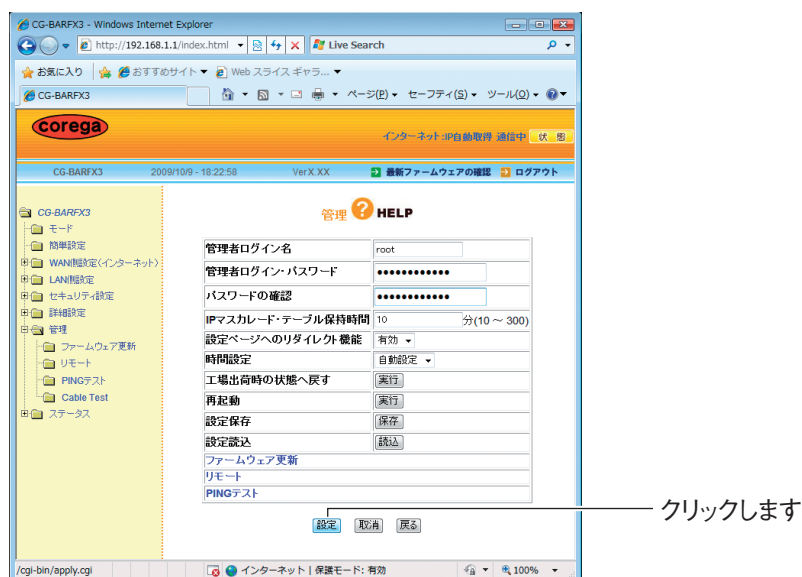
1 **画面左側のメニューをクリックします。**

各設定画面が表示されます。

※画面は、CG-BARFX3 の例です。

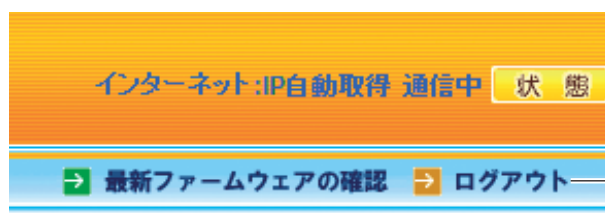
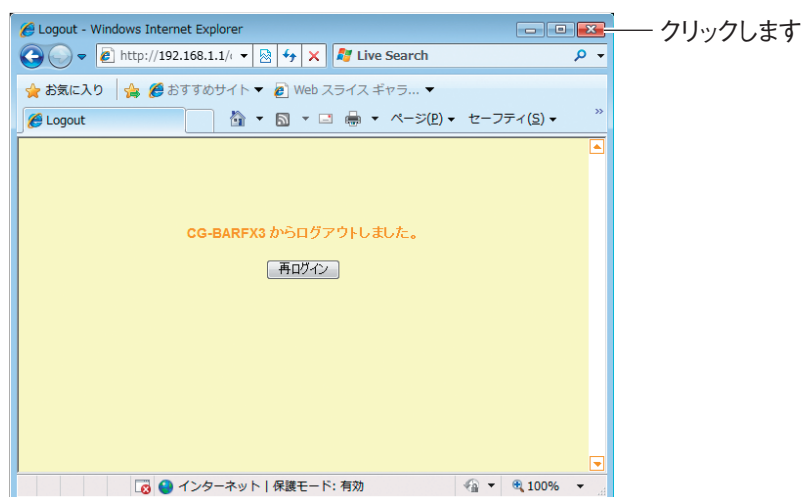
2 **必要な項目を設定します。**

直接入力したり、プルダウンメニューで選んだり、ラジオボタンにチェックを付けたりして、必要な項目を設定します。

3 **正しく設定したことを確認し、［設定］をクリックします。**

［設定］をクリックすると、すぐに設定が有効になります。設定項目によっては、本商品が再起動することがあります。

※画面は、CG-BARFX3 の例です。

・［設定］をクリックしたあとに設定を取り消すことはできません。
・［設定］をクリックする前に設定前の状態に戻すには、［取消］または［戻る］をクリックするか、または画面左側のメニューをクリックします。

4 設定を終了するには、画面右上の「ログアウト」をクリックします。

5 Web ブラウザを終了します。

※画面は、CG-BARFX3 の例です。

以上で本商品の設定は完了です。

1.3　ネットワークゲームをするには

ネットワークゲームは、特定のポートを使ってゲームサーバとデータを送受信するため、本商品のUPnP（ユニバーサルプラグアンドプレイ）または DMZ を使用します。

お使いの回線やプロバイダによっては、ネットワークゲームに対応していない場合がありますのでご注意ください。

工場出荷時の状態では、UPnP は有効、DMZ は無効になっています。

1.3.1　UPnP に対応しているネットワークゲームの場合

UPnP に対応しているネットワークゲームを使用するには、次の手順で UPnP を有効にします。

- UPnP 機能は Windows Vista/XP で使用できます。
- Windows XP の UPnP に関するセキュリティの脆弱性が発見されています。本商品の UPnP を設定する前に、Windows XP の修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法は Microsoft 社にお問い合わせください。

1　設定画面を表示します。

→ P.8 「1.1　設定画面を表示するには」

2　「詳細設定」－「UPnP」の順にクリックします。

3　次のように設定します。

①「UPnP を使用する」を「有効」にします。

②［設定］をクリックします。

4　設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。

以上で設定は完了です。

1

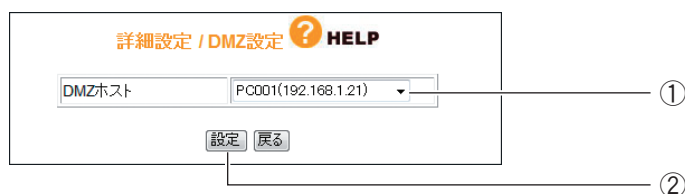
1.3.2　UPnP に対応していないネットワークゲームの場合

UPnP に対応していないネットワークゲームを使用するには、次の手順で DMZ を設定します。

1　**設定画面を表示します。**

→ P.8「1.1　設定画面を表示するには」

2　**「詳細設定」－「DMZ」の順にクリックします。**

3　**次のように設定します。**

①「DMZ ホスト」で使用するパソコンを選択します。

②［設定］をクリックします。

- ①「DMZ ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、P.88「■ PC データベース」でパソコンを手動で登録したあと、手順 2 以降に従ってください。
- ①「DMZ ホスト」に設定したいパソコンのIP アドレスがわからない場合は、P.114「4.1　パソコンの IP アドレスを確認するには」で確認してください。

4　**設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。**

以上で設定は完了です。

1.4　音声／ビデオチャットなどのツールを使うには

Windows Live Messenger、MSN Messenger、Net Meeting は 1 台のパソコンでのみ使用できます。

工場出荷時の状態では、UPnP は有効、DMZ は無効になっています。

1.4.1　Windows Live Messenger

Windows Live Messenger を使用するには、次の手順で UPnP を有効にします

Windows Live Messenger は Windows Vista/XP（SP2）に対応しています。

1　**設定画面を表示します。**

→ P.8 「1.1　設定画面を表示するには」

2　**「詳細設定」－「UPnP」の順にクリックします。**

3　**次のように設定します。**

①「UPnP を使用する」を「有効」にします。

②［設定］をクリックします。

4　**設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。**

以上で設定は完了です。

1.4.2　MSN Messenger（Ver.7.0 以降）

MSN Messenger を使用するには、お使いの環境によって UPnP または DMZ を使用します。

■ Windows XP の場合

Windows XP で MSN Messenger を使用するには、次の手順で UPnP を有効にします。

1　**設定画面を表示します。**

→ P.8 「1.1　設定画面を表示するには」

2　**「詳細設定」－「UPnP」の順にクリックします。**

3　**次のように設定します。**

①「UPnP を使用する」を「有効」にします。

②［設定］をクリックします。

4　**設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。**

以上で設定は完了です。

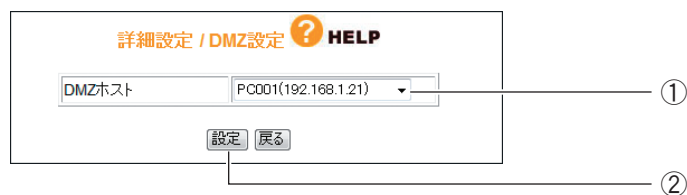
■ Windows 2000/Me/98SE の場合

Windows 2000/Me/98SE で MSN Messenger を使用するには、次の手順で DMZ を設定します。

1　**設定画面を表示します。**

→ P.8 「1.1　設定画面を表示するには」

2　**「詳細設定」－「DMZ」の順にクリックします。**

3　**次のように設定します。**

①「DMZ ホスト」で使用するパソコンを選択します。

②［設定］をクリックします。

・①「DMZ ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、P.88「■ PC データベース」でパソコンを手動で登録したあと、手順 2 以降に従ってください。
・①「DMZ ホスト」に設定したいパソコンの IP アドレスがわからない場合は、P.114「4.1 パソコンの IP アドレスを確認するには」で確認してください。

4　設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。

以上で設定は完了です。

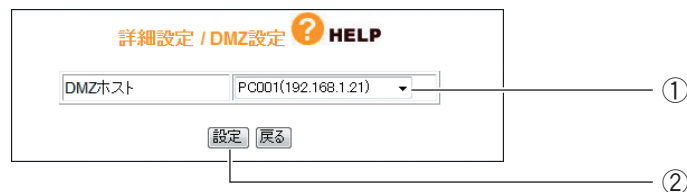
1.4.3 NetMeeting

NetMeeting を使用するには、次の手順で DMZ を設定します。

1　設定画面を表示します。

→ P.8 「1.1 設定画面を表示するには」

2　「詳細設定」－「DMZ」の順にクリックします。

3　次のように設定します。

①「DMZ ホスト」で使用するパソコンを選択します。

②［設定］をクリックします。

①「DMZ ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、P.88「■ PC データベース」でパソコンを手動で登録したあと、手順 2 以降に従ってください。

4　設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。

以上で設定は完了です。

1.5　ポートを開放するには（バーチャルサーバ機能）

オンラインゲームをするときや、サーバを公開するときなど、本商品のバーチャルサーバ機能を使用してポートを開放する必要があります。次の手順で設定します。

1　**設定画面を表示します。**

→ P.8 「1.1　設定画面を表示するには」

2　**「詳細設定」－「バーチャル・サーバ（ポート開放）」の順にクリックします。**

3　**次のように設定します。**

※画面は、Web サーバを公開する例です。

①「接続先」で使用するパソコンを選択します。

②「サービス」で使用するサービスの種類を選択します。選択したサービスに合わせて、「ポート範囲」および「プロトコル」が設定されます。

③「備考」にコメントを入力します（必須ではありません）。

④［登録］をクリックします。

- ①「接続先」に設定したいパソコンが表示されない場合は、P.88「■ PC データベース」でパソコンを手動で登録したあと、手順 2 以降に従ってください。
- ①「接続先」に設定したいパソコンの IP アドレスがわからない場合は、P.114「4.1　パソコンの IP アドレスを確認するには」で確認してください。
- ②「サービス」で「ユーザ定義」を選択したときは、「ポート範囲」および「プロトコル」を設定します。また、「ポート範囲」の「詳細設定」にチェックを付けると、LAN 側ポートと WAN 側ポートを別々に設定できます。

4 設定画面更新後に「バーチャル・サーバテーブル」に設定した内容が登録されていることを確認します。

5 「ログアウト」をクリックします。

以上で設定は完了です。

1.6　マルチ PPPoE で 2 つの接続先を使い分けるには

本商品は PPPoE マルチセッション機能に対応しています。例えば、NTT が提供するフレッツ・スクウェアをお使いの場合、通常のインターネットとフレッツ・スクウェアに同時に接続できるようになります。

1.6.1　プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する

次の手順で設定します。

1　**設定画面を表示します。**

→ P.8 「1.1　設定画面を表示するには」

2　**「簡単設定」をクリックします。**

3　**［次へ］をクリックします。**

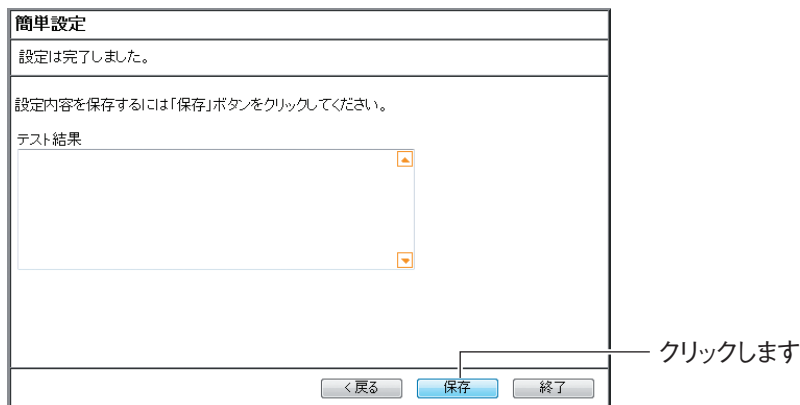
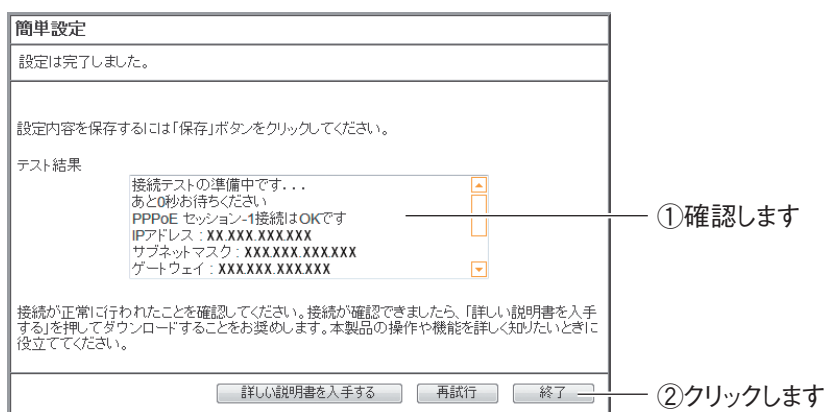
4　**「手動」を選択し、［次へ］をクリックします。**

5 「PPPoE（FLET'S シリーズ）」を選択し、[次へ] をクリックします。

6 「接続ユーザー ID」、「接続パスワード」、「接続パスワードの確認」を入力し、[次へ] をクリックします。

7 「NTT 東日本」または「NTT 西日本」を選択し、[次へ] をクリックします。

8　［保存］をクリックし、接続テストを始めます。

手順 9 の画面が表示されるまでお待ちください。

9　接続テストの結果を確認し、［終了］をクリックします。

以上で設定は完了です。

1.7　複数固定 IP サービスを利用するには

各プロバイダが PPPoE 回線で提供する複数固定IP アドレスサービスを利用すると、プロバイダから割り当てられた複数固定 IP アドレスを本商品および本商品に接続するパソコンに設定して、サーバの公開などができます。

1.7.1　Unnumbered IP

本商品に、グローバル IP アドレスのパソコンのみを接続する場合に設定します。

ここでは、次の設定を例にしています。

本商品の現在の設定（工場出荷時の状態）	
IP アドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
プロバイダからの設定情報（固定 IP アドレス 8 個の場合）	
IP アドレスの範囲	xxx.xxx.xxx.0 ～ xxx.xxx.xxx.7 ※ただし、xxx.xxx.xxx.0 はネットワークアドレス、xxx.xxx.xxx.7 は ブロードキャストアドレスのため、使用できません。
サブネットマスク	255.255.255.248
DNS サーバ 1	○○○ . ○○○ . ○○○ . ○○○
DNS サーバ 2	□□□ . □□□ . □□□ . □□□

上記の固定 IP アドレスを使用するために、本商品および本商品に接続するパソコンを、次のように設定します。

本商品に設定する IP アドレス	
IP アドレス	xxx.xxx.xxx.1
サブネットマスク	255.255.255.248
本商品に接続するパソコンに設定する IP アドレス（最大 5 台）	
IP アドレスの範囲	xxx.xxx.xxx.2 ～ xxx.xxx.xxx.6
サブネットマスク	255.255.255.248
デフォルトゲートウェイ	xxx.xxx.xxx.1
優先 DNS サーバ	○○○ . ○○○ . ○○○ . ○○○
代替 DNS サーバ 2	□□□ . □□□ . □□□ . □□□

1 設定画面を表示します。

→ P.8「1.1　設定画面を表示するには」

2 「WAN 側設定（インターネット)」をクリックします。

3 「PPPoE」を選択し、[セッション -1 設定] をクリックします。

4 次のように設定します。

※画面および設定値は例です。詳しくは、プロバイダからの資料をご覧ください。

① 任意のアカウントを選択します。

②「接続ユーザー ID」、「接続パスワード」、「接続パスワードの確認」を入力します。

③「Unnumbered IP」を選択します。

④ xxx.xxx.xxx.1 を入力します。

⑤ 255.255.255.248 を入力します。

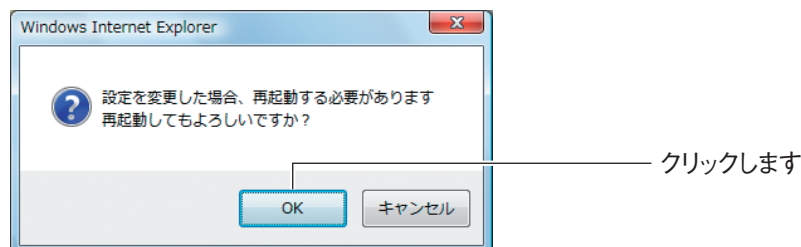
⑥「マニュアル設定」を選択します。

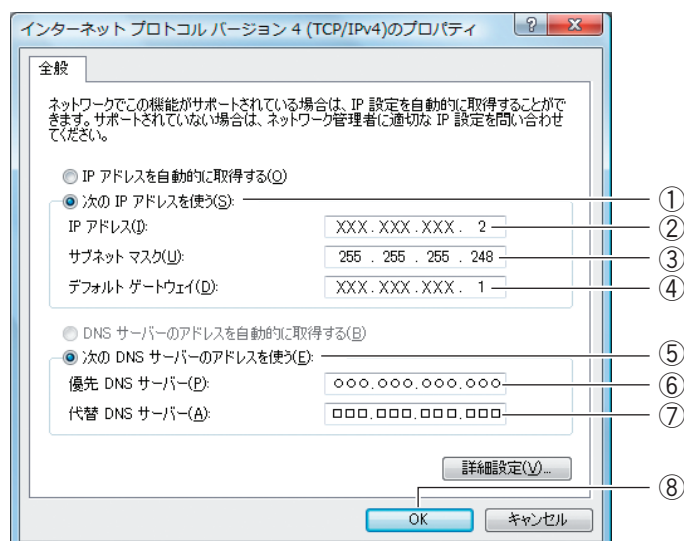
⑦ ○○○ . ○○○ . ○○○ . ○○○を入力します。

⑧ □□□ . □□□ . □□□ . □□□を入力します。

⑨［設定］をクリックします。

5 ［OK］をクリックします。

本商品が再起動し、設定が完了します。

引き続き、本商品に接続するパソコンを設定します。

6 パソコンの IP アドレスを次のように設定します。

※画面および設定値は例です。詳しくは、プロバイダからの資料をご覧ください。

①「次の IP アドレスを使う」を選択します。

② xxx.xxx.xxx.2 を入力します。

③ 255.255.255.248 を入力します。

④ xxx.xxx.xxx.1 を入力します。

⑤「次の DNS サーバーのアドレスを使う」を選択します。

⑥ ○○○ . ○○○ . ○○○ . ○○○を入力します。

⑦ □□□ . □□□ . □□□ . □□□を入力します。

⑧ ［OK］をクリックします。

手順 6 の画面を表示するには、P.119「4.2 パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認するには」をご覧ください。

7 **2 台目以降のパソコンを、次のように設定します。**

2 台目のパソコンの IP アドレスは「xxx.xxx.xxx.3」、3 台目は「xxx.xxx.xxx.4」、4 台目は「xxx.xxx.xxx.5」、5 台目は「xxx.xxx.xxx.6」となります。IP アドレス以外の設定は、1 台目のパソコンと同じです。

※固定 IP アドレス 8 個の場合の例です。詳しくは、プロバイダからの資料をご覧ください。

8 **本商品の設定画面を表示します。**

IP アドレスを設定したパソコンで Internet Explorer または Safari を起動し、本商品に設定した IP アドレス（設定例では「xxx.xxx.xxx.1」）を入力し、Enter キーまたは return キーを押します。

以上で、設定は完了です。

P.72 「3.4.1 PPPoE」もあわせてご覧ください。

1.7.2 Unnumbered IP + Private IP

本商品にグローバル IP アドレスに固定したパソコンだけでなく、プライベート IP アドレスのパソコンを同時に接続する場合に設定します。プライベート IP アドレスのパソコンは、IP マスカレード機能によってインターネットに接続できます。

1 **設定画面を表示します。**

→ P.8 「1.1 設定画面を表示するには」

2 **「WAN 側設定（インターネット）」をクリックします。**

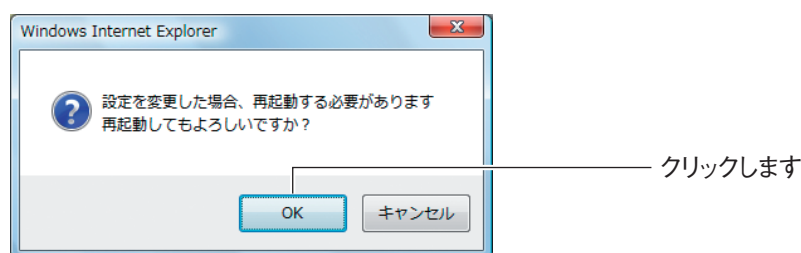
3 **「PPPoE」を選択し、［セッション -1 設定］をクリックします。**

4 「PPPoE サービス・タイプ」で「Unnumbered IP ＋ Private IP」を選択します。

そのほかの設定は、P.22「1.7.1　Unnumbered IP」手順4 をご覧ください。設定が完了したら［設定］をクリックします。

※画面および設定値は例です。詳しくは、プロバイダからの資料をご覧ください。

5 ［OK］をクリックします。

本商品が再起動し、設定が完了します。

6 グローバル IP アドレスを固定するパソコンを設定します。

設定手順は、P.22「1.7.1　Unnumbered IP」手順 6 をご覧ください。

7 プライベート IP アドレスを使用するパソコンを設定します。

IP アドレスを自動取得に設定します。設定手順は、P.119「4.2　パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認するには」をご覧ください。

8　本商品の設定画面を表示します。

① Internet Explorer または Safari を起動します。

② IP アドレスを固定に設定したパソコンでは、本商品に設定した IP アドレス（設定例では「xxx.xxx.xxx.1」）を入力します。IP アドレスを自動取得に設定したパソコンでは、「192.168.1.1」（工場出荷時設定の場合）を入力します。

③ Enter キーまたは return キーを押します。

以上で、設定は完了です。

P.72 「3.4.1　PPPoE」もあわせてご覧ください。

1.8　ダイナミック DNS を使用して URL で接続するには

本商品に接続したパソコンをバーチャルサーバ（ポート開放）などでサーバ公開している場合、グローバル IP アドレスに接続します。しかし、通常は接続するたびに IP アドレスが変更されてしまいますので、割り当てられている IP アドレスを調べる必要があります。

そこで、本商品のダイナミック DNS 機能を使用すると、IP アドレスではなくダイナミック DNS 名でサーバにアクセスできるようになります。IP アドレスが変更されても、アクセス方法が変わらないので便利です。

ここでは、ダイナミック DNS サービスに登録し、ダイナミック DNS を設定する手順を説明します。

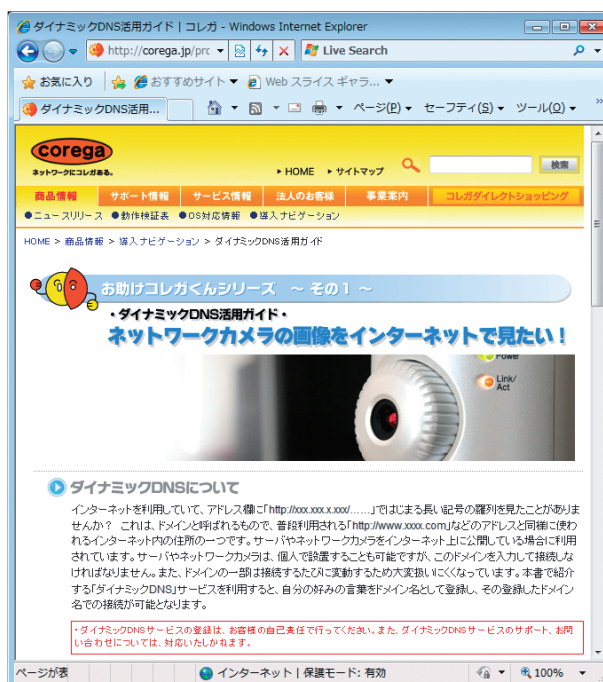
本商品のダイナミック DNS を使用できるのは、ルータ機能が有効（ON）のときのみです。ルータ機能が無効（OFF）のときは、ダイナミック DNS を使用できません。

1　ダイナミック DNS サービスに登録します。

ダイナミック DNS サービスに未登録の場合は、「corede.net」（無料／日本語ページ）、「DynDNS.org」（無料／英語ページ）、「IvyNetwork」（有料／日本語ページ）、@Net DDNS のいずれかのサービスに登録します。

ここでは、「corede.net」（無料／日本語ページ）に登録する例を説明します。

詳しい解説は、コレガホームページ（**http://corega.jp/**）で「商品情報」－「導入ナビゲーション」の順にクリックし、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミック DNS 活用ガイド」をご覧ください（2009 年 10 月現在）。

http://corega.jp/product/navi/ddns/

・本商品が対応するダイナミック DNS サービスは、「corede.net」、「DynDNS.org」、「IvyNetwork」「@Net DDNS」のみです。
・「DynDNS.org」、「IvyNetwork」、「@Net DDNS」が運用するダイナミック DNS サービスについては、サポート対象外となります。
・「@Net DDNS」は @NetHome 会員のみのサービスです。ご利用いただく場合は、あらかじめ @NetHome 加入者サポートページよりダイナミック DNS サービスをお申し込みください。

2 **設定画面を表示します。**

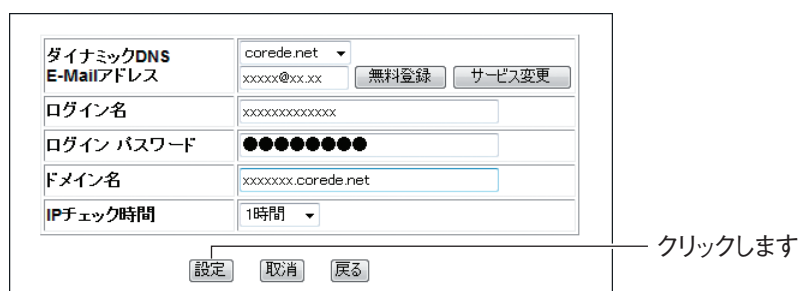
→ P.8 「1.1 設定画面を表示するには」

3 **「WAN 側設定(インターネット)」－「ダイナミック DNS」の順にクリックします。**

4 **ダイナミック DNS で「corede.net」を選択し、メールアドレスを入力して、[無料登録] をクリックします。**

1

5　［OK］をクリックします。

6　設定内容が表示されます。［設定］をクリックします。

登録したメールアドレスに、設定内容が記載されたメールが送付されます。必ず保存してください。

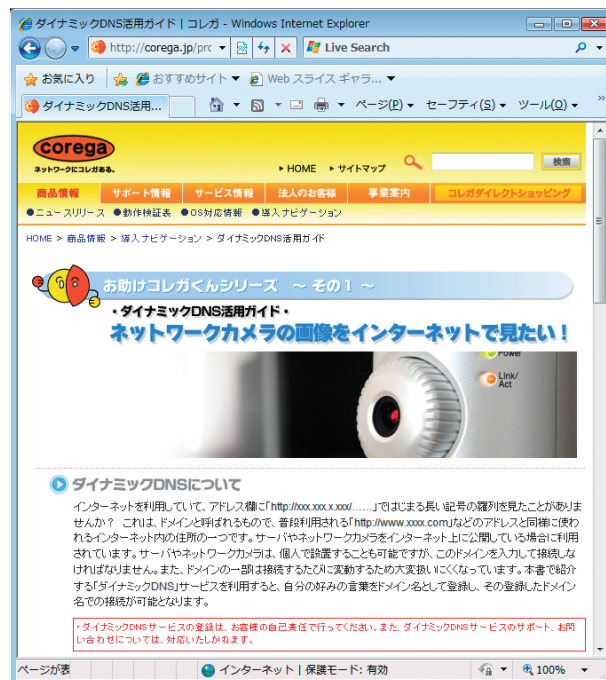
以上で、ダイナミック DNS の設定は完了です。

P.81 「3.4.3 ダイナミック DNS（DDNS）」もあわせてご覧ください。

1.9　外部にネットワークカメラ（カメラサーバ）の映像を公開するには

本商品にコレガ製ネットワークカメラを接続して、撮影した映像をインターネット上に配信できます。
本商品に、次の設定が必要です。

→ **P.17** 「1.5　ポートを開放するには（バーチャルサーバ機能）」
→ **P.29** 「1.8　ダイナミック DNS を使用して URL で接続するには」
→ **P.88** 「■　PC データベース」

詳しい解説は、コレガホームページ（**http://corega.jp/**）で「商品情報」－「導入ナビゲーション」の順にクリックし、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミック DNS 活用ガイド」をご覧ください（2009 年 10 月現在）。
http://corega.jp/product/navi/ddns/

1.10 LAN ポートセパレート機能を使用するには（CG-BARFX3VQ のみ）

LAN ポートセパレート機能とは、LAN ポートをグループ分けして、同じグループ内の通信のみを許可する機能です。簡易的にネットワークを分けるときにお使いください。

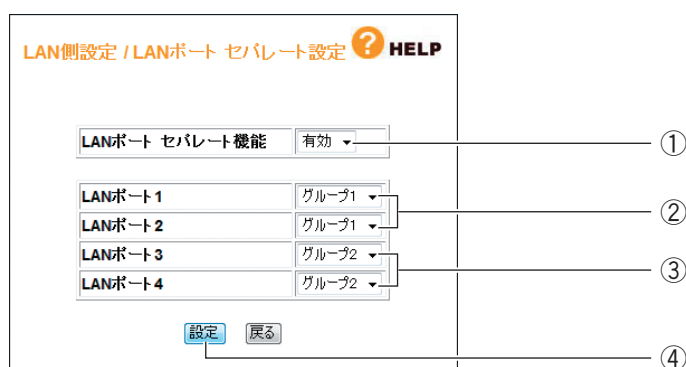
- LAN ポートセパレート機能を使用すると、異なるグループ間の IPv4 のパケット通信を遮断します。IPv6 のパケットは遮断できません。
- Windows Vista は、OS の標準機能として IPv6 にも対応していますので、Windows Vista のパソコンを接続する場合は、IPv6 のパケットは遮断されません。
- 設定できるグループ数は 4 つまでです。
- 本商品のルータ機能が無効の場合、LAN ポートセパレート機能は使用できません。

ここでは、LAN ポート 1 および 2 を「グループ 1」に、LAN ポート 3 および 4 を「グループ 2」に設定する例を説明します。

1 **設定画面を表示します。**

→ P.8 「1.1　設定画面を表示するには」

2 **「LAN 側設定」－「LAN ポートセパレート設定」の順にクリックします。**

3 **次のように設定します。**

① 「LAN ポート セパレート機能」を「有効」にします。

② LAN ポート 1 および 2 を「グループ 1」にします。

③ LAN ポート 3 および 4 を「グループ 2」にします。

④ ［設定］をクリックします。

4 **本商品が再起動します。**

以上で設定は完了です。

1.11 LAN ポートプライオリティ機能を使用するには（CG-BARFX3VQ のみ）

LAN ポートプライオリティ機能とは、LAN ポートの優先度を「High」または「Low」に設定し、「High」に設定したポートの優先度を上げて通信する機能です。大容量データを扱うポートの優先度を「High」に設定することで、ほかのポートの通信よりも優先度が上がり、効率よく通信できるようになります。

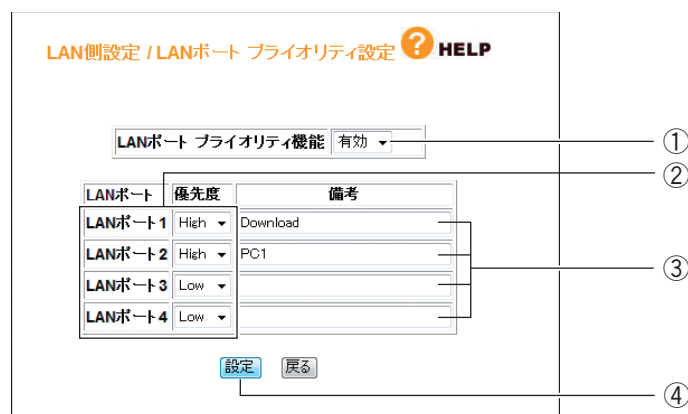
- LAN ポートプライオリティ機能は、IPv4 のパケット通信の優先度を設定できます。IPv6 のパケット通信には効果がありません。
- Windows Vista は、OS の標準機能として IPv6 にも対応していますので、Windows Vista のパソコンを接続する場合は、IPv6 のパケット通信には効果がありません。
- 本商品のルータ機能が無効の場合、LAN ポートプライオリティ機能は使用できません。

ここでは、LAN ポート 1 および 2 を「High」（優先度を上げる）に、LAN ポート 3 および 4 を「Low」（優先度を下げる）に設定する例を説明します。

1 設定画面を表示します。

→ P.8 「1.1　設定画面を表示するには」

2 「LAN 側設定」－「LAN ポートプライオリティ設定」の順にクリックします。

3 次のように設定します。

①「LAN ポート プライオリティ機能」を「有効」にします。

② LAN ポート 1 および 2 を「High」に、LAN ポート 3 および 4 を「Low」にします。

③「備考」にコメントを入力します（必須ではありません）。

④［設定］をクリックします。

4 本商品が再起動します。

以上で設定は完了です。

1.12 本商品をスイッチングハブとして使用するには

ルータ機能付きモデムに接続するときなど、本商品をルータとして使用せずに、スイッチングハブとして使用することもできます。

本商品の DHCP サーバ機能を使用してパソコンの IP アドレスを自動取得にしている場合、ルータ機能を無効にすると DHCP サーバの機能も停止します。ほかに DHCP サーバがない場合は、IP アドレスを手動で設定してください。詳しくは、P.79 「3.4.2 IP 自動取得（DHCP）／ IP 固定」をご覧ください。

1.12.1 ルータ機能スイッチでルータ機能を無効にする

ルータ機能スイッチの位置と、本商品の状態は、次のようになります。

ルータ機能スイッチ	設定画面	本商品の LAN 側 IP アドレス
ルータ機能 ON ↑ OFF	ルータ機能「有効」	192.168.1.1
	ルータ機能「無効」	192.168.1.220 または簡単設定で変更されたアドレス
ルータ機能 ON ↓ OFF	ルータ機能「無効」	192.168.1.220

- 本商品の工場出荷時の場合です。ルータ機能スイッチが「ON」のときは、設定画面でルータ機能の「有効」「無効」を切り替えできます。
- ルータ機能スイッチが「OFF」のときは、設定画面でルータ機能の「有効」「無効」は切り替えできません。

次の手順で、ルータ機能スイッチを切り替えます。

1 **AC アダプタを電源コンセントから抜きます。**

2 **本商品背面にあるルータ機能スイッチを「OFF」にします。**

3 **AC アダプタを電源コンセントに差し込みます。**

以上で、ルータ機能が無効になりました。

本商品の WAN ポートは、LAN ポートとして使用できます。

1.12.2 設定画面でルータ機能を無効にする

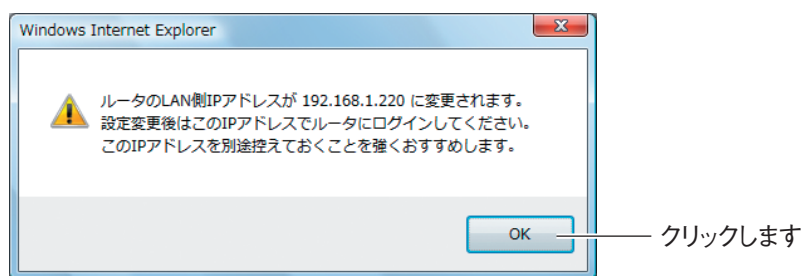
次の手順で、ルータ機能を無効に設定します。

1 **設定画面を表示します。**

→ P.8 「1.1　設定画面を表示するには」

2 **「モード」をクリックします。**

3 **「ルータ機能」で「無効」を選択します。**

4 **[OK] をクリックします。**

変更後の IP アドレスは必ずメモに控えてください。次回設定画面を表示するとき、変更後の IP アドレスを入力する必要があります。

5 **[設定] をクリックします。**

以上で、ルータ機能が無効になりました。

本商品の WAN ポートは、LAN ポートとして使用できます。

第２章
こんなときはこの設定（サポート編）

この章は、本商品の各サポート機能の設定方法について説明します。

2.1 ログイン名（ユーザ名）、パスワードを変更するには

本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードは、次の手順で変更できます。

・新しく設定するログイン名とパスワードを忘れると、本商品の設定画面を表示できなくなりますので、設定内容をメモに控えておいてください。

・ログイン名とパスワードを忘れてしまった場合は、本商品を工場出荷時の状態に戻すことで初期値に戻ります。詳しくは P.64「2.5 工場出荷時の状態（初期値）に戻すには」をご覧ください。

1 設定画面を表示します。

→ P.8「1.1　設定画面を表示するには」

2 「管理」をクリックします。

3 次のように設定します。

① 新しく設定するログイン名を入力します。

② 新しく設定するパスワードを入力します。

③ 確認のため②で入力したパスワードを再度入力します。

④［設定］をクリックします。

4 設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

以上で設定は完了です。

2.2　最新のファームウェアを入手してアップデートするには

本商品の機能強化のため予告なくファームウェアをバージョンアップすることがあります。最新のファームウェアはコレガホームページ（**http://corega.jp/**）から入手してください。

注意

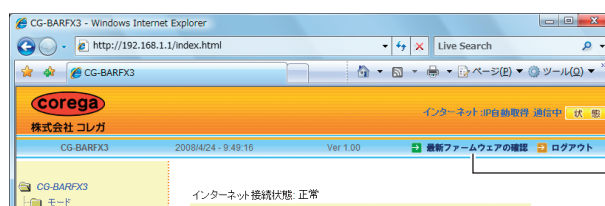
- ファームウェアをアップデートする前に、本商品の設定内容をメモに控えておいてください。
- セキュリティソフトを使用している場合、ファームウェアをアップデートする前にセキュリティソフトを停止し、ファームウェアをアップデートしたあとに、元に戻してください。セキュリティソフトの停止方法については、お使いのセキュリティソフトの取扱説明書をご覧ください。
- ファームウェアをアップデート中は、絶対に本商品の電源を切らないでください。また、設定画面のほかの操作をしたり、アプリケーションを起動したりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗すると、本商品の故障の原因になります。

2.2.1　ファームウェアが最新かどうかを確認する

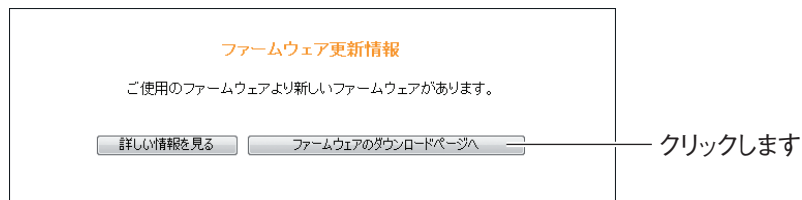
ファームウェアをアップデートする前に、お使いのファームウェアが最新のバージョンかどうかを確認します。

1　**設定画面を表示します。**

→ P.8 「1.1　設定画面を表示するには」

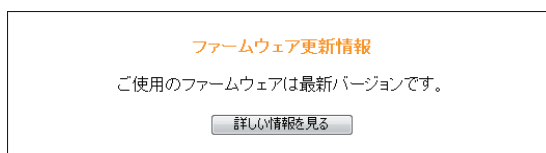
2　**「最新ファームウェアの確認」をクリックします。**

※画面は、CG-BARFX3 のファームウェアバージョン 1.00 の例です。

3 結果が表示されます。次の画面が表示されたら、［ファームウェアのダウンロードページへ］をクリックします。

クリックします

次の画面が表示された場合、お使いのファームウェアは最新のバージョンです。ファームウェアを公開していないため、ファームウェアをアップデートできません。

ファームウェア更新情報

ご使用のファームウェアは最新バージョンです。

詳しい情報を見る

4　ファームウェアのダウンロードページが表示されます。

※画面は、CG-BARFX3 の例です（2008 年 4 月現在)。商品によって画面が異なります。

・この画面は、「コレガホームページ」ー「商品情報」ー「ブロードバンドルータ」ー「お使いの製品名」ー「ダウンロード」の順で開くこともできます。
・お使いの商品によっては、ファームウェアを公開していないことがあります。その場合は、ファームウェアをアップデートできません。

引き続き、P.42 「2.2.2 ファームウェアをダウンロードする」に進みます。

2.2.2 ファームウェアをダウンロードする

次の手順でファームウェアをダウンロードして、圧縮ファイルを解凍します。Macintosh をお使いの場合は、P.46 「■ Macintosh の場合」をご覧ください。

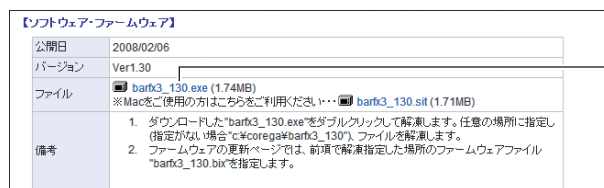
■ Windows の場合

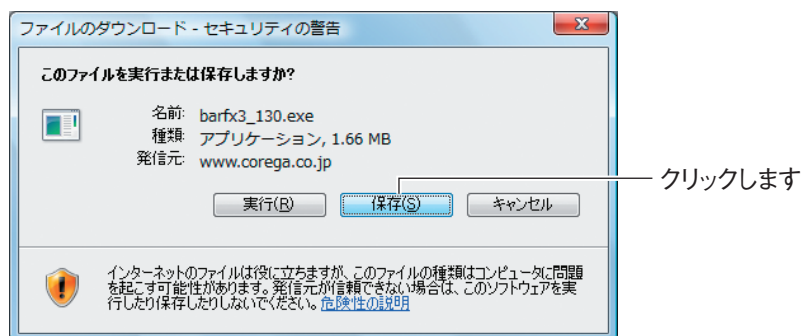
次の手順でファームウェアをダウンロードして、圧縮ファイルを解凍します。

説明で使用している画面は、Windows Vista で CG-BARFX3 のファームウェアバージョン 1.30 をダウンロードする例です。お使いの商品およびファームウェアのバージョン、お使いのパソコンによって、ダウンロードするファイル名、解凍先のフォルダ、表示される画面などが異なります。

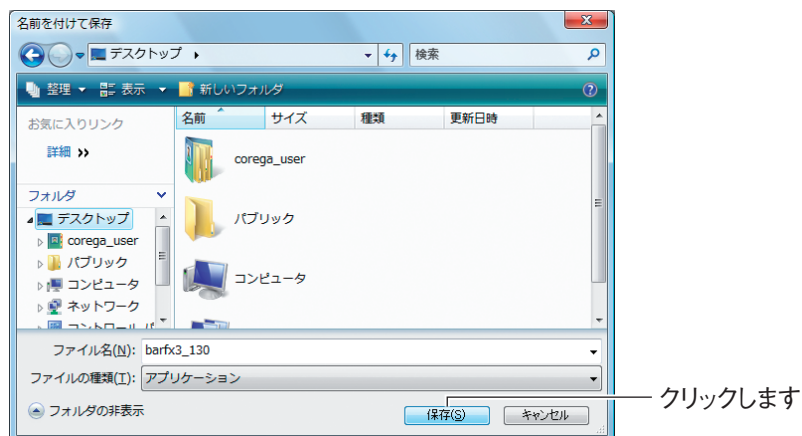
1 ファームウェアのファイルをクリックします。

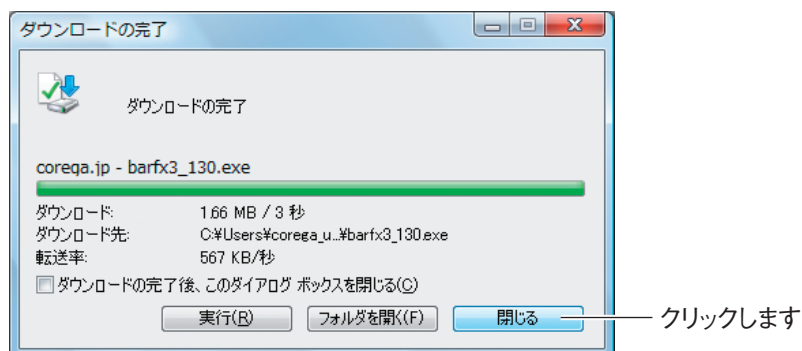
【ソフトウェア・ファームウェア】

公開日	2008/02/06
バージョン	Ver1.30
ファイル	barfx3_130.exe (1.74MB) ※Macをご使用の方はこちらをご利用ください・・・ barfx3_130.sit (1.71MB)
備考	1. ダウンロードした"barfx3_130.exe"をダブルクリックして解凍します。任意の場所に指定し(指定がない場合"c:¥corega¥barfx3_130")、ファイルを解凍します。 2. ファームウェアの更新ページでは、前項で解凍指定した場所のファームウェアファイル"barfx3_130.bix"を指定します。

※画面は、CG-BARFX3のファームウェアバージョン1.30の例です(2008年 4 月現在)。

2 ［保存］をクリックします。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

3 ［保存］をクリックします。

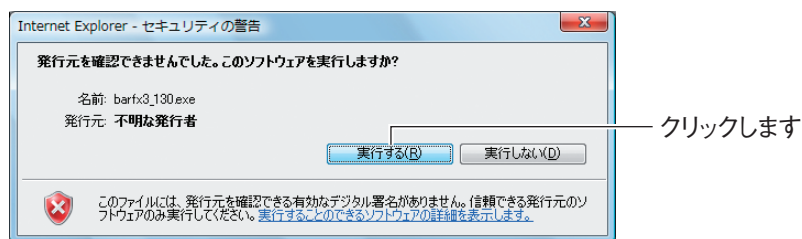
デスクトップに圧縮ファイルが保存されます。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

4　［閉じる］をクリックします。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

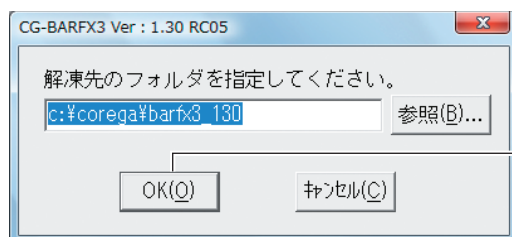
5　デスクトップの圧縮ファイルをダブルクリックします。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

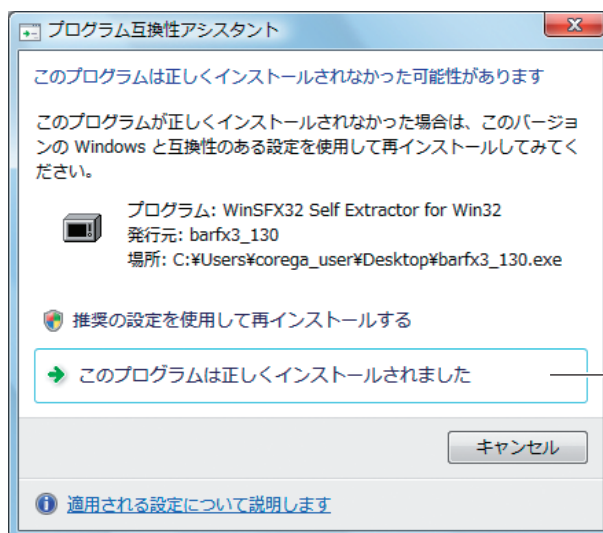
6　［実行する］をクリックします。

弊社で動作を確認しています。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

Windows Vista をお使いの場合、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されますので、「許可」をクリックしてください。

7　[OK］をクリックします。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、画面および解凍先のフォルダが異なります。

メモ

Windows Vista をお使いの場合、次の画面が表示されたら「このプログラムは正しくインストールされました」をクリックしてください。弊社で動作を確認しています。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョン、お使いのパソコンによって、画面が異なります。

以上で、ファームウェアのダウンロードは完了です。引き続き、**P.48**「2.2.3 ファームウェアをアップデートする」に進みます。

■ Macintosh の場合

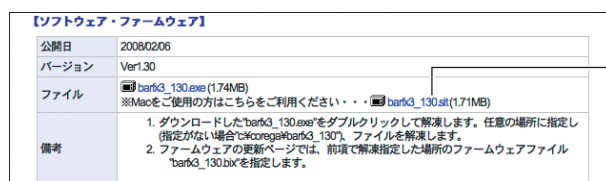
次の手順でファイルをダウンロードして、圧縮ファイルを解凍します。

・説明で使用している画面は、Mac OS X 10.5 で CG-BARFX3 のファームウェアバージョン 1.30 をダウンロードする例です。お使いの商品およびファームウェアのバージョン、お使いの OS のバージョンによって、ダウンロードするファイル名、解凍先のフォルダ、表示される画面などが異なります。

・Mac OS 10.4 および Mac OS 10.5 をお使いの場合、sit 形式の圧縮ファイルを解凍するためのツールが必要です。あらかじめ入手して、インストールしておいてください。ここでは、StuffIt Expander（フリーウェア）を使用して説明しています。

1 **ファームウェアのファイルをクリックします。**

【ソフトウェア・ファームウェア】

公開日	2008/02/06
バージョン	Ver1.30
ファイル	barfx3_130.exe (1.74MB) ※Macをご使用の方はこちらをご利用ください・・・barfx3_130.sit(1.71MB)
備考	1. ダウンロードした"barfx3_130.exe"をダブルクリックして解凍します。任意の場所に指定し(指定がない場合"c:¥corega¥barfx3_130")、ファイルを解凍します。 2. ファームウェアの更新ページでは、前項で解凍指定した場所のファームウェアファイル"barfx3_130.bix"を指定します。

※画面は、CG-BARFX3 のファームウェアバージョン 1.30 の例です（2008 年 4 月現在）。

Mac OS 10.4 では次の画面が表示されます。[ダウンロード] をクリックしてください（弊社で動作を確認しています）。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

2　**「ダウンロード」にファームウェアの圧縮ファイルが保存されます。　をクリックします。**

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

3　**ファームウェアの圧縮ファイルをダブルクリックします。**

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

4　**ファームウェアファイルが解凍されます。**

ファイル拡張子が「.bix」になっているものがファームウェアファイルです。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

以上で、ファームウェアのダウンロードは完了です。引き続き、**P.48**「2.2.3 ファームウェアをアップデートする」に進みます。

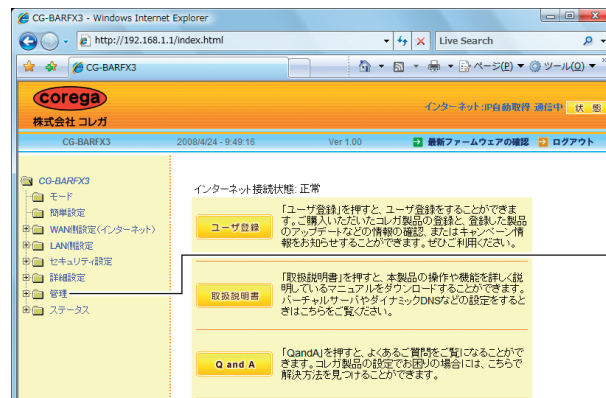
2.2.3 ファームウェアをアップデートする

次の手順で、本商品をアップデートします。ここでは、P.42 「2.2.2 ファームウェアをダウンロードする」の手順でダウンロードしたファームウェアファイルを使用します。

説明で使用している画面は、CG-BARFX3 をファームウェアバージョン1.30 にアップデートする例です。お使いの商品およびファームウェアのバージョン、お使いのパソコンによって、ダウンロードするファイル名、解凍先のフォルダ、表示される画面などが異なります。

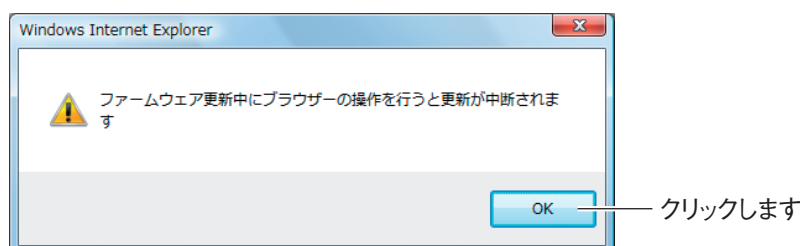
■ Windows の場合

1 設定画面を表示します。

→ P.8 「1.1 設定画面を表示するには」

2 「管理」をクリックします。

3 「ファームウェア更新」をクリックします。

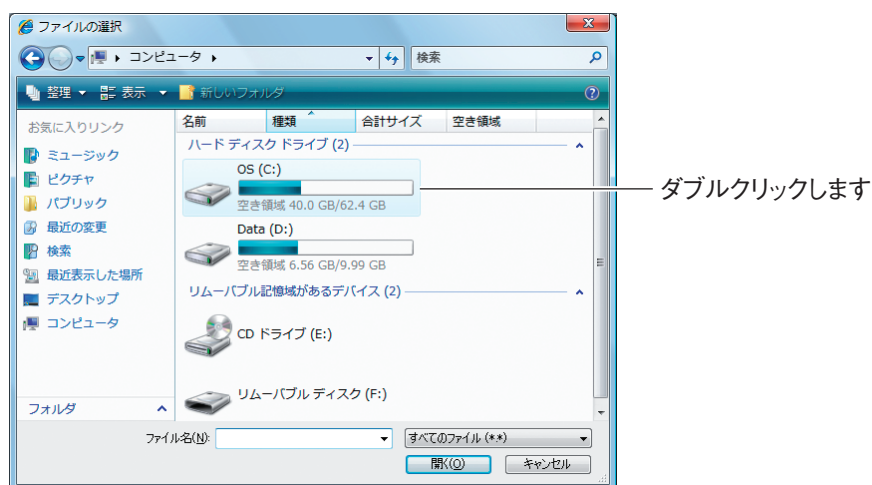
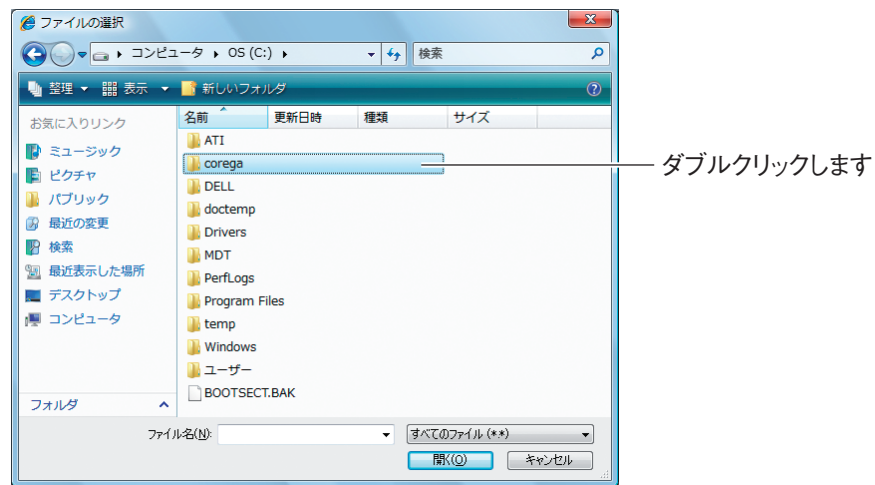
4　［参照］をクリックします。

5　［OK］をクリックします。

6　ダウンロードしたファームウェアファイルを選択します。

ここでは、P.42「2.2.2 ファームウェアをダウンロードする」の手順に従って、圧縮ファイルを解凍した場合を例に説明しています。解凍先のフォルダを変更した場合は、変更後のフォルダを指定してください。

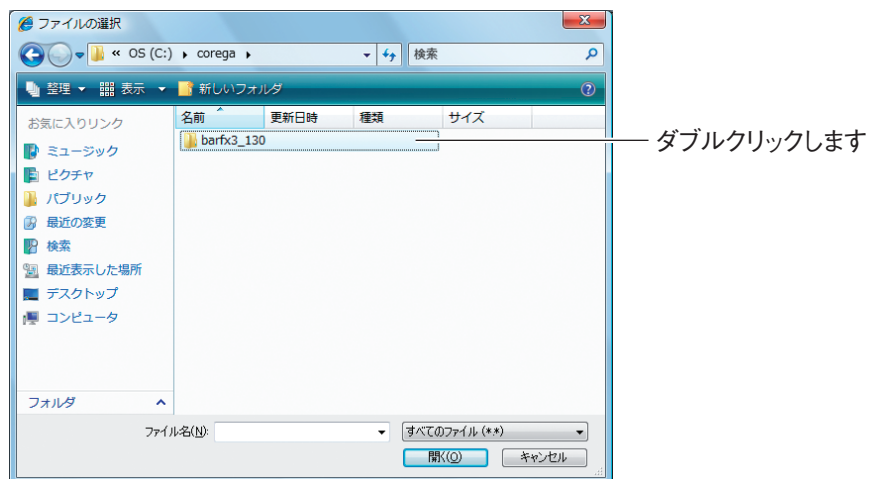
Windows XP をお使いの場合は **P.51 「 ● Windows XP の場合」**をご覧ください。

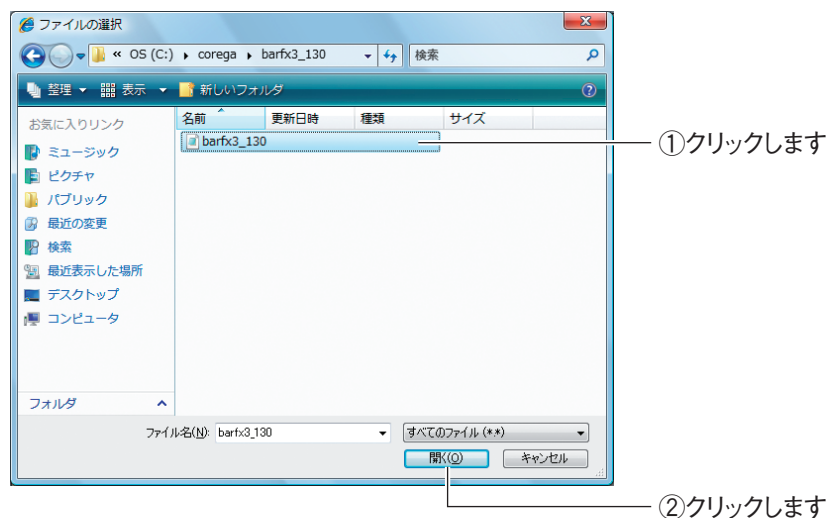
● Windows Vista の場合

① C ドライブをダブルクリックします。

※画面は例です。お使いのパソコンによって異なります。

②「corega」フォルダをダブルクリックします。

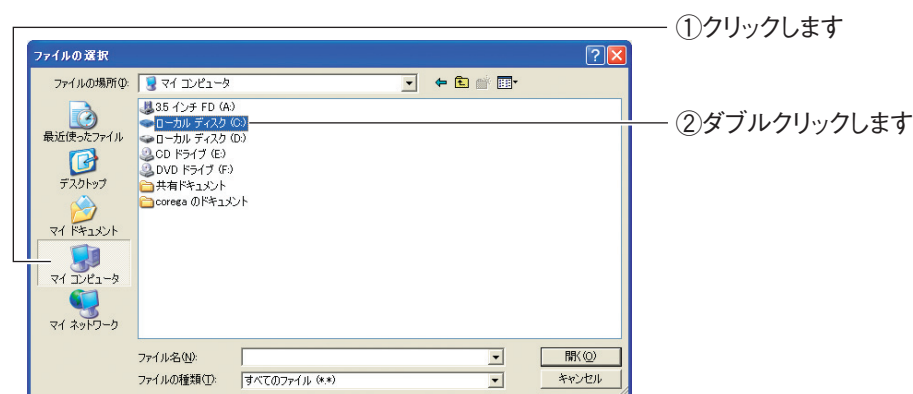
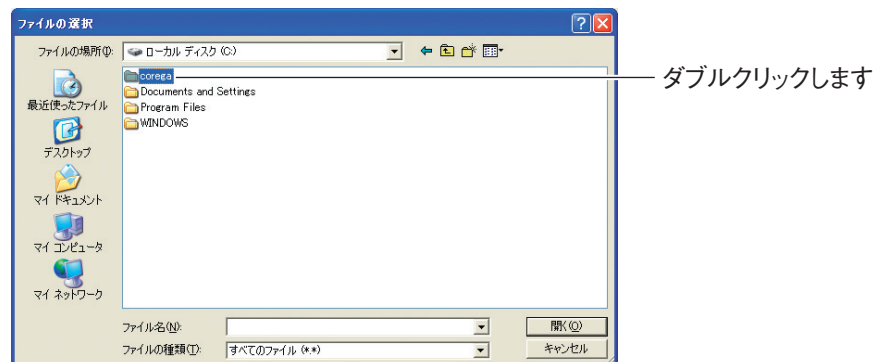
※画面は例です。お使いのパソコンによって異なります。

③ファームウェアのフォルダをダブルクリックします。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、フォルダ名が異なります。

④ファームウェアファイルをクリックし、［開く］をクリックします。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

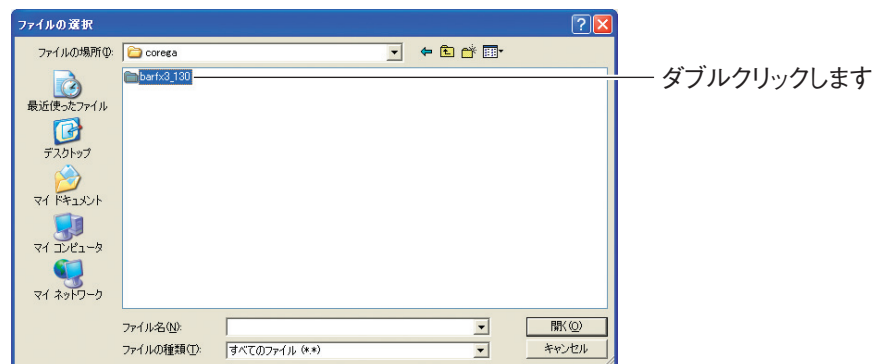
引き続き、**P.53** 手順７に進みます。

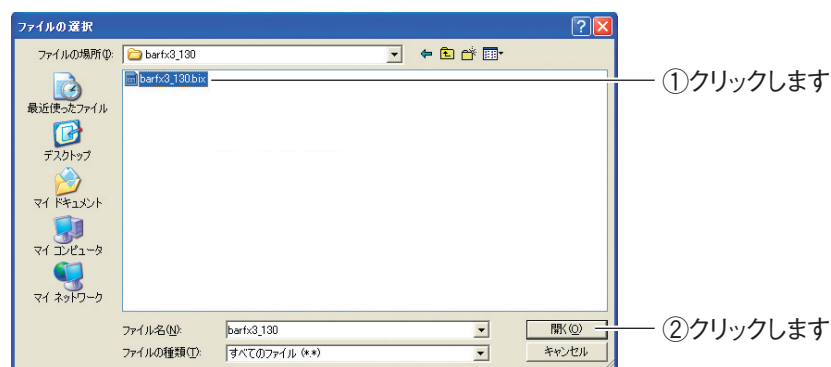
● **Windows XP の場合**

①「マイコンピュータ」をクリックし、C ドライブをダブルクリックします。

※画面は例です。お使いのパソコンによって異なります。

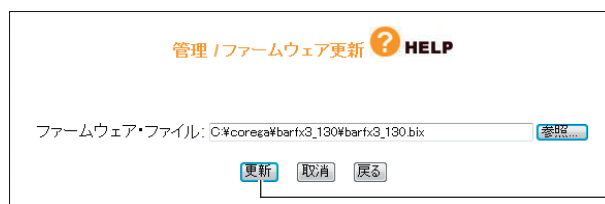
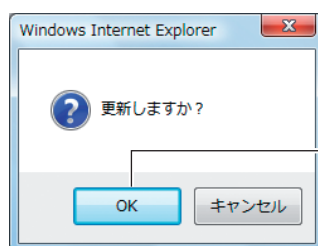
②「corega」フォルダをダブルクリックします。

※画面は例です。お使いのパソコンによって異なります。

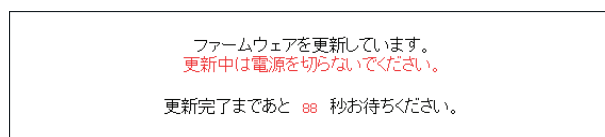
③ファームウェアのフォルダをダブルクリックします。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、フォルダ名が異なります。

④ファームウェアファイルをクリックし、[開く]をクリックします。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

引き続き、P.53 手順 7 に進みます。

7　［更新］をクリックします。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

8　［OK］をクリックします。

9　次の画面が表示されますので、アップデートが完了するまでしばらくお待ちください。

画面が表示されている間は、絶対に本商品の電源を切らないでください。また、設定画面のほかの操作をしたり、アプリケーションを起動したりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗すると、本商品の故障の原因になります。

画面に表示される秒数は、お使いの環境によって異なります。

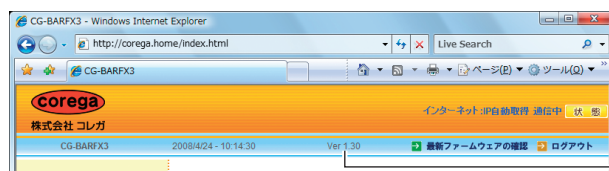
10 アップデートが完了したら、本商品の初期化ボタンを 10 秒以上押して、工場出荷時の状態に戻します。

→ P.64 「2.5.1 初期化ボタンで工場出荷時の状態に戻す」

ファームウェアのアップデート後は、必ず本商品の初期化ボタンを使用して、本商品を工場出荷時の状態に戻してください。設定画面で工場出荷時の状態に戻さないでください。

11 ファームウェアが更新されたことを確認するため、設定画面を表示します。

→ P.8 「1.1 設定画面を表示するには」

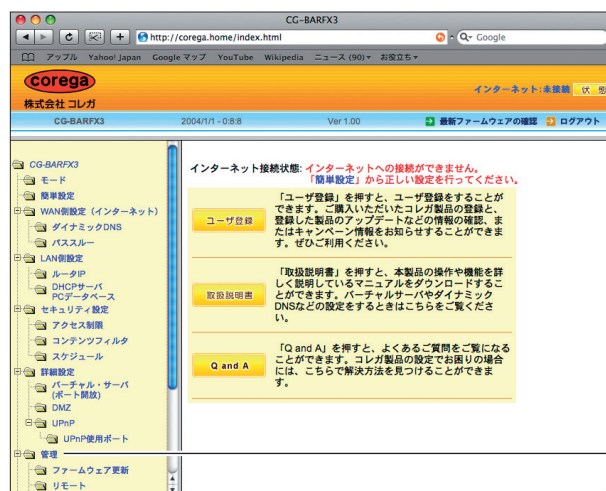
12 ファームウェアのバージョンを確認します。

確認します

※画面は、CG-BARFX3 をファームウェアバージョン 1.30 にアップデートした例です。

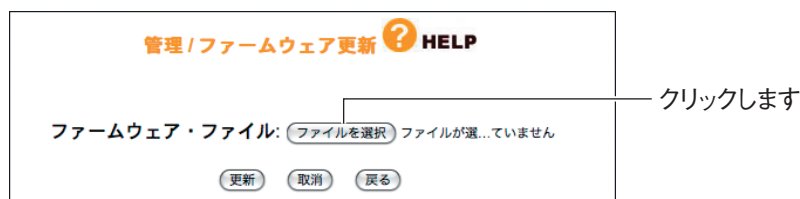
以上で、ファームウェアのアップデートは完了です。

■ Macintosh の場合

1 設定画面を表示します。

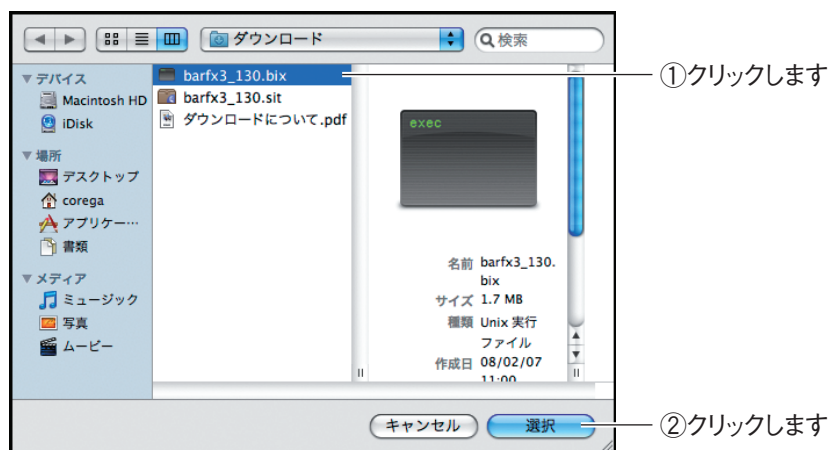
→ P.8 「1.1 設定画面を表示するには」

2 「管理」をクリックします。

クリックします

3　［ファイルを選択］をクリックします。

4　［OK］をクリックします。

5　ダウンロードしたファームウェアファイルをクリックし、［選択］をクリックします。

ファイル拡張子が「.bix」になっているものがファームウェアファイルです。

ここでは、P.42「2.2.2 ファームウェアをダウンロードする」の手順に従って、圧縮ファイルを解凍した場合を例に説明しています。解凍先のフォルダを変更した場合は、変更後のフォルダを指定してください。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

6 ［更新］をクリックします。

クリックします

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

7 ［OK］をクリックします。

クリックします

8 次の画面が表示されますので、アップデートが完了するまでしばらくお待ちください。

画面が表示されている間は、絶対に本商品の電源を切らないでください。また、設定画面のほかの操作をしたり、アプリケーションを起動したりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗すると、本商品の故障の原因になります。

ファームウェアを更新しています。
更新中は電源を切らないでください。
更新完了まであと 83 秒お待ちください。

画面に表示される秒数は、お使いの環境によって異なります。

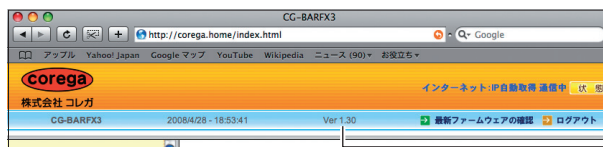
9 **アップデートが完了したら、本商品の初期化ボタンを 10 秒以上押して、工場出荷時の状態に戻します。**

→ P.64 「2.5.1　初期化ボタンで工場出荷時の状態に戻す」

ファームウェアのアップデート後は、必ず本商品の初期化ボタンを使用して、本商品を工場出荷時の状態に戻してください。設定画面で工場出荷時の状態に戻さないでください。

10 **ファームウェアが更新されたことを確認するため、設定画面を表示します。**

→ P.8 「1.1　設定画面を表示するには」

11 **ファームウェアのバージョンを確認します。**

※画面は、CG-BARFX3 をファームウェアバージョン 1.30 にアップデートした例です。

以上で、ファームウェアのアップデートは完了です。

2.3　設定をバックアップする／元に戻すには

現在の設定内容をバックアップすると、何らかの原因で設定内容が壊れたりした場合に、保存してあるバックアップファイルを使用して設定を元に戻せます。

バックアップしたファイルは、同じバージョンのファームウェアでのみ使用できます。

2.3.1　バックアップする

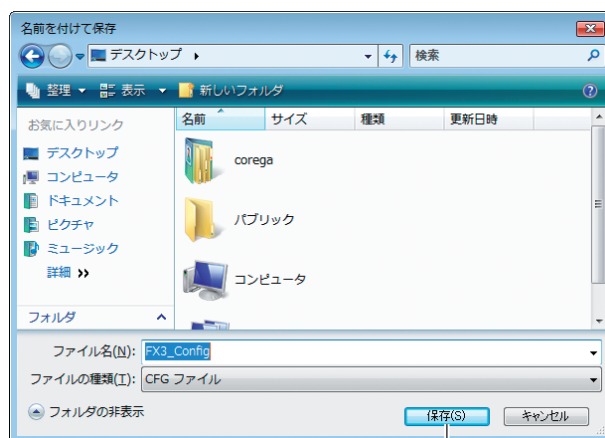
1　**設定画面を表示します。**

→ P.8 「1.1　設定画面を表示するには」

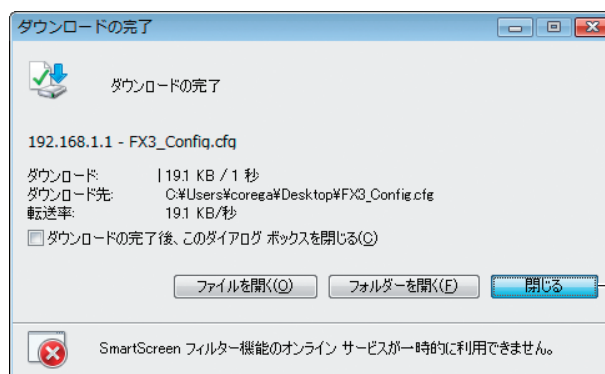
2　**「管理」をクリックします。**

3　**「設定保存」の［保存］をクリックします。**

4　**［保存］をクリックします。**

※画面は、CG-BARFX3の例です。

5　［保存］をクリックします。

※画面は、Windows Vista でデスクトップに保存する例です。

6　［閉じる］をクリックします。

※画面は、CG-BARFX3 の例です。

以上で本商品の設定内容がバックアップされました。

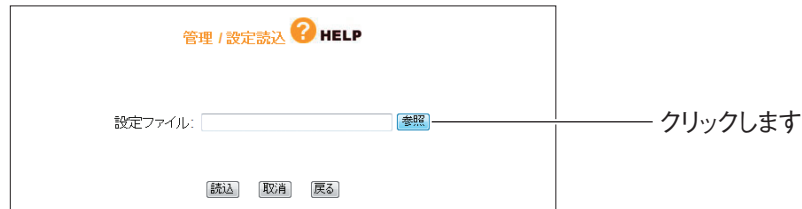
2.3.2　元に戻す

1　**設定画面を表示します。**

→ P.8「1.1　設定画面を表示するには」

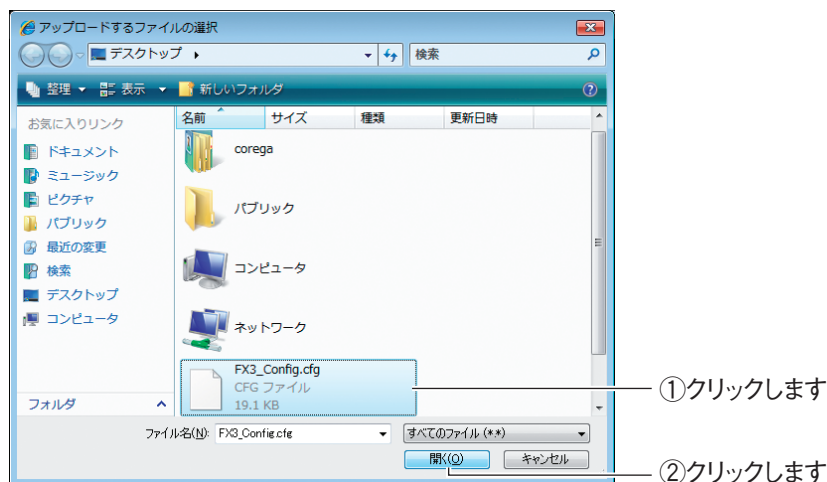
2　**「管理」をクリックします。**

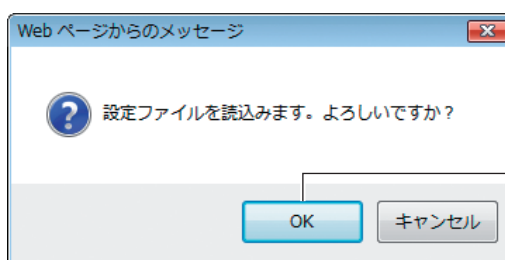
3　**「設定読込」の［読込］をクリックします。**

4　**［参照］をクリックします。**

5　**バックアップファイルを開きます。**

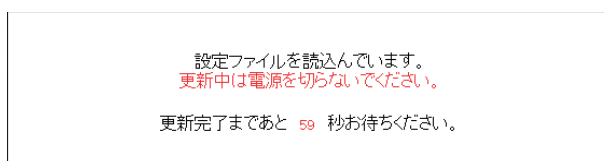
P.58「2.3.1 バックアップする」で保存したファイルをクリックし、［開く］をクリックします。

※画面は、CG-BARFX3 の例です。

2

6　［読込］をクリックします。

※画面は、CG-BARFX3 の例です。

7　［OK］をクリックします。

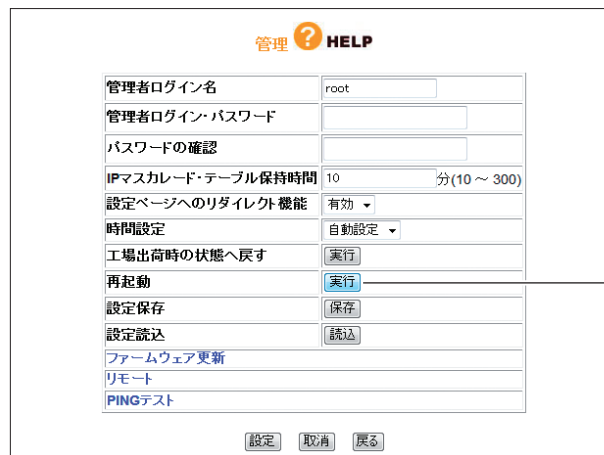
8　設定が完了するまで待ちます。

次の画面が表示されます。設定が完了するとログイン画面が表示されます。

画面に表示される秒数は、お使いの環境によって異なります。

以上で本商品の設定が元に戻りました。

2.4　再起動するには

本商品は、次のどちらかの手順で再起動できます。本商品の設定を変更した場合には、本商品を再起動して設定内容を反映させてください。

2.4.1　電源を入れ直す

AC アダプタの電源プラグを電源コンセントから抜き、その後再度差し込みます。

本商品が起動するまで 2 分程ほどかかります。本商品の起動が完了するまでしばらくお待ちください。

2.4.2　設定画面で再起動する

1　設定画面を表示します。

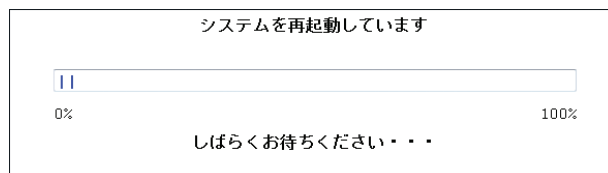
→ P.8「1.1　設定画面を表示するには」

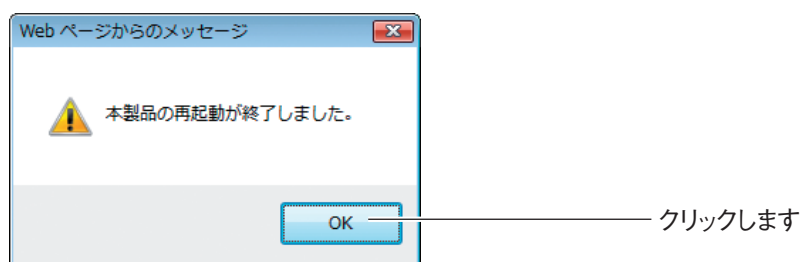
2　「管理」をクリックします。

3　「再起動」の［実行］をクリックします。

4　［OK］をクリックします。

5 再起動が完了するまで待ちます。

次の画面が表示されます。

6 ［OK］をクリックします。

ログインが画面が表示されます。

以上で本商品が再起動しました。

2.5　工場出荷時の状態（初期値）に戻すには

本商品を工場出荷時の状態に戻すには、次の 2 つの方法があります。

本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定した情報が初期値に戻ります。重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに控えておいてください。

2.5.1　初期化ボタンで工場出荷時の状態に戻す

1　本商品の電源をオンにします。

本商品が起動するまで 2 分ほどかかります。起動が完了するまでしばらくお待ちください。

2　初期化ボタンを 10 秒以上押します。

本商品の背面にある初期化ボタンを 10 秒以上押し続けます。押し始めてから 5 秒ほどで Status LED がゆっくり点滅して、さらに 5 秒ほどで Status LED が速く点滅します。
速く点滅していることを確認してから初期化ボタンを離します。

初期化ボタンはクリップなど硬くて細いもので押してください。

3　本商品が起動します。

本商品が起動するまで 2 分ほどかかります。起動が完了するまでしばらくお待ちください。

以上で本商品が工場出荷時の状態に戻りました。

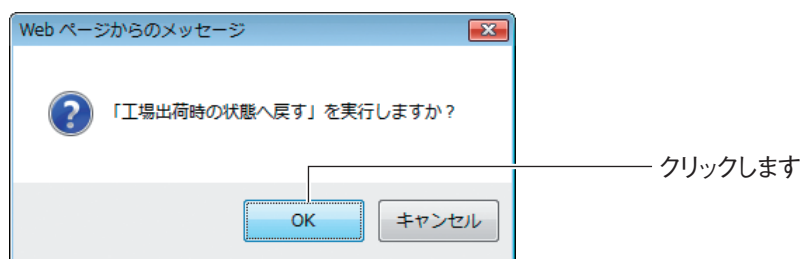
2.5.2　設定画面で工場出荷時の状態に戻す

1　**設定画面を表示します。**

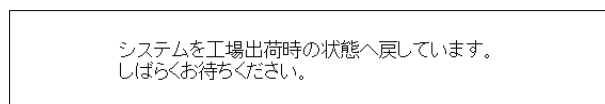
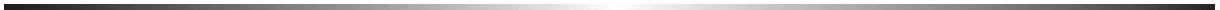
→ P.8「1.1　設定画面を表示するには」

2　**「管理」をクリックします。**

3　**「工場出荷時の状態へ戻す」の［実行］をクリックします。**

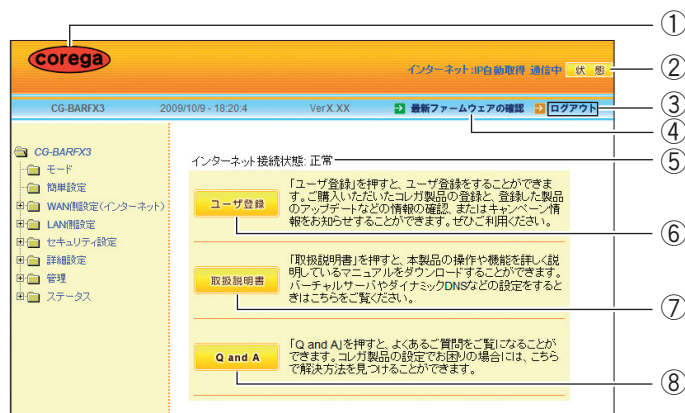
4　**［OK］をクリックします。**

5　**工場出荷時の状態に戻るまで待ちます。**

次の画面が表示されます。

システムを工場出荷時の状態へ戻しています。
しばらくお待ちください。

以上で、本商品が工場出荷時の状態に戻りました。

第 3 章
設定画面について

この章は、本商品の設定画面について説明します。本商品を使っていて「機能を使いこなしたい」、「設定画面の詳しい情報を知りたい」と思ったときは、この章で項目を探してください。

3.1　トップページ

インターネットに接続している場合の起動時の状態です。本商品を設定していないときは、P.70「3.3 簡単設定」が表示されます。

※画面は、CG-BARFX3 の例です。

① コレガロゴ

インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページを表示します。

② インターネット［状態］

クリックすると、P.110「3.9 ステータス」を表示します。

③ ログアウト

クリックすると設定画面からログアウトします。再度設定画面を操作する場合は、ログアウト後の画面で［再ログイン］をクリックします。

④ 最新ファームウェアの確認

インターネット接続時にクリックすると、本商品の最新ファームウェアの有無を確認します。

⑤インターネット接続状態

インターネットの接続状態を表示します。

⑥［ユーザ登録］

インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページでユーザ登録ができます。ユーザ登録をすると、最新のコレガの製品情報が配信されます。

⑦［取扱説明書］

インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページを表示して「詳細設定ガイド」（本書）など各取扱説明書の最新版をダウンロードできます。

⑧［Q and A］

インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページの「よくあるお問い合わせ」を表示します。

3.2　モード

ルータ機能の有効／無効を切り替えます。

① ルータ機能

ルータ機能の有効／無効を切り替えます。

・有効

ルータ機能を使用します（初期値）。

・無効

ルータ機能を使用しません。

②［設定］

設定した内容を保存します。

③［戻る］

P.68「3.1　トップページ」に戻ります。

3.3 簡単設定

簡単にインターネット接続が設定できます。設定の詳細については、付属の「らくらく導入ガイド」、または「お使いの手引き」「本商品をお使いの環境に合わせて接続する」をご覧ください。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

3.4　WAN 側設定（インターネット）

WAN 側の通信方法を設定できます。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

①リンク速度

WAN 側ポートリンク方法を設定します。通常は「自動」のままでお使いください。

・自動、100M Full、100M Half、10M Full、10M Half

WAN 側ポートのリンク方法を自動、100Mbps の Full Duplex、100Mbps の Half Duplex、10Mbps の Full Duplex、10Mbps の Half Duplex から選択します（初期値：自動）。

② MDI 切替

MDI の切替方法を設定します。通常は「自動」のままでお使いください。

・自動

MDI または MDI-X を自動で設定します（初期値）。

・MDI

MDI 固定にします。

③接続方法

WAN 側の接続方法を設定します。お使いの回線に合わせて設定します。

・PPPoE

フレッツ・ADSL、B フレッツなどで接続する場合に選択します。詳しくは **P.72**「3.4.1　PPPoE」をご覧ください。

PPPoE の設定方法は、付属の「らくらく導入ガイド」、または「お使いの手引き」「本商品をお使いの環境に合わせて設定する」をご覧ください。

マルチ PPPoE の設定方法は、**P.19**「1.6　マルチ PPPoE で 2 つの接続先を使い分けるには」をご覧ください。

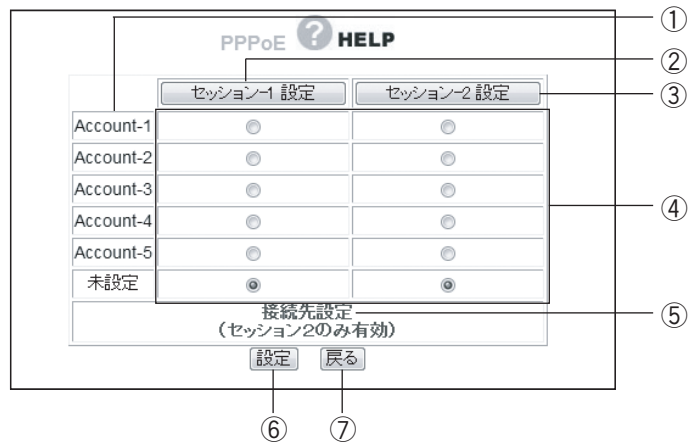
Unnumbered IP の設定方法は、**P.22**「1.7　複数固定 IP サービスを利用するには」をご覧ください。

・IP 自動取得（DHCP）／ IP 固定

Yahoo! BB、CATV など、IP アドレスを自動取得する場合や、IP アドレスを固定で割り当てられている場合に選択します。詳しくは **P.79**「3.4.2　IP 自動取得（DHCP）／ IP 固定」をご覧ください。

IP 自動取得（DHCP）の設定方法は同梱の「らくらく導入ガイド」、または「お使いの手引き」「本商品をお使いの環境に合わせて接続する」をご覧ください。

3.4.1 PPPoE

PPPoE アカウント設定とセッション設定を管理します。

① アカウント名

アカウント名を表示します。表示する内容を変更できます。

②［セッション -1 設定］

セッション -1 の設定をします。表示される画面の状態および設定項目については P.73 「■ セッション -1 設定」をご覧ください。

③［セッション -2 設定］

セッション -2 の設定をします。表示される画面の状態および設定項目については P.76 「■ セッション -2 設定」をご覧ください。

④ アカウント選択

PPPoE アカウントとセッション -1、セッション -2 の組み合わせを設定します。

⑤ 接続先設定（セッション２のみ有効）

マルチ PPPoE を使用する場合にセッション-2 で通信する接続先を設定します。詳しい設定画面は P.77 「■ 接続先設定」をご覧ください。

⑥［設定］

設定した内容を保存します。

⑦［戻る］

P.68 「3.1 トップページ」に戻ります。

■セッション -1 設定

セッション -1 で通信するアカウントを設定します。設定前にプロバイダから指定された「接続ユーザーID」、「接続パスワード」などをご確認ください。

① セッション選択

設定したいセッションを選択します。P.72 「3.4.1　PPPoE」で［セッション -1 設定］をクリックした場合はセッション -1 が選択されています。

②［接続］

無通信時にクリックすると接続します。

③［切断］

通信中にクリックすると切断します。

④ 接続状態

現在のセッションの接続状態を表示します。

⑤ セッション ID

セッション ID を表示します。

⑥ アカウント選択

使用するアカウントを選択・登録できます（「セッション -1」で使用したアカウントは、「セッション -2」では使用できません）。

アカウントを選択し、⑨～⑯にプロバイダから指定された設定項目を設定します。

⑦［アカウント名変更］

P.72「3.4.1　PPPoE」のアカウント選択で表示される名称を変更できます。表示画面および設定項目についてはP.79「■ アカウント名変更」をご覧ください。

⑧ MAC アドレス

本商品の WAN 側（インターネット側）MAC アドレスを表示します。

⑨ 接続ユーザー ID

プロバイダから指定されたアカウントの接続ユーザー ID を入力します。

⑩ 接続パスワード／接続パスワードの確認

プロバイダから指定されたアカウントの接続パスワードを入力し、確認のため同じパスワードを「接続パスワードの確認」に入力します。

⑪ 接続方法

接続開始の方法を設定します。

・常時接続

常時インターネットに接続します。何らかの原因で通信が切断された場合も自動的に再接続します（初期値）。

・トリガ接続

インターネットへの通信が発生したときに自動的に接続します。何らかの原因で通信が切断された場合は、次にインターネットへの通信が発生したときに接続します。

・手動接続

［接続］をクリックしない限りインターネットに接続しません。

⑫ 無通信時間監視

インターネットへ通信をしなくなってから自動切断までの時間（分）を選定します（⑪「接続方法」で「トリガ接続」または「手動接続」を選択した場合のみ）。

⑬ MTU 値

MTU の値を設定します。右側の「自動調整」にチェックを付けると MTU 値が自動的に調整されます。「自動調整」のチェックを外すと 576 〜 1492 バイトの範囲で設定できます。

⑭ PPPoE サービス・タイプ

使用するPPPoEのサービスタイプを選択します（セッション-2使用不可）。

・PPPoE

通常の PPPoE 接続、またはセッション -2 を使用したマルチ PPPoE を利用する場合に設定します。⑮「ルータ IP ／サブネットマスク」は設定しません。

・Unnumbered IP

複数のグローバル IP ※ 1 を割り当てるサービスを利用する場合に設定します。⑮「ルータ IP ／サブネットマスク」に設定するグローバル IP は、本商品の IP アドレスとして WAN 側／ LAN 側 IP アドレスに設定されます。本商品に接続するパソコンにもグローバル IP を固定で設定します。

Unnumbered IP の設定方法は **P.22** 「1.7　複数固定 IP サービスを利用するには」をご覧ください。

※ 1　インターネットで使用される IP アドレスのことです。グローバル IP アドレスとも呼びます。

・Unnumbered IP ＋ Private IP

複数のグローバル IP を割り当てるサービスとプライベート IP※ 2 を同時に利用する場合に設定します。

複数のグローバル IP を割り当てるサービスを利用しつつ、IP マスカレード機能※ 3 を利用してプライベート IP のパソコンをインターネットに接続できます。プライベート IP をパソコンで使用する場合は、IP 自動取得に設定します。

Unnumbered IP の設定方法は **P.22** 「1.7　複数固定 IP サービスを利用するには」をご覧ください。

※ 2　イントラネットや LAN 組織内で自由に発行できる IP アドレスのことです。プライベート IP アドレスとも呼びます。

※ 3　1 つのグローバル IP を複数のパソコンで共有する機能（ルータ機能）です。プライベート IP とグローバル IP を相互に変換することで実現できます。

⑮ ルータ IP ／サブネットマスク

複数固定IPサービスでプロバイダから割り当てられたグローバルIP／サブネットマスクを入力します（⑭「PPPoE サービス・タイプ」で「Unnumbered IP」および「Unnumbered IP ＋ Private IP」を選択した場合のみ）。

⑯ **DNS サーバ**

DNS サーバの設定方法を選択します。

・自動設定

プロバイダから DNS サーバが自動的に割り当てられる場合に選択します。IP アドレスは自動的に設定されます。

・マニュアル設定

プロバイダから DNS サーバが指定されている場合に選択し、IP アドレスを入力します。DNS サーバが複数指定されているときは、「DNS サーバ 1」および「DNS サーバ 2」に入力します。

⑰ **[設定]**

設定した内容を保存します。

⑱ **[取消]**

[設定] をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑲ **[戻る]**

P.72 「3.4.1 PPPoE」に戻ります。

■セッション -2 設定

セッション -2 で通信するアカウントを設定します。

①**セッション選択**

設定したいセッションを選択します。**P.72** 「3.4.1 PPPoE」で [セッション -2 設定] をクリックした場合は、セッション -2 が選択されています。

※そのほかの項目はセッション -1 と同じ設定内容です。

■接続先設定

セッション 2 経由で通信するルールを設定します。P.72「3.4.1　PPPoE」で⑤「接続先設定（セッション 2 のみ有効)」をクリックすると表示されます。

セッション 2 でフレッツ・スクウェアに接続する場合は、P.19「1.6　マルチ PPPoE で 2 つの接続先を使い分けるには」をご覧ください。

① 設定リスト

③～⑨で設定した内容を表示します。

② ［戻る］

P.72「3.4.1　PPPoE」に戻ります。

③ 接続アカウント

ルールを適用するアカウントを選択します。

④ ルール選択

ルールを選択します。

・ドメイン名

接続先をドメインで指定する場合に選択します。

⑤「ドメイン名」に入力します。

・IP アドレス

接続先を IP アドレスで指定する場合に選択します。

⑥「IP　アドレス」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・ポート番号

接続先をポート番号で指定する場合に選択します。

⑧「開始ポート／終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・**ネットワーク**

接続先をネットワークで指定する場合に選択します。

⑦「ネットワーク」に範囲を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・**IP アドレス＋ポート番号**

接続先を IP アドレスとポート番号で使用する場合に選択します。

⑥「IP アドレス」と⑧「開始ポート／終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・**ネットワーク＋ポート番号**

接続先をネットワークとポート番号で指定する場合に選択します。

⑦「ネットワーク」と⑧「開始ポート／終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

⑤ ドメイン名

④「ルール選択」で「ドメイン名」を選択した場合に入力します。

⑥ IP アドレス

④「ルール選択」で「IPアドレス」および「IPアドレス＋ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑦ ネットワーク

④「ルール選択」で「ネットワーク」および「ネットワーク＋ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑧開始ポート／終了ポート

④「ルール選択」で「ポート番号」、「IP アドレス＋ポート番号」、「ネットワーク＋ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑨プロトコル

④「ルール選択」で「ドメイン名」以外を選択した場合に、対象のプロトコルを「全て（TCP/UDP/ICMP）」、「TCP」、「UDP」から選択できます。

⑩［登録］

入力した内容を登録します。

■アカウント名変更

設定するアカウントに名称を付けられます。

① アカウント名

アカウント名を入力します。

②［設定］

設定した内容を保存します。

③［戻る］

P.73 「■ セッション -1 設定」に戻ります。

3.4.2　IP 自動取得（DHCP）／ IP 固定

IP アドレスの自動割り当て、または固定 IP を割り当てているプロバイダでのみ使用できます。

① MAC アドレス

本商品の WAN 側の MAC アドレスを表示します。

②タイプ

IP アドレスの取得方法を選択します。

・**IP 自動取得（DHCP）**

プロバイダから IP アドレスを指定されていない場合に選択すると、プロバイダから自動的に IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS アドレスなどのインターネットに必要な情報を取得します。

・**IP 固定**

プロバイダから IP アドレスを指定された場合に選択します。「WAN 側 IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルト・ゲートウェイ」を手動で設定します（「IP 固定」を選択した場合のみ表示されます）。

③ ドメイン名

プロバイダから指定された場合、コンピュータ名を入力します（② 「タイプ」で「IP 自動取得（DHCP)」を選択した場合のみ設定できます）。

④ コンピュータ名

プロバイダから指定された場合、コンピュータ名を入力します（② 「タイプ」で「IP 自動取得（DHCP)」を選択した場合のみ設定できます）。

⑤ MTU 値

MTU 値を設定します（初期値：1500バイト)。576 ～ 1500 バイトの範囲で設定できます。

⑥ DNS サーバ

DNS サーバの設定方法を選択します。

・**自動設定**

プロバイダからDNSサーバが自動的に割り当てられる場合に選択します（② 「タイプ」で「IP 自動取得（DHCP)」を選択した場合のみ設定できます）。IP アドレスは自動的に設定されます。

・**マニュアル設定**

プロバイダから DNS サーバの IP アドレスが指定された場合に選択し、IP アドレスを入力します。DNS サーバが複数指定されたときは、「DNS サーバ 1」および「DNS サーバ 2」に入力します。

⑦ ［設定］

設定した内容を保存します。

⑧ ［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑨ ［戻る］

P.68 「3.1 トップページ」に戻ります。

3.4.3　ダイナミック DNS（DDNS）

インターネット側から IP アドレスではなく、URL（ドメイン名）を使用して LAN 内のバーチャルサーバで設定したパソコンに接続できるように設定できます。この機能を使用すると、IP アドレスが固定されないサービスでも設定したドメイン名でサーバを公開できます。

詳しくは、**P.29**「1.8　ダイナミック DNS を使用して URL で接続するには」をご覧ください。

① ダイナミック DNS

利用する DNS サービスを選択します。

② ログイン名

ダイナミック DNS サービスに登録したログイン名を入力します。

③ ログインパスワード

ダイナミック DNS サービスに登録したパスワードを入力します。

④ ドメイン名

ダイナミック DNS サービスに登録したドメイン名を入力します。必ず取得したドメイン名を使用してください。

⑤ IP チェック時間

指定時間で取得したドメイン名と IP アドレスの整合性を確認します。

⑥ ［設定］

設定した内容を保存します。

⑦［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑧［戻る］

P.71 「3.4 WAN 側設定（インターネット）」に戻ります。

3.4.4 パススルー

各パケットをルーティングせずに透過する場合に設定します。

① **ダイレクト PPPoE**

PPPoE パススルーの有効／無効を選択します。

・**有効**

ダイレクト PPPoE を有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接 PPPoE 接続する場合に有効にします。

・**無効**

ダイレクト PPPoE を無効にします（初期値）。

② **VPN パススルー**

VPN パススルーの有効／無効を選択します。

・**有効**

VPN パススルーを有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接 VPN 接続する場合に有効にします（初期値）。

・**無効**

VPN パススルーを無効にします。

③ IPv6 ブリッジ

IPv6 ブリッジの有効／無効を選択します。

・有効

IPv6 ブリッジを有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接 IPv6 接続する場合に有効にします（初期値）。

・無効

IPv6 ブリッジを無効にします。

④［設定］

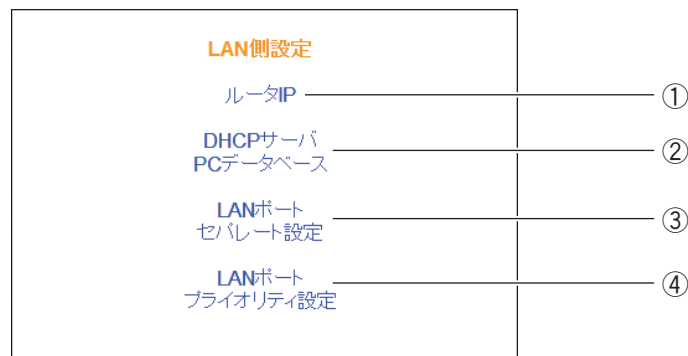
設定した内容を保存します。

⑤［戻る］

P.71 「3.4 WAN 側設定（インターネット）」に戻ります。

3

3.5　LAN 側設定

LAN 側の詳細な設定ができます。

※画面は、CG-BARFX3VQ の例です。

①ルータ IP

→ **P.84**「3.5.1　ルータ IP」

② DHCP サーバ／ PC データベース

→ **P.86**「■　DHCP サーバ」

→ **P.88**「■　PC データベース」

③ LAN ポートセパレート設定

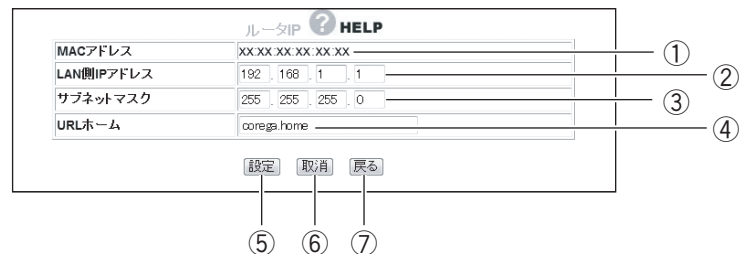
→ **P.90**「3.5.3　LAN ポートセパレート設定（CG-BARFX3VQ のみ）」

④ LAN ポートプライオリティ設定

→ **P.91**「3.5.4　LAN ポートプライオリティ設定（CG-BARFX3VQ のみ）」

3.5.1　ルータ IP

本商品の LAN 側の IP アドレスを設定します。

・ルータ機能有効時

・ルータ機能無効時

① MAC アドレス

本商品の LAN 側の MAC アドレスが表示されます。

② LAN 側 IP アドレス（IP アドレス）

本商品の LAN 側の IP アドレスを入力します。

IP アドレスの値は 0 ～ 255 の数字と「.」（ドット）で入力します。

③ サブネットマスク

本商品の LAN 側のサブネットマスクを入力します（初期値：255.255.255.0）。

サブネットマスクの値は 0 ～ 255 の数字と「.」（ドット）で入力します。

④ URL ホーム

設定した URL を Web ブラウザのアドレス欄に入力すると、本商品の設定画面を表示します（初期値：corega.home）。

アドレスには「.」（ドット）を組み込んで 3 ～ 24 文字で設定します。「.」（ドット）はアドレスの先頭、末尾には使用しないでください。

⑤ ［設定］

設定した内容を保存します。

⑥ ［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑦ ［戻る］

P.84 「3.5 LAN 側設定」に戻ります。

⑧ゲートウェイアドレス

デフォルト・ゲートウェイのアドレスを入力します（初期値：0.0.0.0）。

⑨ DNS サーバ

DNS サーバのアドレスを入力します（初期値：0.0.0.0）。

3.5.2 DHCP サーバ／PC サーバ

■ DHCP サーバ

DHCP サーバを設定します。

① DHCP サーバ

DHCP サーバの有効／無効を選択します。

・有効

DHCP サーバ機能を使用します（初期値）。

・無効

DHCP サーバ機能を使用しません。

② リース期限継続方法

DHCP サーバから割り当てられる IP アドレスのリース期限継続方法を選択します。

・期限指定

DHCP サーバから割り当てられる IP アドレスを定期的に更新します（初期値）。

期限は③「リース期限」で設定します。

・無期限

DHCP サーバから割り当てられる IP アドレスに期限を設定しません。

③ リース期限

DHCP サーバから割り当てられる IP アドレスのリース期限を分単位で指定します（初期値：2 日）。

※②「リース期限継続方法」で「期限指定」を選択している場合に設定できます。

④ DHCP 開始アドレス

DHCP サーバが割り当てる最初の IP アドレスを入力します（初期値：192.168.1.21）。

⑤ DHCP 終了アドレス

DHCP サーバが割り当てる最後の IP アドレスを入力します（初期値：192.168.1.50）。

⑥［設定］

設定した内容を保存します。

⑦［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑧［戻る］

P.84「3.5 LAN 側設定」に戻ります。

3

■ PC データベース

本商品に接続するパソコンを登録できます。IP アドレスを自動的に取得するパソコンは自動的に登録されます。PC データベースのリストに表示されていない場合や、IP アドレスを固定設定しているパソコンの場合は、手動で PC データベースに登録します。

① **編集**

登録済みのパソコンの設定を変更できます。

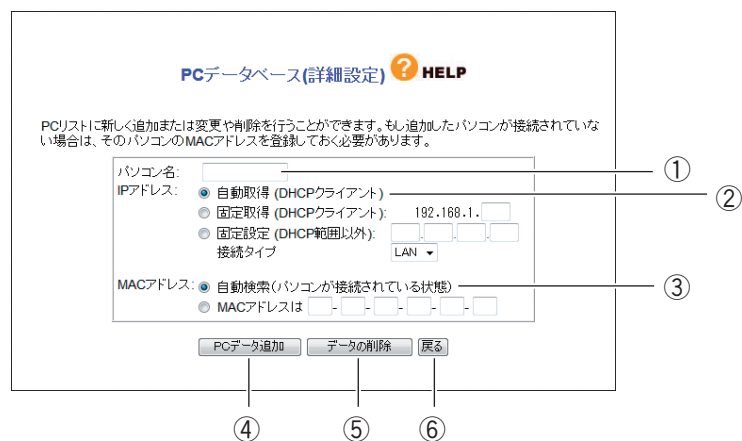
② **［追加］**

P.88「■ PC データベース（詳細設定）」を表示し、パソコンを手動で PC データベースに登録できます。

③ **［再読み込み］**

現在の情報を更新します。

■ PC データベース（詳細設定）

手動で PC データベースに登録できます。

① **パソコン名**

パソコンの「ホスト名」を入力します。

② IP アドレス

IP アドレスの取得方法を選択します。

・**自動取得（DHCP クライアント）**

パソコンが DHCP クライアント（Windows では「IPアドレスを自動的に取得」）に設定されている場合に、本商品は **P.86**「3.5.2 DHCP サーバ／ PC サーバ」で設定した内容でパソコンに IP アドレスを割り当てます（初期値）。IP アドレスは通常変わることはありませんが、リース期間に達した場合や、長時間ネットワークから切断していたあとで再接続した場合に変わることがあります。

・**固定取得（DHCP クライアント）**

パソコンが DHCP クライアント（Windows では「IPアドレスを自動的に取得」）に設定されている場合に、本商品は **P.86**「3.5.2 DHCP サーバ／ PC サーバ」で設定した内容でパソコンに IP アドレスを割り当てます。パソコンに毎回決まった IP アドレスを割り当てたい場合に選択します。最後の空欄に、本商品の DHCP サーバ機能で設定した範囲内で 1 ～ 254 の任意の数字を入力します。

・**固定設定（DHCP 範囲以外）**

パソコンが固定 IP アドレスを使用している場合に選択します。パソコンに設定している IP アドレスを入力します。

・**接続タイプ**

本商品とパソコンの接続方法を選択します。本商品では「LAN」（有線 LAN 接続）のみで変更できません。

③ MAC アドレス

MAC アドレスの登録方法を選択します。

・**自動検索（パソコンが接続されている状態）**

①「パソコン名」と②「IP アドレス」の設定から登録したいパソコンの MAC アドレスを自動取得します。本商品にパソコンを接続している状態で自動検索できます。自動検索が完了すると、MAC アドレス欄に検索された MAC アドレスが表示されます。

・**MAC アドレス**

登録したいパソコンの MAC アドレスがわかる場合に直接入力します。本商品にパソコンを接続していない状態でも登録できます。

MAC アドレスは「ハードウェアアドレス」や、「物理アドレス」または「ネットワークアダプタアドレス」と呼ばれることがあります。本商品はパソコンを識別するために MAC アドレスを使用します。入力欄を空白にしたままでは登録できません。

④ **［PC データ追加］**

本商品のリストに新しいパソコンを追加します。

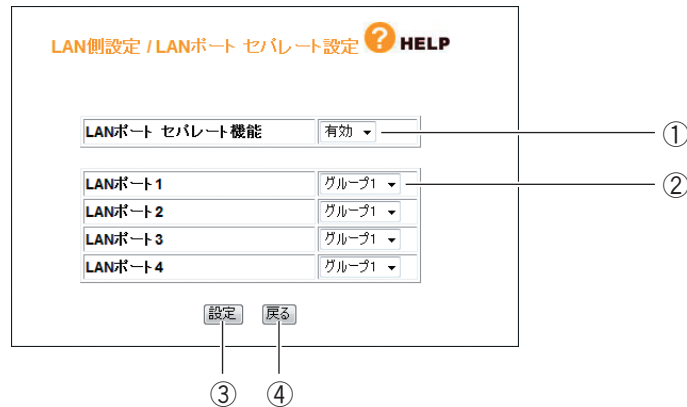
⑤ **［データの削除］**

画面上で入力した値を削除します。

⑥ **［戻る］**

P.86 「3.5.2 DHCP サーバ／ PC サーバ」に戻ります。

3.5.3 LAN ポートセパレート設定（CG-BARFX3VQ のみ）

LAN ポートセパレート機能を設定します。
詳しくは、**P.33**「1.10 LAN ポートセパレート機能を使用するには（CG-BARFX3VQ のみ）」をご覧ください。

① **LAN ポートセパレート機能**

LAN ポートセパレート機能を使用するかどうかを選択します。

・**有効**

LAN ポートセパレート機能を使用します。

・**無効**

LAN ポートセパレート機能を使用しません（初期値）。

② **LAN ポート 1 ～ 4**

LAN ポートをグループに分けます（初期値：グループ 1）。グループ 1 ～ 4 まで設定できます。①「LAN ポートセパレート機能」で「有効」を選択した場合のみ表示されれます。

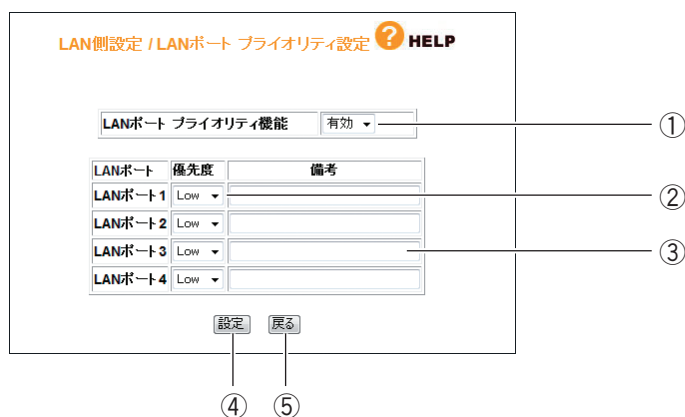
③ **［設定］**

設定した内容を保存します。

④ **［戻る］**

P.84 「3.5 LAN 側設定」に戻ります。

3.5.4　LAN ポートプライオリティ設定（CG-BARFX3VQ のみ）

LAN ポートプライオリティ機能を設定します。
詳しくは、**P.34**「1.11　LAN ポートプライオリティ機能を使用するには （CG-BARFX3VQ のみ）」をご覧ください。

① LAN ポートプライオリティ機能

LAN ポートプライオリティ機能を使用するかどうかを選択します。

・有効

LAN ポートプライオリティ機能を使用します。

・無効

LAN ポートプライオリティ機能を使用しません（初期値）。

② LAN ポート 1 ～ 4

LAN ポートの優先度を、Low（優先度を低くする）または High（優先度を高くする）のどちらかを選択します（初期値：Low）。①「LAN ポートプライオリティ機能」で「有効」を選択した場合のみ表示されます。

③ 備考

コメントを入力できます（必須ではありません）。

④ ［設定］

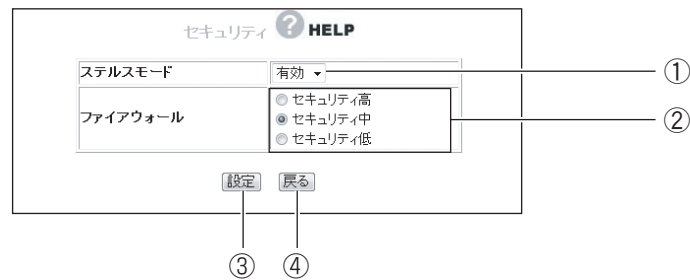
設定した内容を保存します。

⑤ ［戻る］

P.84 「3.5　LAN 側設定」に戻ります。

3.6 セキュリティ設定

WAN 側からのアクセスに対するセキュリティを設定します。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

① ステルスモード

WAN（インターネット）側への PING リクエスト（通信確認リクエスト）の応答を設定できます。

・有効

WAN 側からの PING に応答しなくなり、本商品の存在を隠せます（初期値）。

・無効

WAN 側からの PING に応答し、本商品の存在を確認できます。

② ファイアウォール

ファイアウォールを通過するパケットのデータを読み取り、内容を判断して自動的にポートを開放・閉鎖します。セキュリティが高いほど安全ですが、通信速度が遅くなる場合があります。

③［設定］

設定した内容を保存します。

④［戻る］

P.68「3.1　トップページ」に戻ります。

3.6.1　アクセス制限

本商品に接続しているパソコンから、インターネットへのアクセスの許可または禁止を設定します。

① 制限する IP アドレス

アクセスを制限したい IP アドレスの範囲を登録します。

② 制限するサービス

アクセスを制限するサービスを一覧「www（ウェブブラウズ)」、「E-mail 送信」、「E-mail 受信」、「Secure HTTP」、「FTP」、「全ての TCP ポート」、「全ての UDP ポート」、「ユーザ定義」（初期値）から選択します。

③ プロトコル

制限するサービスで「ユーザ定義」を選択した場合にプロトコルを「TCP」、「UDP」から選択します。

④ 制限するポート範囲

制限するサービスで「ユーザ定義」を選択した場合に任意のポートを指定できます。

⑤ スケジューリング（スケジュール設定を使用します）

制限する時間を選択できます。

・常に制限

常時アクセスを制限します。

・スケジュール

P.97 「3.6.4　スケジュール」で登録した時間でインターネットへのアクセスを制限します。

⑥［登録］

設定した内容で登録します。

⑦ アクセス制限テーブル（最大 10 まで）

登録されたアクセス制限を表示します。

⑧［有効］／［無効］

アクセス制限を使用しているかどうかを表示します。

［有効］をクリックすると、表示が［無効］に変わり、アクセス制限を使用しません。

［無効］をクリックすると、表示が［有効］に変わり、アクセス制限を使用します。

⑨ 修正

登録されたアクセス制限の内容を修正します。

⑩ 削除

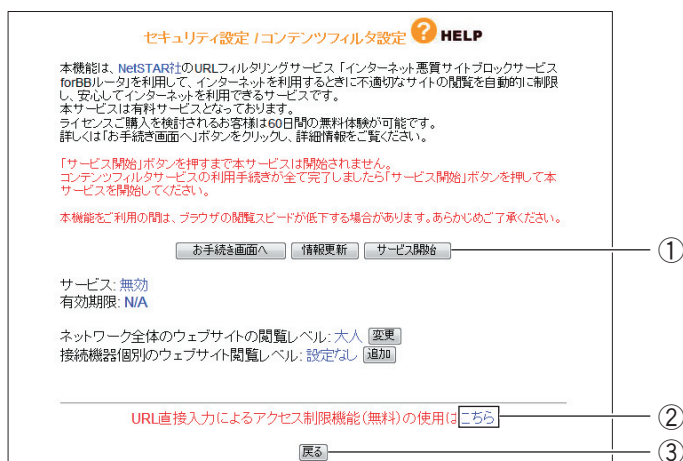
登録されたアクセス制限を削除します。

⑪［戻る］

P.92「3.6　セキュリティ設定」に戻ります。

3.6.2　コンテンツフィルタ（CG-BARFX3VQ/CG-BARFX3 のみ）

ネットスター株式会社が提供する有料サービス「インターネット悪質サイトブロックサービス for BB ルータ」（コンテンツフィルタ）を使用できます。また、URL フィルタ機能（無料）も使用できます。

本商品のルータ機能が無効の場合は使用できません。

① コンテンツフィルタ

ネットスター株式会社の「インターネット悪質サイトブロックサービス for BB ルータ」を使用して、好ましくないサイトへの接続を自動的にブロックすることができます。本機能の紹介および設定方法は、付属の「コンテンツフィルタリングで安心インターネット」をご覧ください。

② URL フィルタ

P.96「3.6.3　URL フィルタ」を設定できます。

③［戻る］

P.92「3.6　セキュリティ設定」に戻ります。

3.6.3 URL フィルタ

登録した文字列が含まれる URL へのアクセスを制限できます。

① 説明

アクセス制限の説明を付けられます。

② 制限する IP アドレス

URL フィルタの対象にするパソコンの IP アドレスを範囲指定できます。

③ URL またはキーワード

アクセスを制限したい URL やキーワードを登録します。

URL の例	http://auction.xxx.co.jp
キーワードの例	violence

④［登録］

設定した内容で登録します。

⑤ URL フィルタテーブル（最大 10 まで）

登録された URL フィルタを表示します。

⑥［有効］／［無効］

URL フィルタの現在の状態を表示します。

［有効］をクリックすると、［無効］に変わり、URL フィルタを使用しません。

［無効］をクリックすると、［有効］に変わり、URL フィルタを使用します。

⑦ 修正

登録された URL フィルタの内容を修正します。

⑧ 削除

登録された URL フィルタを削除します。

⑨［戻る］

P.92「3.6 セキュリティ設定」に戻ります。

3.6.4　スケジュール

本項目で設定した時間帯にインターネットへのアクセスを制限できます。設定した時間帯は P.93「3.6.1　アクセス制限」で指定して実行してください。

①名前

スケジュールに任意の名前を付けられます。

登録した名前は P.93「3.6.1　アクセス制限」の⑤「スケジューリング」に表示されます。

②コメント

スケジュールに説明を付けられます。

③スケジュール

時間帯を設定します。24 時間表記で入力します。

・**曜日**

制限したい曜日の「開始時間」と「終了時間」に数値を入力します。

・**開始時間**

制限を開始する時間を入力します。

・**終了時間**

制限を終了する時間を入力します。

④［登録］

設定した内容で登録します。

⑤ スケジュールテーブル（最大 10 まで）

登録されたスケジュールを表示します。

⑥ 修正

登録されたスケジュールの内容を修正します。

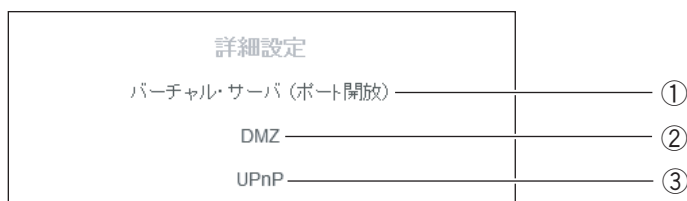
⑦ 削除

登録されたスケジュールを削除します。

⑧［戻る］

P.92 「3.6　セキュリティ設定」に戻ります。

3.7　詳細設定

本商品の詳細設定ができます。

① **バーチャル・サーバ（ポート開放）**

→ **P.99**「3.7.1　バーチャル・サーバ（ポート開放）」

② **DMZ**

→ **P.101**「3.7.2　DMZ」

③ **UPnP**

→ **P.102**「3.7.3　UPnP」

3.7.1　バーチャル・サーバ（ポート開放）

インターネットにサーバを公開するなど、インターネットにポートを開放する場合に設定します。設定方法は **P.17**「1.5　ポートを開放するには（バーチャルサーバ機能）」をご覧ください。

① **接続先**

バーチャル・サーバ機能を使用するパソコンをリストから選択します。

PC データベースに登録されたパソコンがリストに表示されます。表示されない場合は、**P.88**「■　PC データベース」でパソコンを手動で登録してください。

② サービス

使用するサービスを選択します。

③ ポート範囲

使用するポートの範囲を入力します。「詳細設定」にチェックを付けると、WAN 側と LAN 側のポート範囲を入力できます。

④ プロトコル

使用するプロトコルを設定します。

⑤ 備考

サーバに説明を付けられます。空欄のままでも使用できます。

⑥［登録］

設定した内容で登録します。

⑦ バーチャル・サーバテーブル（最大 10 まで）

登録されたバーチャル・サーバを表示します。

⑧［有効］／［無効］

バーチャル・サーバの現在の状態を表示します。

［有効］をクリックすると、［無効］に変わり、バーチャル・サーバを使用しません。

［無効］をクリックすると、［有効］に変わり、バーチャル・サーバを使用します。

⑨ 修正

登録されたバーチャル・サーバの内容を修正します。

⑩ 削除

登録されたバーチャル・サーバを削除します。

⑪［戻る］

P.99 「3.7 詳細設定」に戻ります。

- パソコンをサーバとして使用するには、パソコン上でサーバソフトを実行している必要があります。
- ダイナミック DNS（DDNS）を使用することで、より簡単に WAN 側から LAN 側のサーバに接続できます。詳しくは、P.29「1.8 ダイナミック DNS を使用して URL で接続するには」をご覧ください。

3.7.2 DMZ

インターネットにサーバを公開するなど、インターネットにポートを開放する場合で、UPnP に対応していないソフトウェアや、開放するポートがわからない場合に設定します。

P.99「3.7.1 バーチャル・サーバ（ポート開放）」を使って接続できない場合に使用します。

DMZ の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は必要な場合のみ使用してください。

- **DMZ は LAN 内の 1 台のパソコンでのみ使用できます。**
- **バーチャル・サーバで使用されているポートは、DMZ では使用できません。**

① **DMZ ホスト**

DMZ 機能を使用するパソコンを選択します。

PC データベースに登録されたパソコンがリストに表示されます。表示されない場合は、**P.88**「■ PC データベース」でパソコンを手動で登録してください。

② **[設定]**

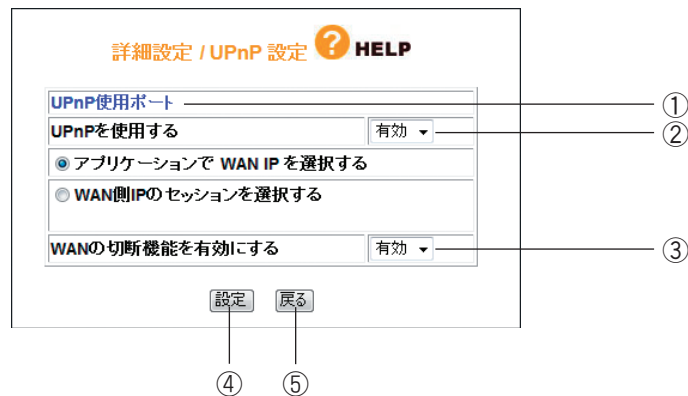
設定した内容を保存します。

③ **[戻る]**

P.99「3.7 詳細設定」に戻ります。

3.7.3 UPnP

UPnP に対応したソフトウェアを使用する場合に設定します。

UPnP 機能は Windows Vista/XP で使用できます。

※画面は、PPPoE 接続時の例です。

① UPnP 使用ポート

UPnP で使用しているポートを確認できます。クリックすると、**P.103**「■ UPnP 使用ポート」を表示します。

② UPnP を使用する

UPnP を使用するかどうかを選択します。

・有効

UPnP を使用します（初期値）。

・無効

UPnP を使用しません。

・アプリケーションで WAN IP を選択する

UPnP 対応アプリケーションで WAN 側の IP アドレスを取得するときに選択します（初期値）。PPPoE 接続時のみ表示されます。

・WAN 側 IP のセッションを選択する

UPnP を使用するセッションを選択します。チェックを付けると、「セッション -1」および「セッション -2」が表示され、どちらかを選択します。PPPoE 接続時のみ表示されます。

③ WAN の切断機能を有効にする

UPnP 機能を使用して WAN（インターネット）側を切断するかどうか選択します。

・有効

切断機能を使用します（初期値）。

・無効

切断機能を使用しません。

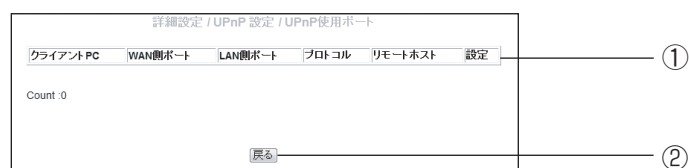
④［設定］

設定した内容を保存します。

⑤［戻る］

P.99 「3.7　詳細設定」に戻ります。

■ UPnP 使用ポート

UPnP で使用しているポートを確認できます。

① UPnP ポートリスト

使用している UPnP の内容を表示します。

②［戻る］

P.102 「3.7.3　UPnP」に戻ります。

3.8 管理

本商品のログイン名やパスワードなどを設定できます。

① 管理者ログイン名

設定画面へのログイン名を変更します（初期値：root）。

② 管理者ログイン・パスワード

設定画面へのログイン・パスワードを設定できます（初期値：空欄）。

③ パスワードの確認

管理者ログイン・パスワードを変更する場合は、確認のため②で入力したパスワードを入力します。

④ IP マスカレード・テーブル保持時間

IP マスカレードのテーブル保有時間を 0 ～ 300 分の範囲で設定できます（初期値：10 分）。

設定時間を長くすることで、FTP サーバなどへの長時間の接続に対応します。通常のインターネット接続などでは設定する必要はありません。

⑤ 設定ページへのリダイレクト機能

インターネットに接続していないときに、Web ブラウザを起動すると、自動的に本商品の設定画面が表示される機能です。

・有効

リダイレクト機能を使用します（初期値）。

・無効

リダイレクト機能を使用しません。

⑥ 時間設定

本商品の時間を設定できます。

・自動設定

NTP サーバを検出して自動で時刻を設定します（初期値）。

・手動設定

「年／月／日」「時：分：秒」を入力します。

⑦ 工場出荷時の状態へ戻す

［実行］をクリックすると本商品に設定されている内容をすべて工場出荷時（初期値）の状態に戻します。詳しくは、P.64 「2.5　工場出荷時の状態（初期値）に戻すには」をご覧ください。

⑧ 再起動

［実行］をクリックすると本商品を再起動します。詳しくは、P.62「2.4.2 設定画面で再起動する」をご覧ください。

⑨ 設定保存

［保存］をクリックすると現在の設定内容をファイルに保存できます。詳しくは、P.58 「2.3.1　バックアップする」をご覧ください。

⑩ 設定読込

［読込］をクリックすると保存した設定内容を読み込みます。詳しくは、P.60 「2.3.2　元に戻す」をご覧ください。

⑪ ファームウェア更新

P.106 「3.8.1　ファームウェア更新」を表示します。

⑫ リモート

P.107 「3.8.2　リモート」を表示します。

⑬ PING テスト

P.108 「3.8.3　PING テスト」を表示します。

本商品から PING テストを実行する場合に表示します。

⑭［設定］

設定した内容を保存します。

⑮［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑯［戻る］

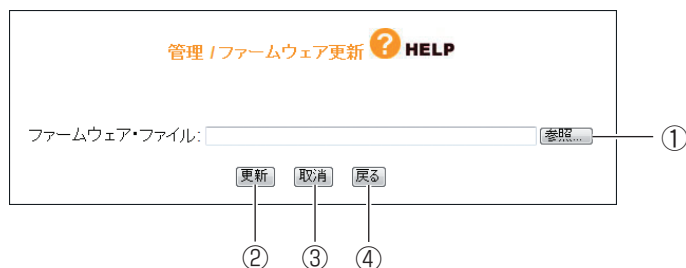
P.68 「3.1　トップページ」に戻ります。

⑦「工場出荷時の状態へ戻す」で本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定した情報が初期値に戻ります。重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに控えておいてください。

3.8.1　ファームウェア更新

コレガホームページからダウンロードした最新のファームウェアを使用して、ファームウェアを更新します。設定方法は、P.39 「2.2　最新のファームウェアを入手してアップデートするには」をご覧ください。

・ファームウェア更新中は、絶対に本商品の電源を切らないでください。
・ファームウェアの更新中にブラウザの操作をすると、ファームウェアの更新は中断されます。

ファームウェアの更新は、P.39「2.2 最新のファームウェアを入手してアップデートするには」の手順に従ってください。

① ［参照］

ダウンロードしたファームウェアの保存先を選択します。

② ［更新］

ファームウェアファイルを選択後、［更新］をクリックするとファームウェアの更新を開始します。

③ ［取消］

ファームウエアの更新を中断します。

④ ［戻る］

P.104 「3.8　管理」に戻ります。

3.8.2　リモート

WAN（インターネット）側から本商品の設定画面を表示する場合にあらかじめこの設定をします。

① リモート設定

リモート設定の有効／無効を選択します。

・有効

WAN 側から本商品を設定できます。

・無効

WAN 側から本商品を設定できません（初期値）。

② ポート

リモート設定を有効にした場合に 1 ～ 9600 の範囲でポート番号を入力します（初期値：8080）。

③ ［設定］

設定した内容を保存します。

④ ［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑤ ［戻る］

P.104「3.8　管理」に戻ります。

・リモート機能で設定したポート番号は、バーチャル・サーバなどでは使用できません。

・インターネット側（WAN 側）から接続する場合は、次の例のようにWAN 側 IP アドレスの後ろにポート番号を指定します。WAN 側の IP アドレスは P.110「3.9 ステータス」で確認できます。

・ダイナミック DNS（DDNS）を使用することで、IP アドレスではなくダイナミック DNS 名で接続できます。

3.8.3 PING テスト

本商品に接続しているほかのパソコンが、通信できる状態かどうかを確認できます。

① **宛先アドレス**

テストを実行するパソコンの IP アドレスを入力します。

② **［実行］**

①で IP アドレスを入力後、［実行］をクリックすると PING テストを開始します。

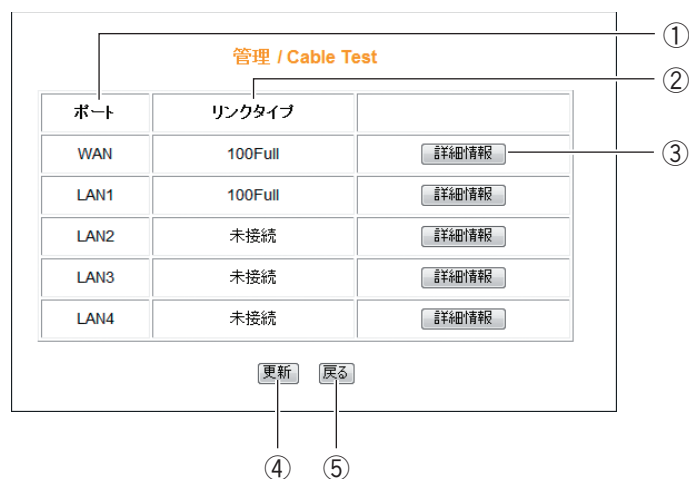
③ **［戻る］**

P.104「3.8 管理」に戻ります。

④ **宛先／実行結果**

PING テストの結果が表示されます。

3.8.4　Cable Test

使用しているポートのリンク速度を表示します。

① ポート

WAN、LAN1 ～４それぞれの状態を確認できます。

② リンクタイプ

接続状態を「100Full」、「100Half」、「10Full」、「10Half」、「未接続」で表示します。

③［詳細情報］

詳細情報を表示します。

④［更新］

表示内容を更新します。

⑤［戻る］

P.104「3.8　管理」に戻ります。

3.9 ステータス

本商品のステータスを表示します。

■ IP 自動取得（DHCP）の場合

①［開放］

WAN 側 IP アドレスを開放します。

②［再取得］

WAN 側 IP アドレスを再取得します。

③［更新］

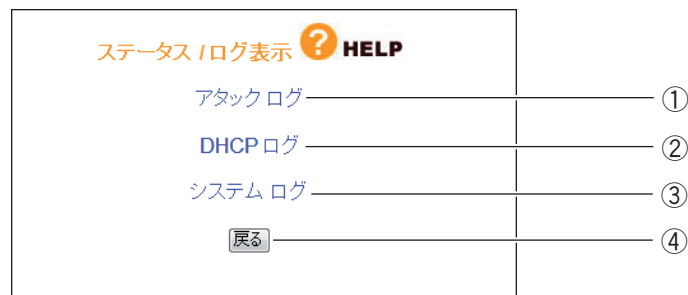
表示している情報を更新します。

■ PPPoE の場合

① ［更新］

表示している情報を更新します。

3.9.1　ログ表示

本体のログ情報を表示します。

① **アタックログ**

DoS アタック※が発生したときに、そのログを保存します。

※インターネットに接続しているパソコンやルータなどに大量の不正なデータを送り、使用不能にさせる不正アクセスの 1 つです。

② **DHCP ログ**

本商品の DHCP サーバ機能の稼働状況を表示します。

③ **システムログ**

本商品のアクセス履歴などを表示します。

④ **［戻る］**

P.110「3.9　ステータス」に戻ります。

corega

第 4 章
パソコンのネットワーク設定

本章では、パソコンのネットワーク設定、Web ブラウザの設定について説明します。

4

4.1　パソコンの IP アドレスを確認するには

ネットワークやインターネットに接続できないときは、パソコンに IP アドレスが割り当てられていないか、設定されていない可能性があります。ここでは、パソコンのIP アドレスを確認する方法を説明します。

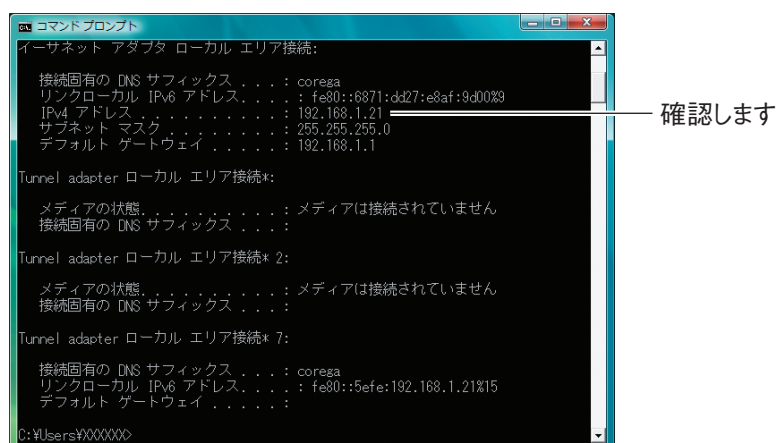
→P.114「4.1.1　Windows Vista の場合」
→P.115「4.1.2　Windows XP の場合」
→P.116「4.1.3　Windows 2000 の場合」
→P.117「4.1.4　Windows Me/98SE の場合」
→P.118「4.1.5　Macintosh の場合」

4.1.1　Windows Vista の場合

次の手順で、パソコンに設定されている IP アドレスを確認できます。

1　[スタート] をクリックし、キーボードで「cmd」と入力して、Enter キーを押します。

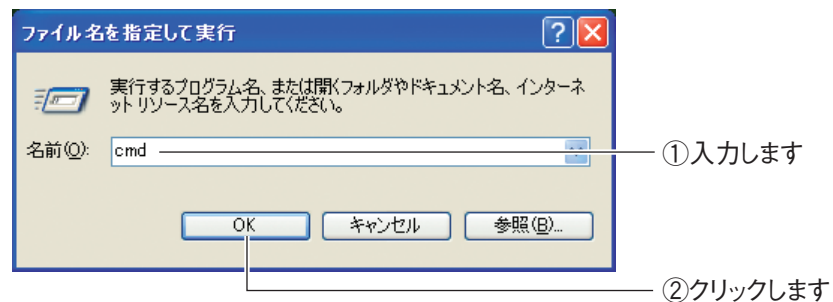
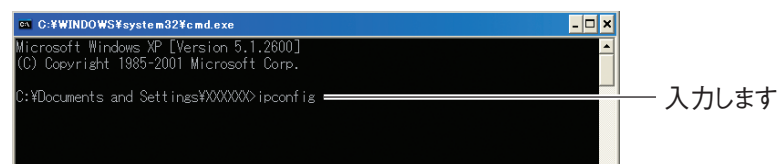
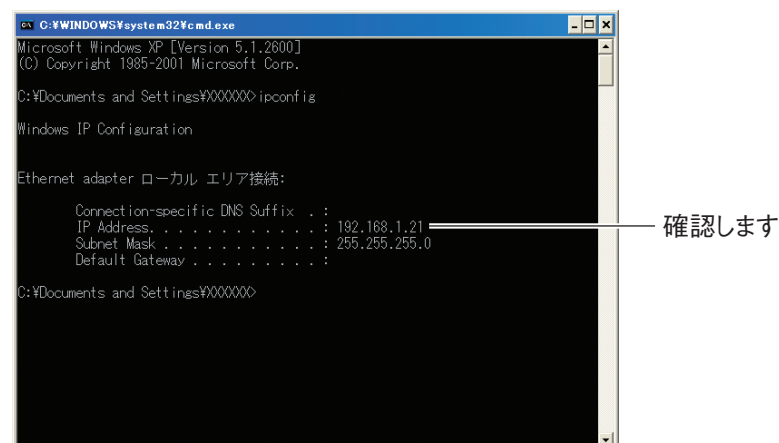
2　コマンドプロンプトが表示されます。キーボードで「ipconfig」と入力し、Enter キーを押します。

3　パソコンに設定されている IP アドレスが表示されます。

※画面は、「192.168.1.21」に設定されている例です。

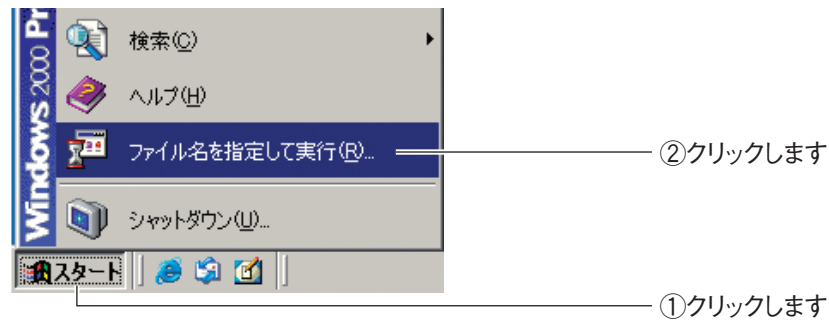
4.1.2　Windows XP の場合

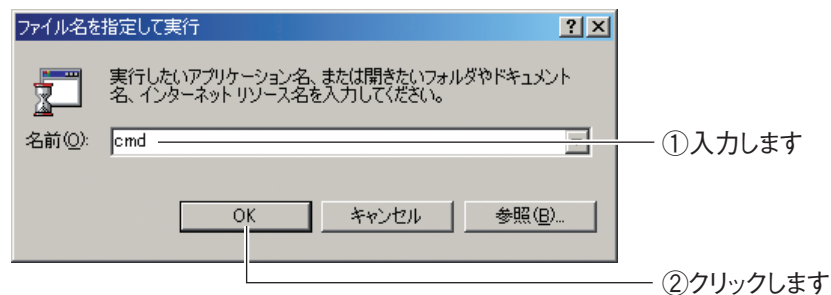
次の手順で、パソコンに設定されている IP アドレスを確認できます。

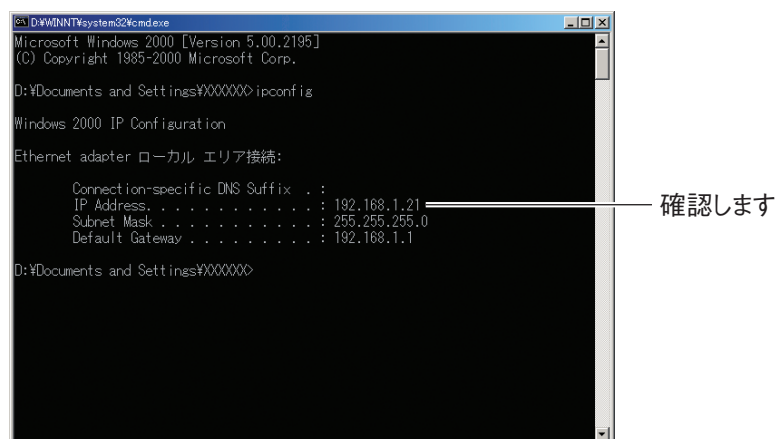
1　［スタート］－「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2　キーボードで「cmd」と入力し、［OK］をクリックします。

3　コマンドプロンプトが表示されます。キーボードで「ipconfig」と入力し、Enter キーを押します。

4　パソコンに設定されている IP アドレスが表示されます。

※画面は、「192.168.1.21」に設定されている例です。

4.1.3 Windows 2000 の場合

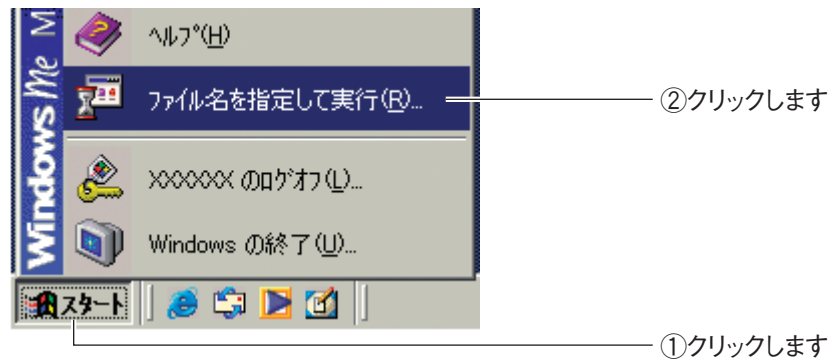
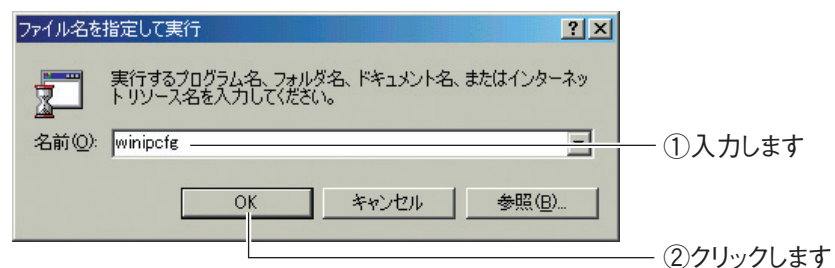
次の手順で、パソコンに設定されている IP アドレスを確認できます。

1 [スタート] –「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 キーボードで「cmd」と入力し、[OK] をクリックします。

3 コマンドプロンプトが表示されます。キーボードで「ipconfig」と入力し、Enter キーを押します。

4 パソコンに設定されている IP アドレスが表示されます。

※画面は、「192.168.1.21」に設定されている例です。

4.1.4　Windows Me/98SE の場合

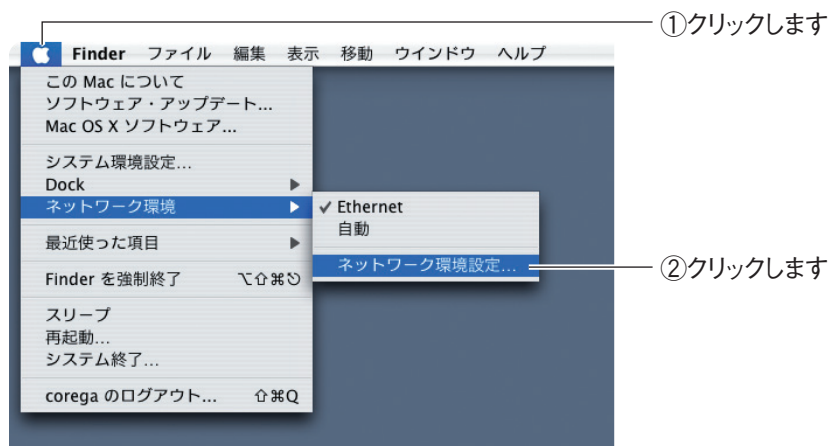
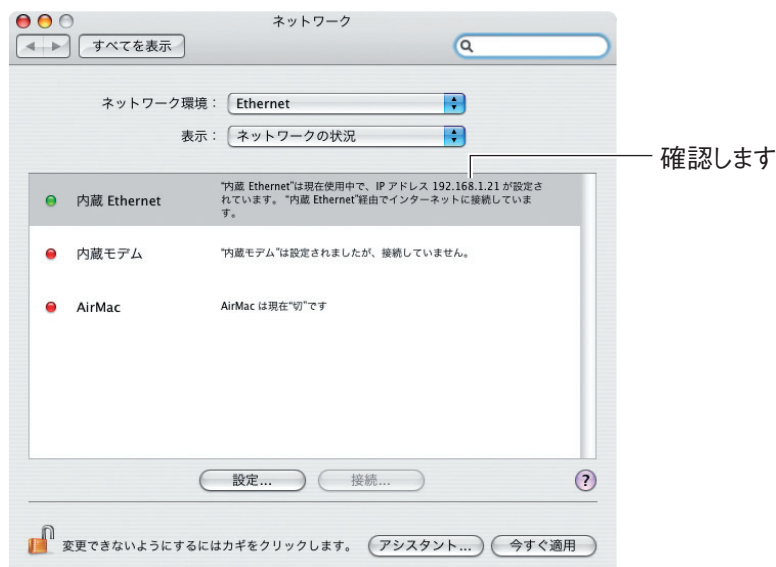
次の手順で、パソコンに設定されている IP アドレスを確認できます。

1　［スタート］－「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2　キーボードで「winipcfg」と入力し、［OK］をクリックします。

3　パソコンに設定されている IP アドレスが表示されます。

※画面は、「192.168.1.21」に設定されている例です。

4.1.5 Macintosh の場合

次の手順で、パソコンに設定されている IP アドレスを確認できます。

1 **アップルメニューをクリックし、「ネットワーク環境」－「ネットワーク環境設定」の順にクリックします。**

2 **パソコンに設定されている IP アドレスが表示されます。**

※画面は、「192.168.1.21」に設定されている例です。

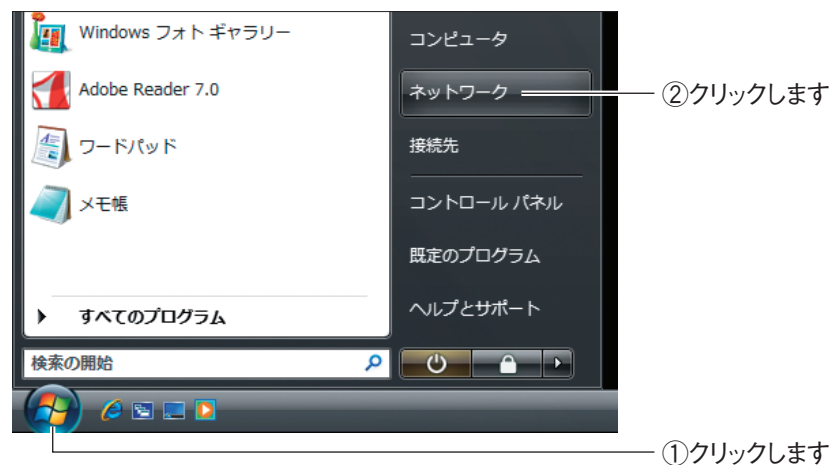
4.2　パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認するには

本商品の設定画面が開かないときは、IP アドレスが自動取得になっていることを確認する必要があります。ここでは、IP アドレスが自動取得になっていることを確認する手順を説明します。

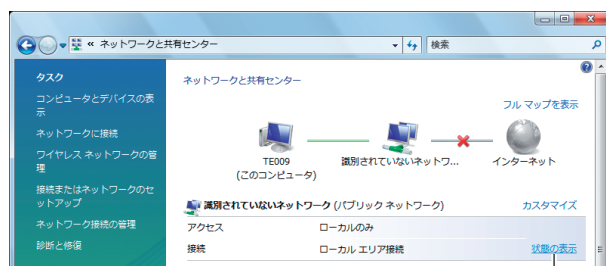
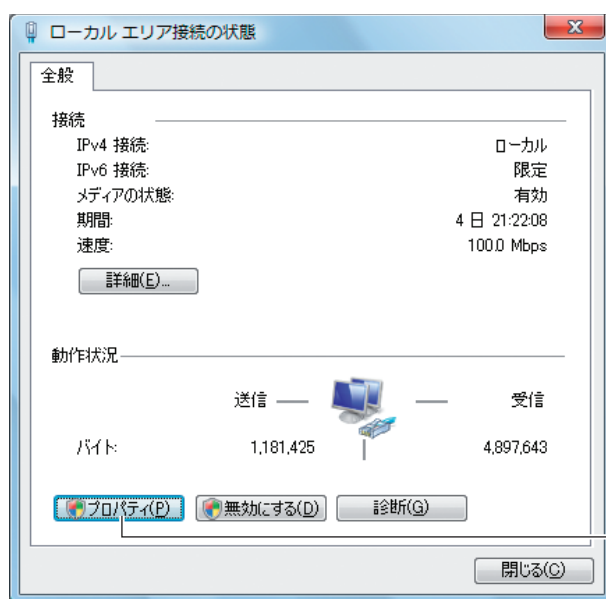
→ P.119「4.2.1　Windows Vista の場合」
→ P.123「4.2.2　Windows XP の場合」
→ P.126「4.2.3　Windows 2000 の場合」
→ P.128「4.2.4　Windows Me/98SE の場合」
→ P.131「4.2.5　Macintosh の場合」

4.2.1　Windows Vista の場合

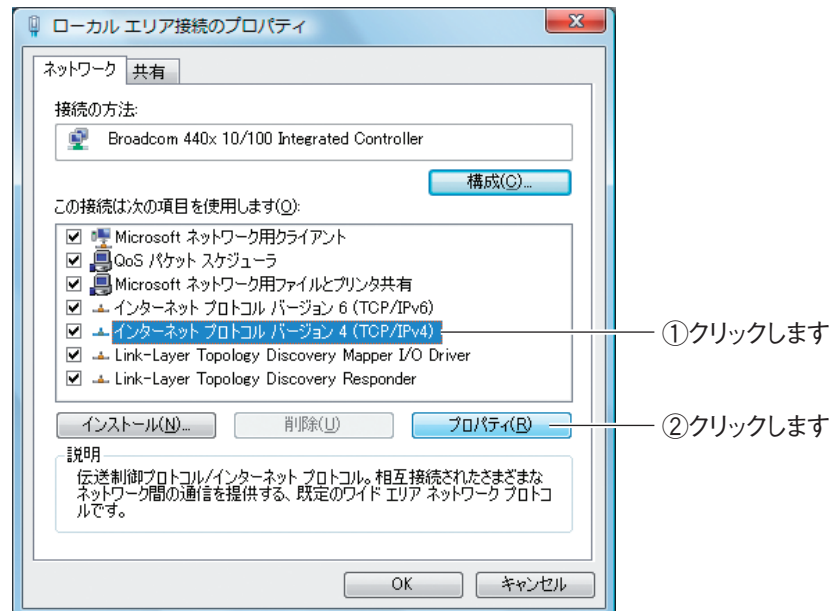
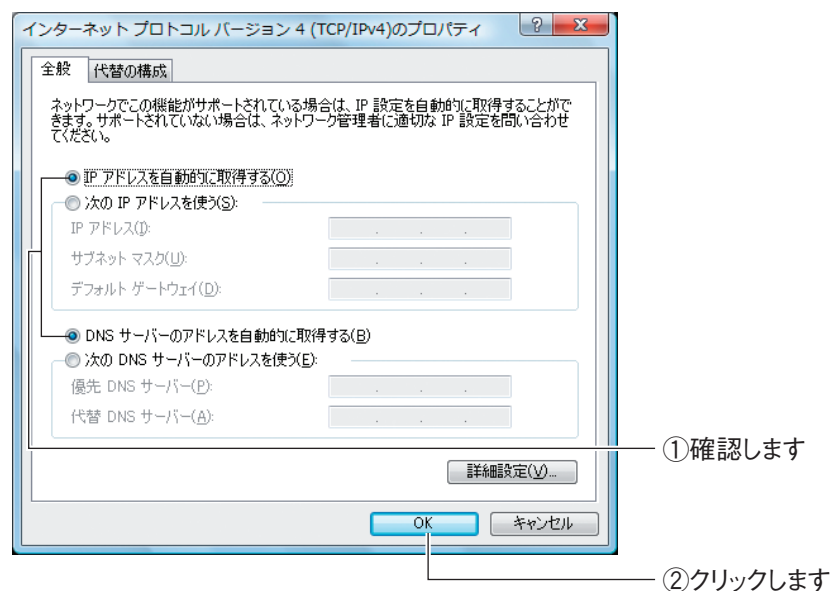
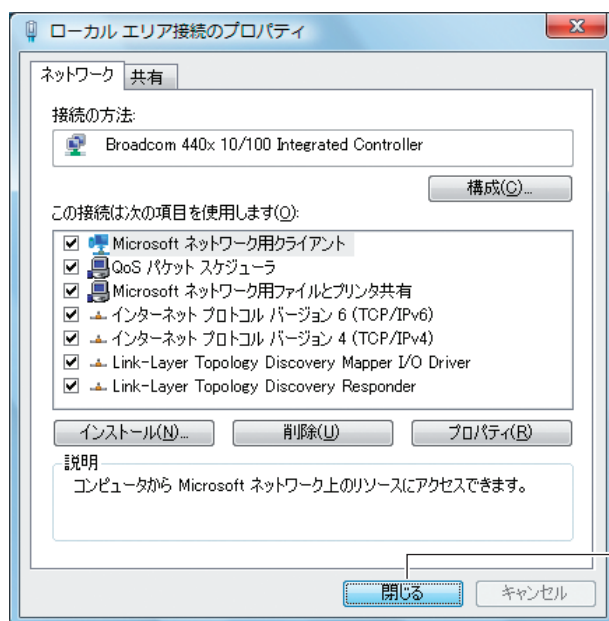
次の手順で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認できます。

1　［スタート］－「ネットワーク」の順にクリックします。

2　「ネットワークと共有センター」をクリックします。

※画面は、CG-BARFX3VQ に接続している例です。

3 ローカルエリア接続の「状態の表示」をクリックします。

4 ［プロパティ］をクリックします。

5 「ユーザーアカウント制御」画面で、［続行］をクリックします。

6 「インターネットプロトコルバージョン４（TCP/IPv4)」をクリックして、［プロパティ］をクリックします。

7 「IP アドレスを自動的に取得する」および「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が選択されていることを確認し、［OK］をクリックします。

8 ［閉じる］をクリックします。

9 ［閉じる］をクリックします。

以上で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることが確認できました。

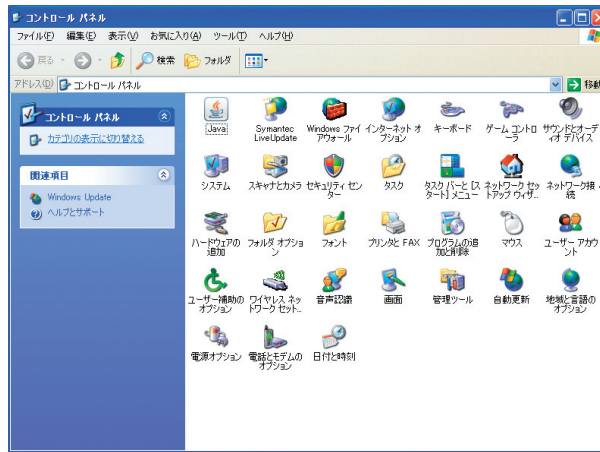
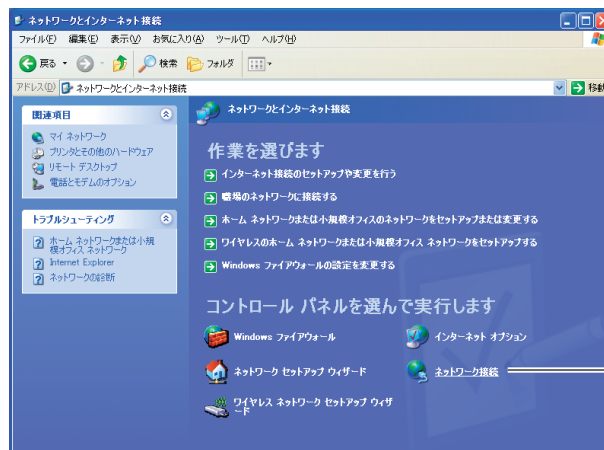
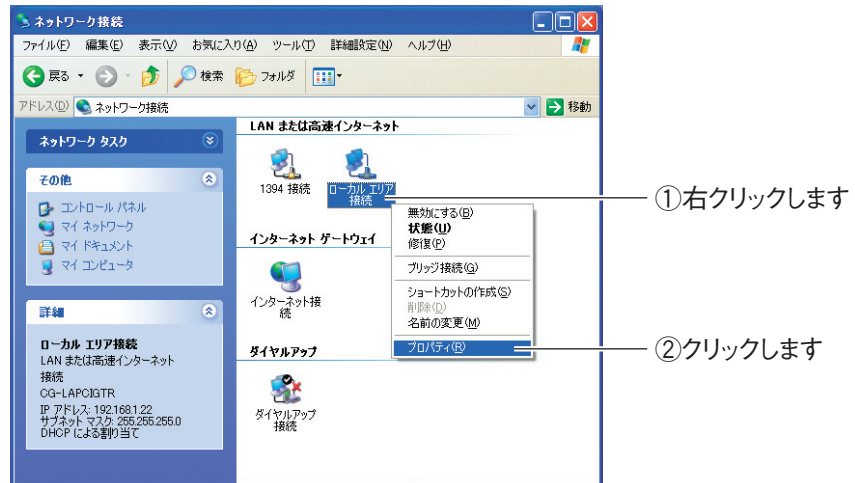
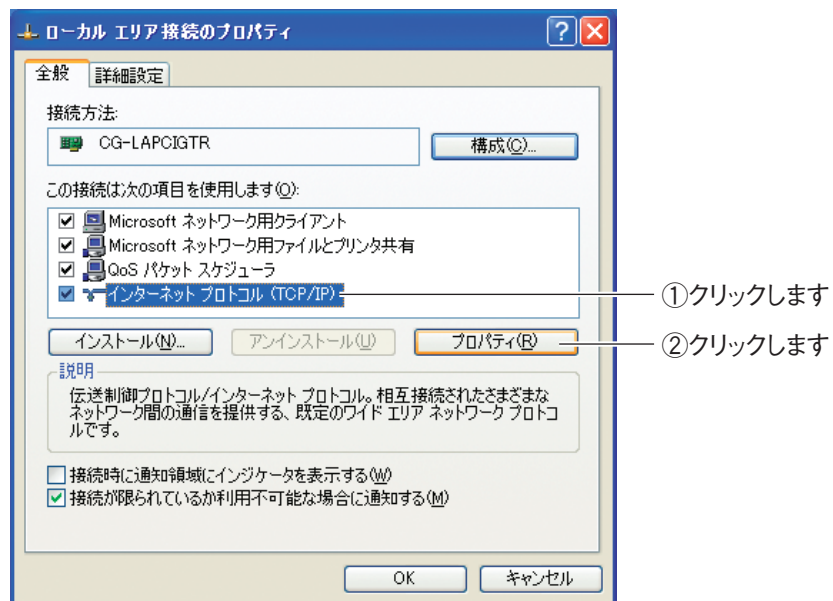
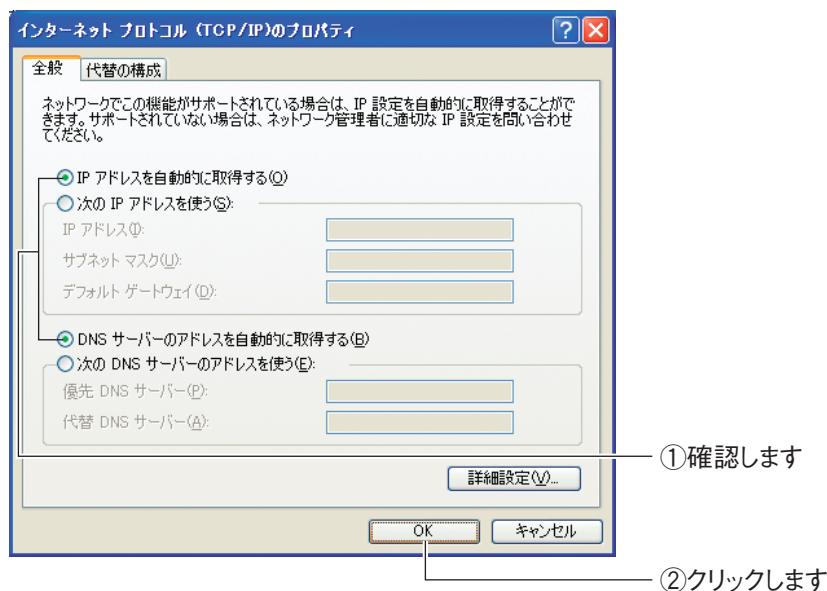
4.2.2　Windows XP の場合

次の手順で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認できます。

1　［スタート］－「コントロールパネル」の順にクリックします。

2　「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

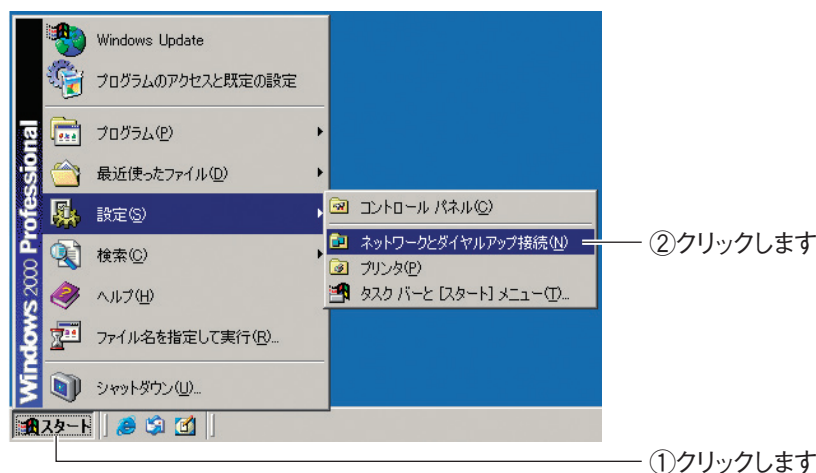
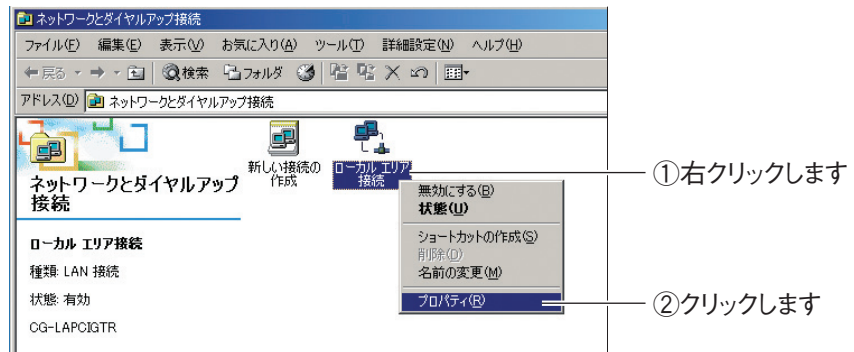
4

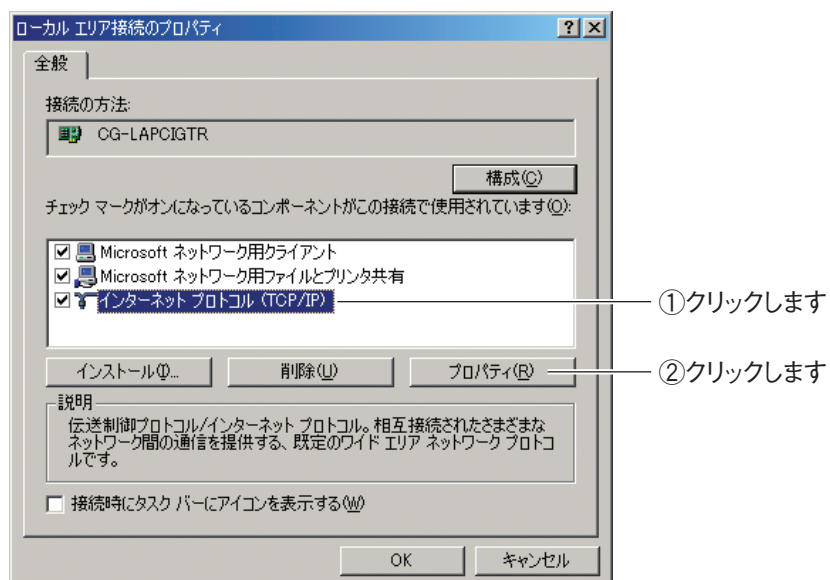
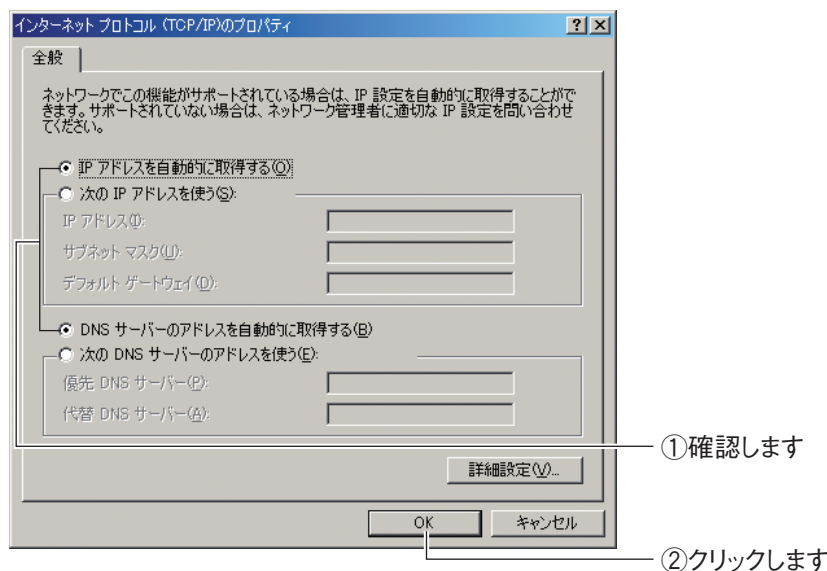
下記のようにクラシック表示の場合は、「ネットワーク接続」をダブルクリックすると手順 4 の画面が表示されます。

3 「ネットワーク接続」をクリックします。

4　「ローカルエリアエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

5　「インターネットプロトコル（TCP/IP）」をクリックし、［プロパティ］をクリックします。

6　「IP アドレスを自動的に取得する」および「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。

7　手順 5 の画面が表示されますので、[OK] をクリックします。

以上で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることが確認できました。

4.2.3　Windows 2000 の場合

次の手順で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認できます。

1　[スタート] ―「設定」―「ネットワークとダイヤルアップ接続」の順にクリックします。

2　「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

3　「インターネットプロトコル（TCP/IP）」をクリックし、［プロパティ］をクリックします。

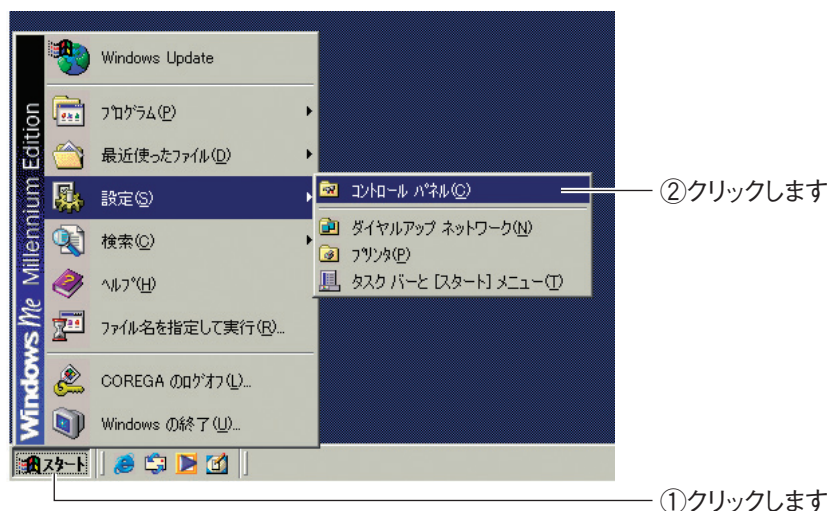
4

4 「IP アドレスを自動的に取得する」および「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。

5 手順 3 の画面が表示されますので、[OK] をクリックします。

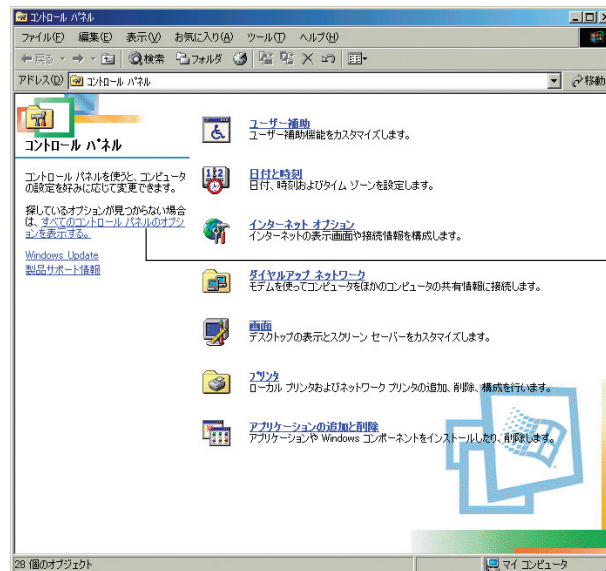
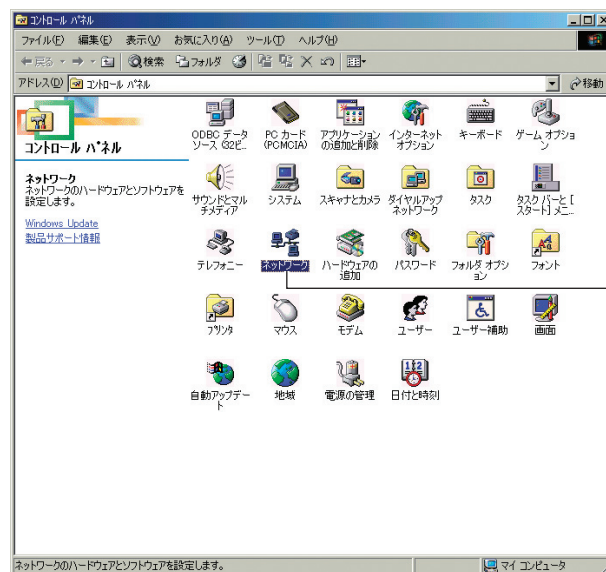
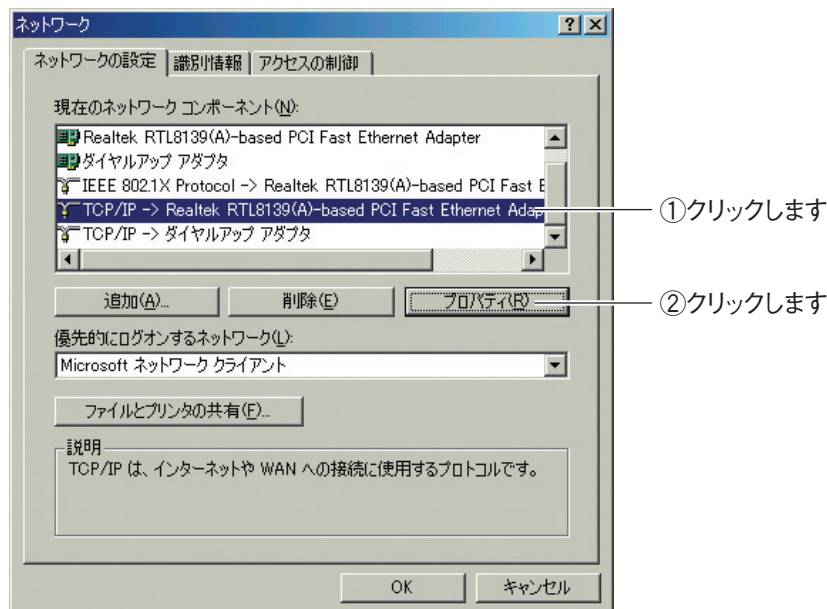
以上で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることが確認できました。

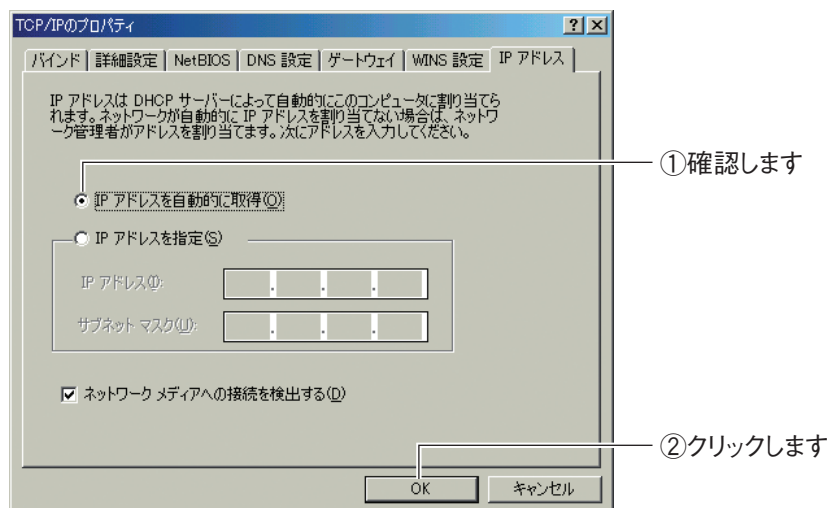
4.2.4 Windows Me/98SE の場合

次の手順で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認できます。

※画面は Windows Me の例です。

1 [スタート] ー「設定」ー「コントロールパネル」の順にクリックします。

Windows 98SE をお使いの場合は、手順 3 に進みます。

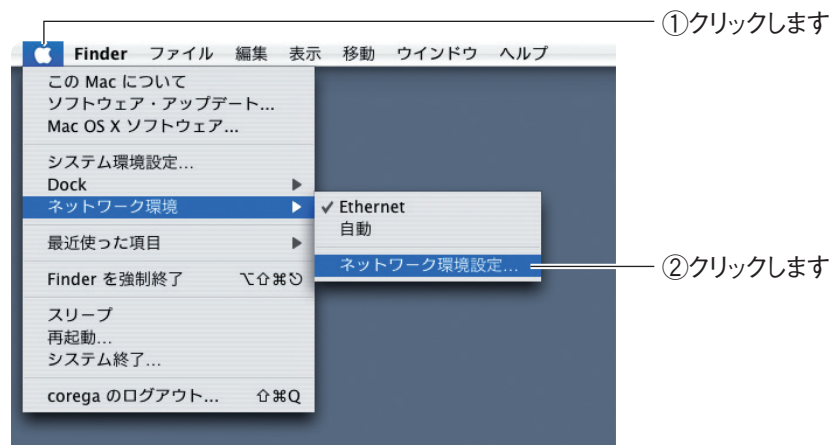
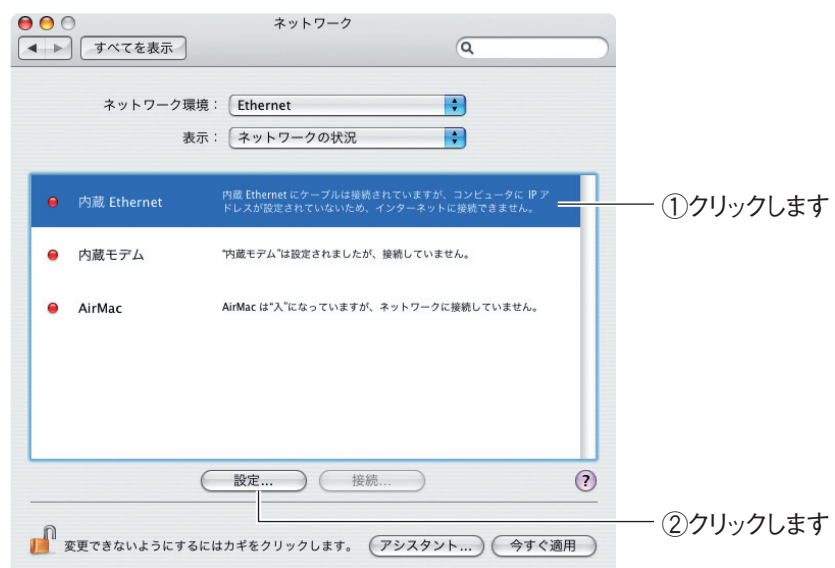
2　Windows Me をお使いの場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックします。この画面が表示されない場合は、手順３に進みます。

3　「ネットワーク」をダブルクリックします。

4 「TCP/IP ー >（お使いのネットワークアダプタ名）」をクリックし、［プロパティ］をクリックします。

※画面は例です。お使いのネットワークアダプタによって異なります。

5 「IP アドレスを自動的に取得」が選択されていることを確認し、［OK］をクリックします。

6 手順 4 の画面が表示されますので、［OK］をクリックします。

以上で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることが確認できました。

4.2.5　Macintosh の場合

次の手順で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認できます。

1　**アップルメニューをクリックし、「ネットワーク環境」－「ネットワーク環境設定」の順にクリックします。**

2　**「内蔵 Ethernet」をクリックし、［設定］をクリックします。**

3 「IPv4 の設定」項目で、「DHCP サーバを参照」が選択されていることを確認します。

選択されていない場合は、「DHCP サーバを参照」を選択し、［今すぐ適用］をクリックします。

以上で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることが確認できました。

4.3　OS のファイアウォール機能を無効にするには

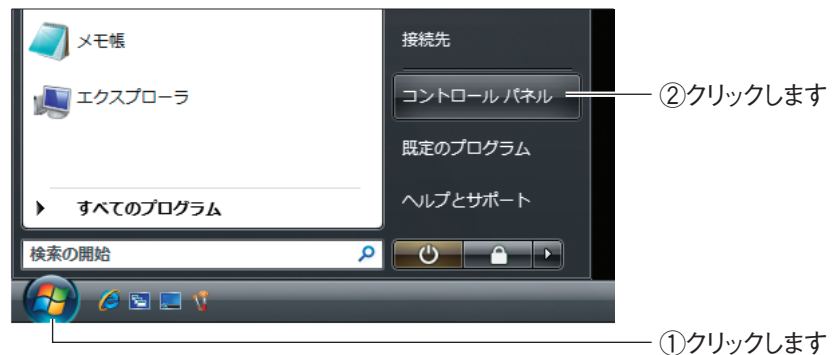
OS のファイアウォール機能を使用していると、本商品の設定画面が表示されなかったり、正しく設定されなかったりする可能性があります。次の手順で、OSのファイアウォール機能を無効にしてください。

本商品の設定が終了したら、必ずファイアウォールの設定を元に戻してください。

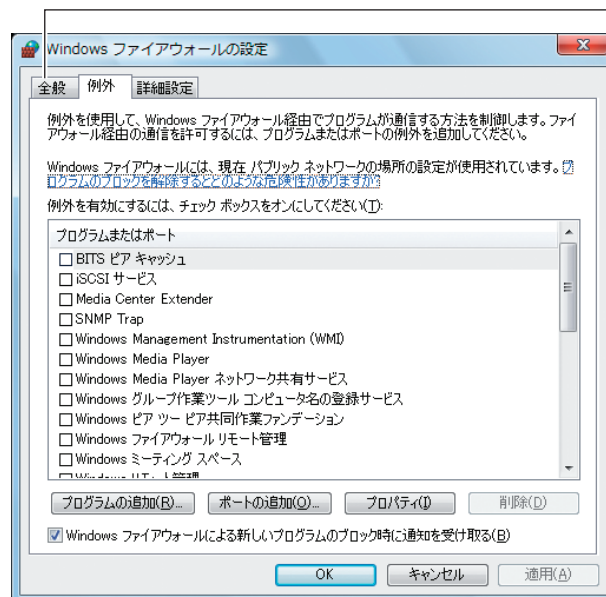
→P.133「4.3.1　Windows Vista の場合」
→P.136「4.3.2　Windows XP SP2 の場合」

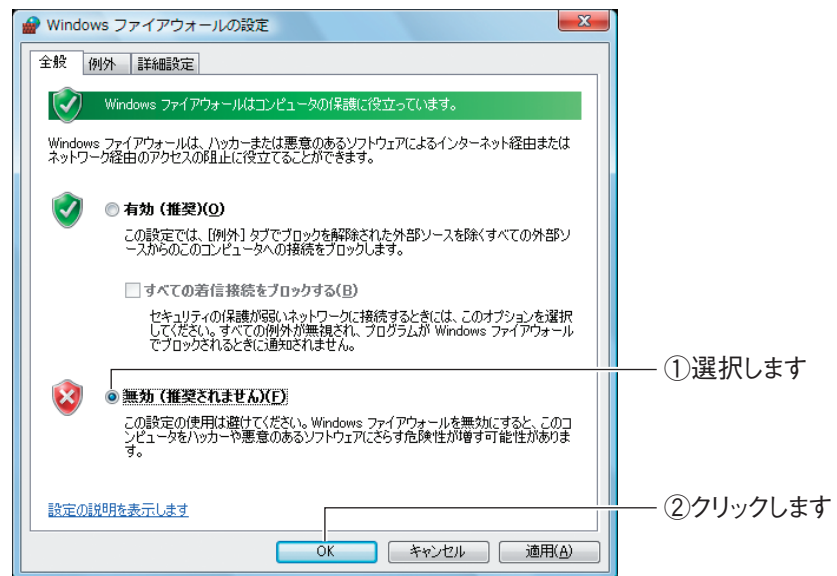
4.3.1　Windows Vista の場合

次の手順で、OS のファイアウォール機能を無効にできます。

1　［スタート］－「コントロールパネル」の順にクリックします。

2　「コントロールパネル」が表示されます。「Windows ファイアウォールによるプログラムの許可」をクリックします。

下記のようにクラシック表示の場合は、「コントロールパネルホーム」をクリックすると手順 2 の画面が表示されます。

3 「ユーザーアカウント制御」画面で、［続行］をクリックします。

4 全般タブをクリックします。

5　「無効（推奨されません）」を選択し、［OK］をクリックします。

以上でファイアウォールが無効になりました。

本商品の設定が終了したら、必ずファイアウォールの設定を元に戻してください。

4

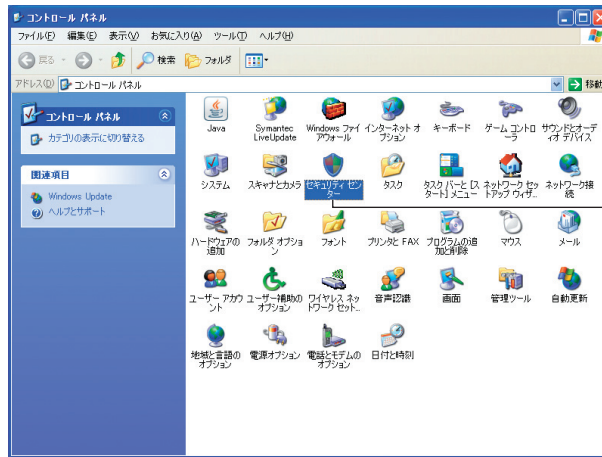
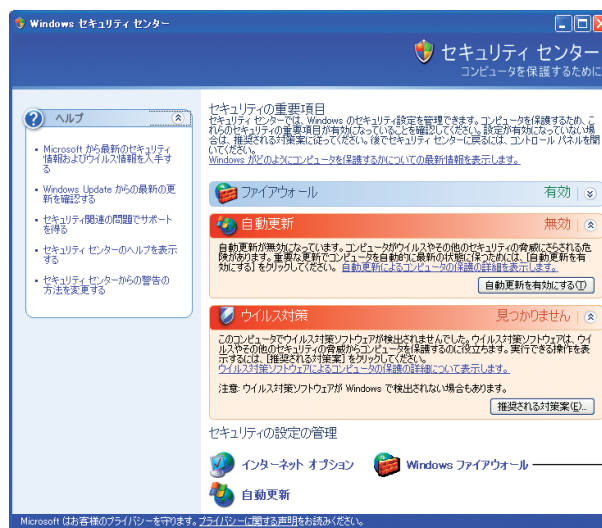
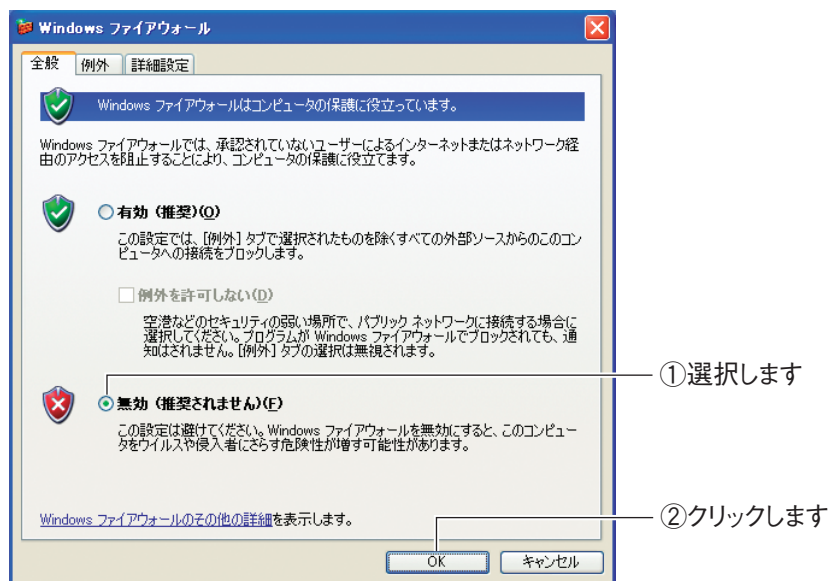
4.3.2 Windows XP SP2 の場合

次の手順で、OS のファイアウォール機能を無効にできます。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」の順にクリックします。

2 「コントロールパネル」が表示されます。「セキュリティセンター」をクリックします。

メモ

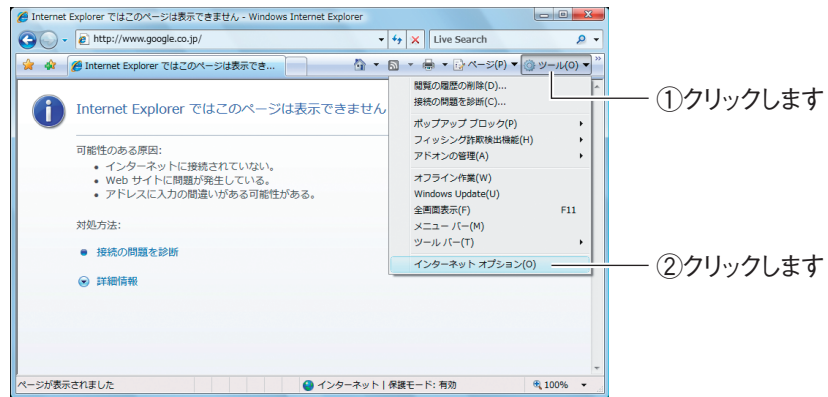
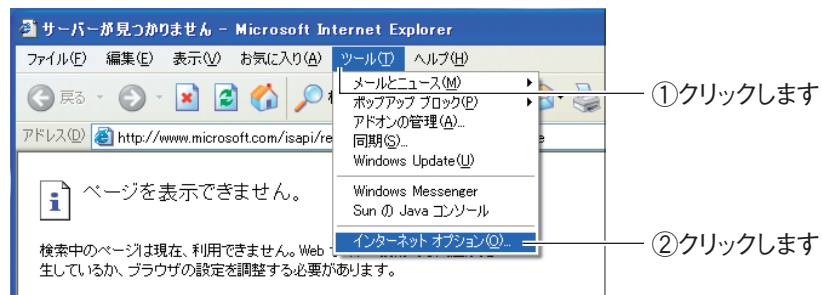
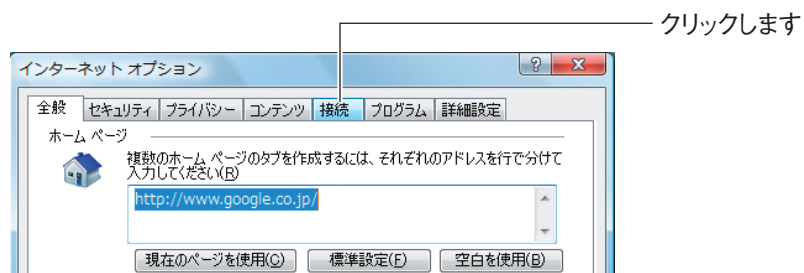
下記のようにクラシック表示の場合は、「セキュリティセンター」をダブルクリックします。

3　「Windows ファイアウォール」をクリックします。

4 「無効（推奨されません)」を選択し、[OK］をクリックします。

以上でファイアウォールが無効になりました。

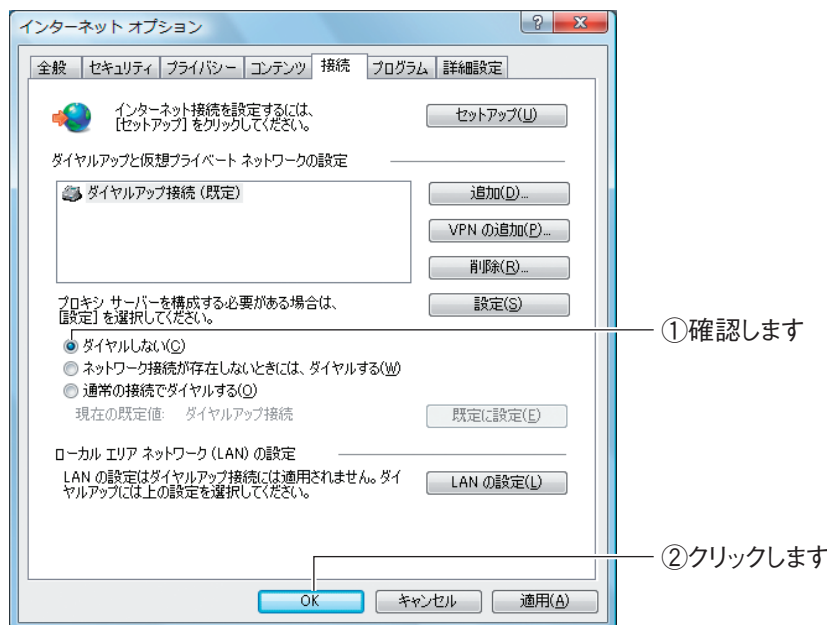
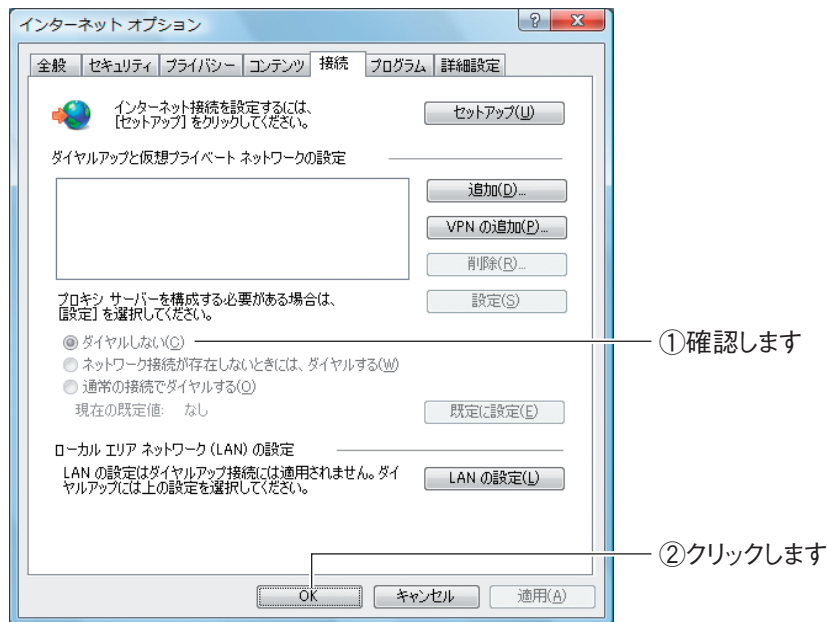
本商品の設定が終了したら、必ずファイアウォールの設定を元に戻してください。

4.4　ダイヤルアップ接続を使用していないことを確認するには

ダイヤルアップ接続を使用していると、本商品を使わずにダイヤルアップ接続でインターネット接続してしまいます。本商品を使ってインターネットに常時接続するには、次の手順でダイヤルアップ接続を使用していないことを確認してください。

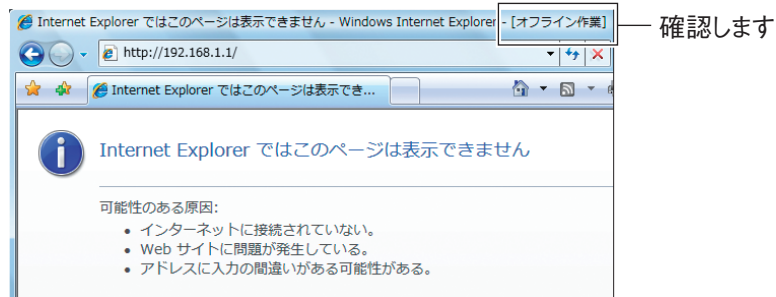
1　**Internet Explorer を起動し、「ツール」－「インターネットオプション」の順にクリックします。**

● Internet Explorer ７の場合

● Internet Explorer ６の場合

2　**接続タブをクリックします。**

3 「ダイヤルしない」が選択されているか、またはグレーアウトされて選択できないことを確認し、［OK］をクリックします。

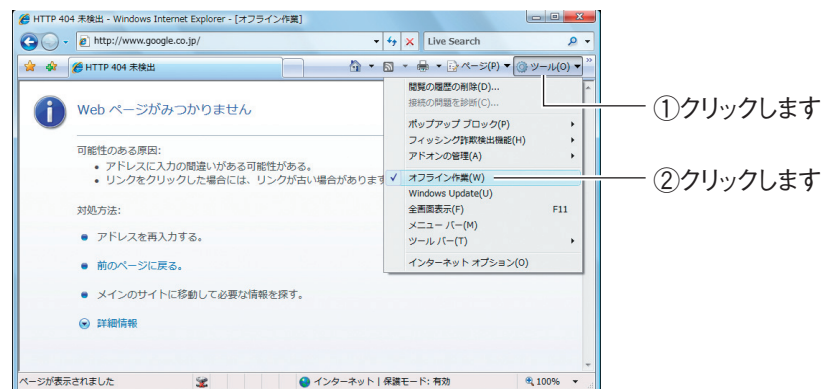
●「ダイヤルしない」を選択している場合

●グレーアウトしている場合

以上で、ダイヤルアップ接続を使用していないことを確認できました。

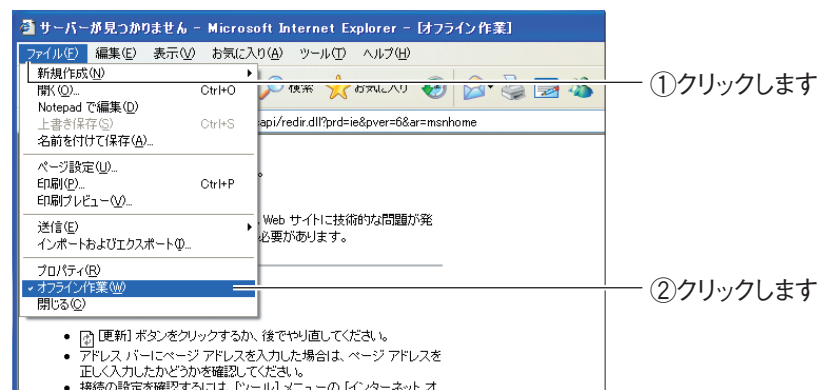
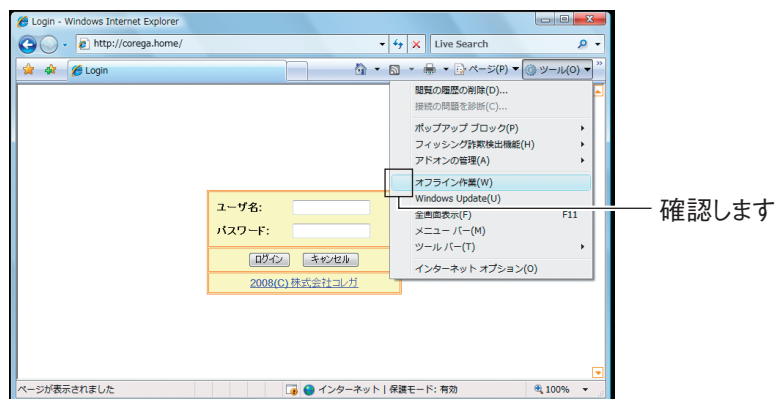
4.5　Internet Explorer がオフラインになっていないことを確認するには

Internet Explorer がオフラインになっているときは、インターネットに接続できません。次の手順で、Internet Explorer がオフラインになっていないことを確認できます。

1　Internet Explorer を起動します。オフラインになっていると、タイトルバーに［オフライン作業］と表示されます。

2　「オフライン作業」のチェックを外します。

● Internet Explorer 7 の場合

「ツール」－「オフライン作業」の順にクリックして、チェックを外します。

● Internet Explorer 6 の場合

「ファイル」－「オフライン作業」の順にクリックして、チェックを外します。

3 「オフライン作業」のチェックが外れ、タイトルバーに［オフライン作業］が表示されていないことを確認します。

以上で、Internet Explorer がオフラインになっていないことが確認できました。

4.6　プロキシサーバを使用していないことを確認するには

プロキシサーバを使用するようにブラウザで設定していると、本商品の設定画面が表示されなかったり、正しく設定されなかったりする可能性があります。次の手順で、プロキシサーバを使用していないことを確認してください。

→ P.143「4.6.1　Windows の場合」
→ P.145「4.6.2　Macintosh の場合」

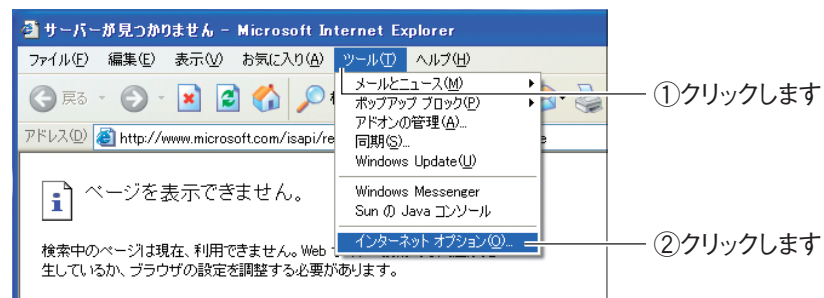
4.6.1　Windows の場合

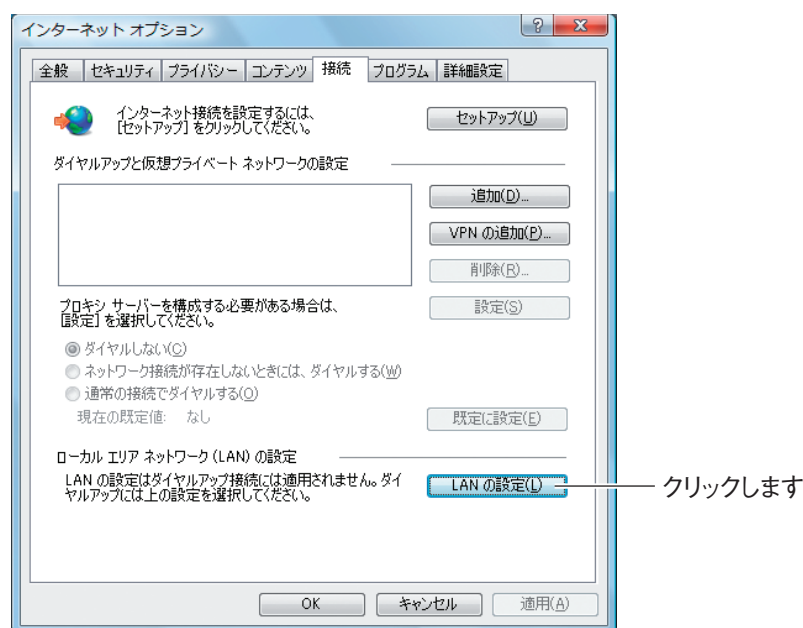
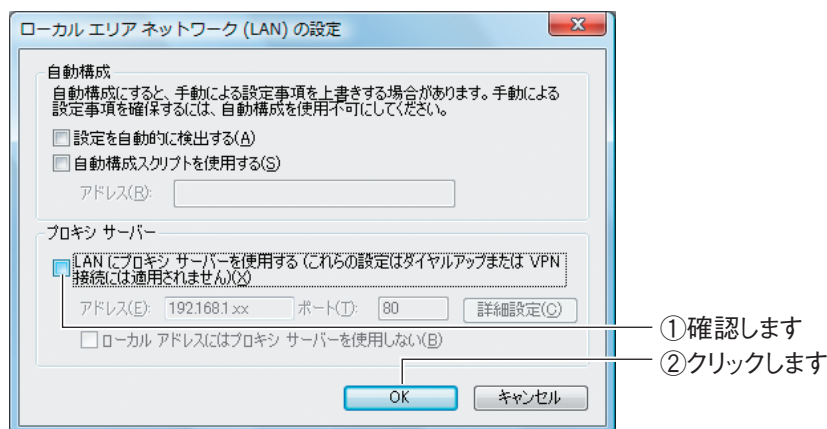
次の手順で、プロキシサーバを使用していないことを確認できます。

1　**Internet Explorer を起動し、「ツール」－「インターネットオプション」の順にクリックします。**

● Internet Explorer 7 の場合

● Internet Explorer 6 の場合

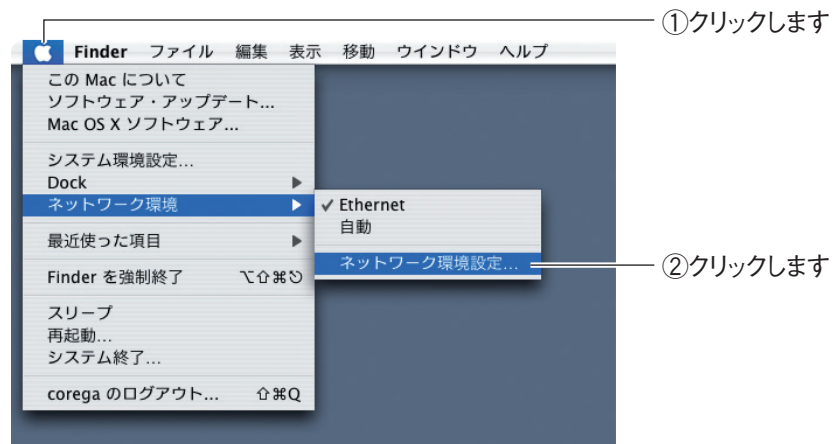
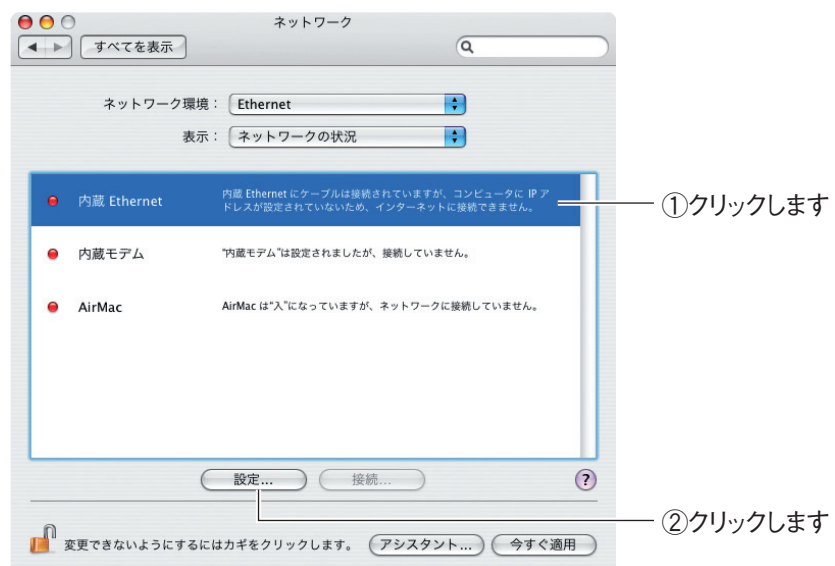
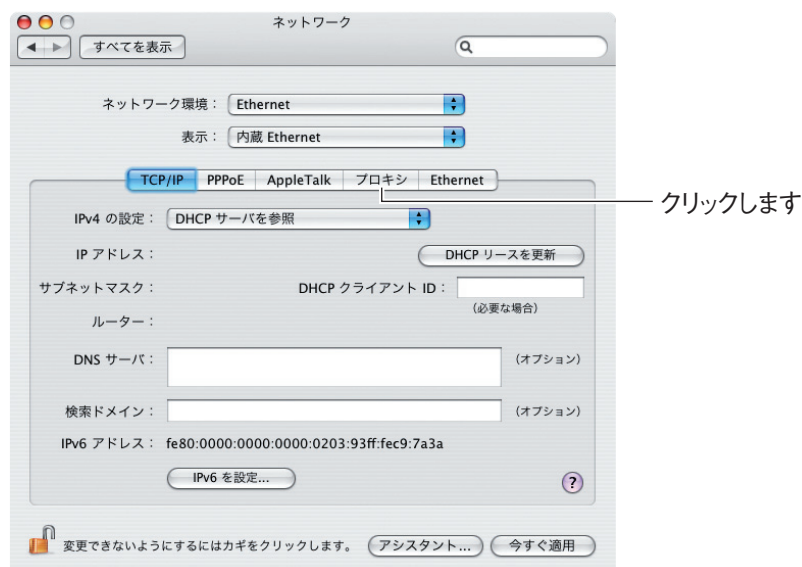
4

2 接続タブをクリックします。

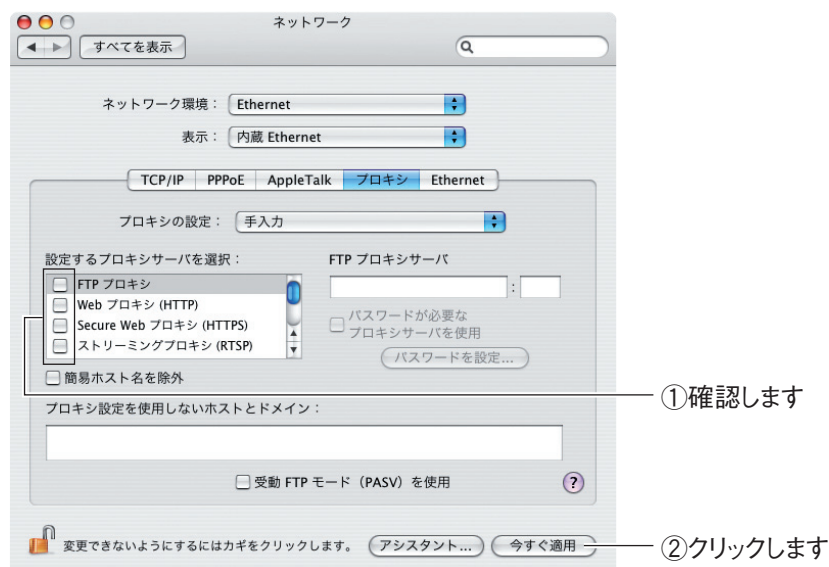
3 [LAN の設定] をクリックします。

4 「LAN にプロキシサーバーを使用する」にチェックが付いていないことを確認し、[OK] をクリックします。

5 手順 3 の画面が表示されます。[OK] をクリックします。

以上で、プロキシサーバを使用していないことが確認できました。

4.6.2　Macintosh の場合

次の手順で、プロキシサーバを使用していないことを確認できます。

1　**アップルメニューをクリックし、「ネットワーク環境」－「ネットワーク環境設定」の順にクリックします。**

2　**「内蔵 Ethernet」をクリックし、［設定］をクリックします。**

3 「プロキシ」をクリックします。

4 「設定するプロキシサーバを選択」項目にチェックが付いていないことを確認し、［今すぐ適用］をクリックします。

チェックが付いている場合はクリックしてチェックを外し、［今すぐ適用］をクリックします。

以上で、プロキシサーバを使用していないことが確認できました。

MAC アドレスについて

ご契約されているプロバイダやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、ADSL モデムなど直接接続するネットワーク機器（本商品も含むパソコンなど）の MAC アドレスをプロバイダに事前申請してください。

本商品の WAN 側の MAC アドレスは本体左側面の製品ラベル内の「ネットワーク名（SSID/MAC）」に記載されています。LAN 側の MAC アドレスは、P.110「3.9 ステータス」で確認できます。

おことわり

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正、改訂することがあります。

また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

本商品は国内仕様となっており、外国の規格などには準拠しておりません。日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

本商品は、GNU General Public License Version 2 に基づき許諾されるソフトウェアのソースコードを含んでいます。これらのソースコードはフリーソフトウェアです。お客様は、Free Software Foundationが定めたGNU General Public License Version 2の条件に従ってこれらのソースコードを再頒布または変更することができます。これらのソースコードは有用と思いますが、頒布にあたっては、市場性および特定目的適合性についての暗黙の保証を含めて、いかなる保証もしません。詳細については、コレガホームページ内の「GNU 一般公有使用許諾書（GNU General Public License）」をお読みください。なお、ソースコードの入手をご希望されるお客様は、コレガホームページ、サポート情報内の個別製品の「ダウンロード情報」をご覧ください。配布時に発生する費用はお客様のご負担になります。

2008年　5月　初　版

2009年　10月　第二版